

特108-862イ



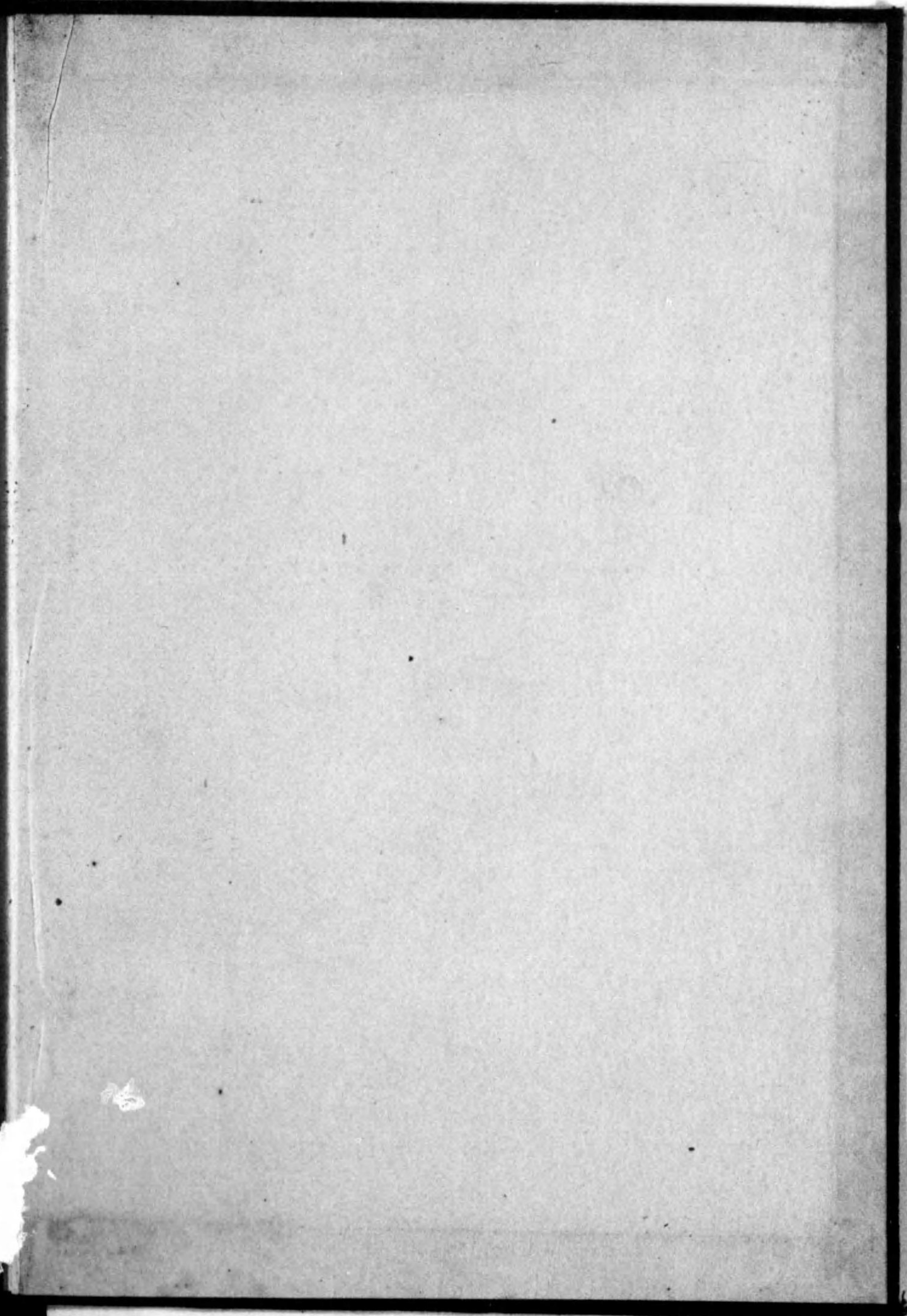
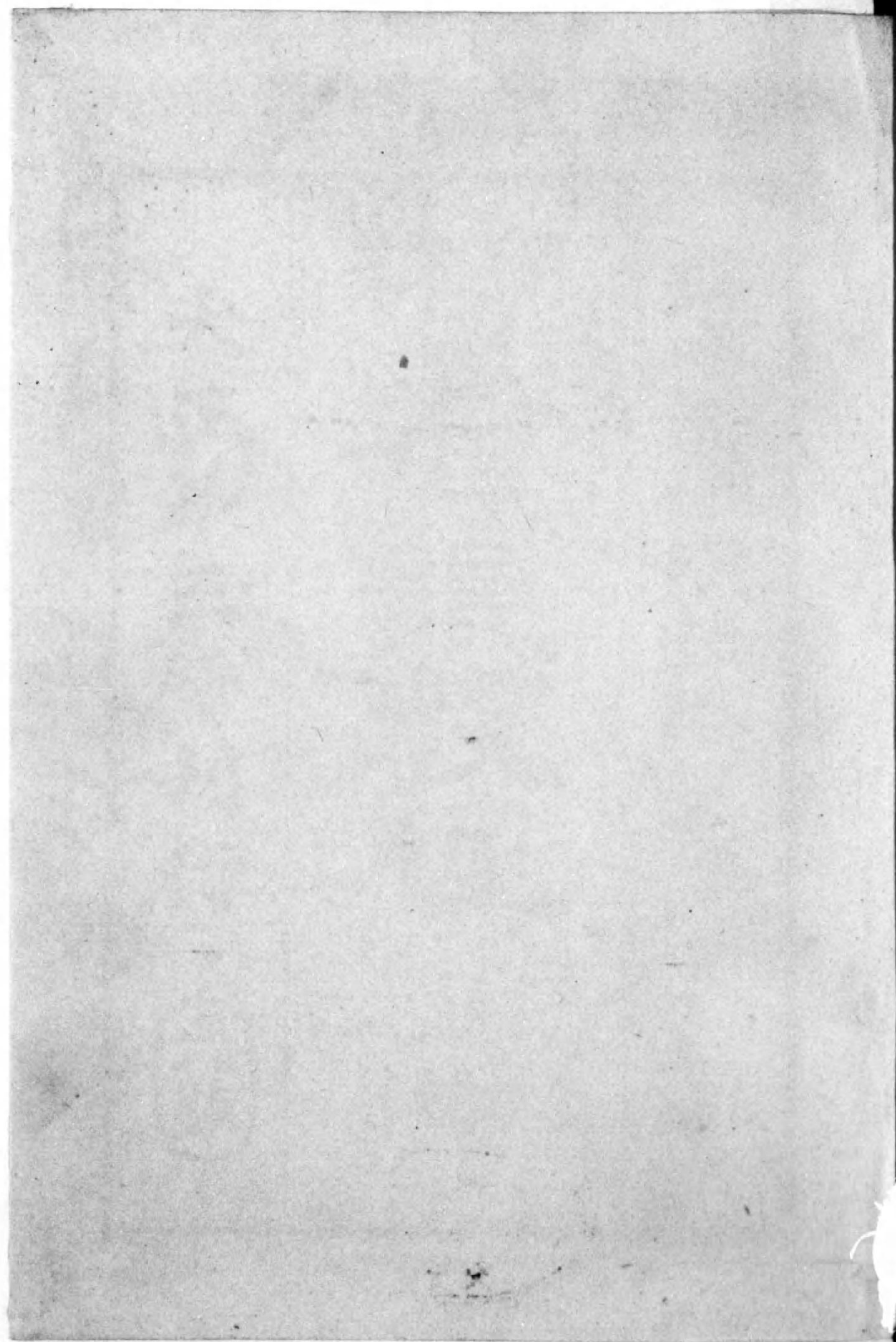
\*1200800279491\*



始









48108  
8621



日本赤十字社編纂

甲種  
**看護教程**

上卷

大正

13.6.6

内交

大正十三年刊行

六版





大正十三年四月

六

教育勅語

上卷

日本赤十字社

教育勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト  
 深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥  
 ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ  
 此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ  
 恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ  
 啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重  
 シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇  
 運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラ  
 ス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

勅語



二  
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守  
スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕  
爾臣民ト俱ニ拳拳服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

一  
救護員ニ賜ハリタル御諭旨

日本赤十字社ハ

天皇 皇后兩陛下眷護ノ下ニ立チ政府ノ監督ヲ受ケ海外各社  
ト同盟聯伍スル所ノ團體ニシテ其目的ハ戰時ノ傷者及病者ヲ  
救護スルニ在ルヲ以テ國家有事ノ日ニ方リ其任務ヲ全クスル  
ハ專ラ救護員ノ力ニ賴ラサルヲ得ス是レ本社カ年來救護員ノ  
準備ニ務メ其撰擇養成ニ苦心スル所以ナリ

明治二十七八年戰役ニ於テ軍衛衛生部ノ事業ヲ助ケ

兩陛下ヨリ優渥ナル 勅語令旨ヲ賜ハリ又三十三年ノ北清事  
變ニ際シ彼我ノ患者ヲ救護シテ廣ク内外ノ稱讚ヲ受ク尋テ三



十四年勅令ヲ以テ日本赤十字社條例ヲ發布セラレ救護員ハ軍人ニ准スルノ待遇ヲ得本社ノ光榮洵ニ大ナリト雖モ其責任モ亦重キヲ加ヘタリ況ヤ赤十字條約ヲ海戰ニ應用シ事業ノ範圍爲メニ廣汎ヲ致ス救護員タル者ハ其職責最モ重大ナリト謂フヘシ因テ茲ニ其要領ヲ示シテ遵守スル所ヲ知ラシム

一篤ク本社ノ主旨ヲ體シ

天皇 皇后兩陛下ニ一視同仁ノ聖意ヲ奉シ忠愛ナル衆社員ノ心ヲ心トシ勤勉以テ其職ヲ盡スヘシ

一陸海軍ノ衛生勤務ヲ幫助スルニ當リ能ク法令規律ヲ守リ服從敬禮ノ道ヲ失フヘカラス

一患者ヲ救護スルハ彼我ノ別ナク懇篤深切ヲ旨トスヘシ

一品行方正ニシテ風紀ヲ保持シ艱苦ヲ忍ヒ缺乏ニ耐ヘ能ク其任務ヲ完クスヘシ

一各其分限ヲ守リ同心協力以テ全體ノ効績ヲ舉クルコトニ勗ムヘシ

以上數項ノモノ一モ之ヲ闕クコトアラハ戰時救護ノ目的ハ完全ニ達スルヲ得ヘカラス救護員タル者ハ常ニ此旨ヲ服膺シ至誠以テ報効ヲ圖リ本社ノ光輝ヲ發揚センコトヲ望ム

明治三十六年十二月十八日



日本赤十字社總裁  
大勳位功四級 載仁親王

第六版 凡例

- 一 本書ハ、日本赤十字社救護看護婦養成用ノ教科書トシテ、編纂セ  
ルモノナリ。
- 二 書中、四號活字ヲ以テ掲載セル事項ハ、救護看護婦生徒ニ教授ス  
ヘキモノ、五號活字ヲ以テ掲載セル事項ハ、進度ニ應シテ、敷衍教授  
スヘキ參考ニ供シ、且、救護看護婦長候補生ノ教授資料トス。
- 三 法規ニ關スル事項ハ、其ノ改廢ニ從ヒ、取捨シテ教授スルヲ要ス。
- 四 書中、作業ニ關スル圖畫ハ、特ニ男子ヲ以テ之ヲ表シタルモノア  
リ。

大正十三年三月

日本赤十字社

凡例



甲種看護教程總目次

上卷

第一編 修身ノ要領

第二編 赤十字事業ノ要領

第三編 陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領

第四編 人體ノ構造及其ノ作用

第五編 繃帶

下卷

第六編 看護

第七編 治療ノ介輔



第八編	手術ノ介輔	
第九編	消毒	
第十編	按摩	
第十一編	傳染病其ノ他ノ疾病	
第十二編	醫療器械	
第十三編	外傷	
第十四編	救急	
第十五編	衛生	
第十六編	藥物及調劑	
第十七編	患者ノ運搬	

甲種看護教程上卷

目次

第一編	修身ノ要領	一
第二編	赤十字事業ノ要領	六
第一章	赤十字事業ノ主旨、起原、沿革及赤十字條約	六
第一	赤十字事業ノ主旨	六
第二	赤十字事業ノ起原沿革	六
第三	赤十字條約	十
第二章	日本ニ於ケル赤十字事業	五十四
第一	日本赤十字社ノ主旨、沿革	五十四



第二章	日本赤十字社ノ組織	六十一
第三章	戰時救護事業	六十五
第四章	災害救護事業	六十九
第五章	結核豫防撲滅事業	七十二
第六章	兒童及妊産婦保護事業	七十三
第三章	救護員	七十四
第一	資格	七十四
第二	禮式	七十八
第三	服從、敬稱、稱呼	八十八
第四	服制	九十二
第五	服裝	九十七
第三編	陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領	九十九

第一章	制規	九十九
第一	陸海軍人	九十九
第二	陸軍服制ノ大要	百一十二
第三	海軍服制ノ大要	百一十八
第四	勳章、記章	百二十
第五	軍屬ノ讀法、宣誓	百二十一
第六	陸海軍刑法及懲罰令ノ大意	百二十二
第七	傷痍疾病ノ等差	百二十四
第八	傷痍疾病ニ因ル除役及恩給	百二十五
第九	陸海軍ノ衛生材料	百二十六
第二章	平時ノ勤務	百二十六
第一	陸海軍ノ平時衛生機關	百二十六



第二 陸海軍病院ノ平時勤務ノ大要

百二十七

第三章 戰時ノ勤務

百三十二

第一 陸軍ノ戰時衛生機關

百三十二

第二 海軍ノ戰時衛生機關

百三十四

第三 陸軍ノ戰時衛生勤務ノ大要

百三十五

其一 入院患者ノ取扱

百三十五

其二 死者ノ處置

百三十九

其三 患者ノ輸送

百四十

第四 海軍ノ戰時衛生勤務ノ大要

百四十三

第四編 人體ノ構造及其ノ作用

百四十四

第一章 人體外部ノ名稱

百四十四

第一 頭部

百四十四

第二 軀幹

百四十五

第三 四肢

百四十九

第二章 人體ノ諸組織

百五十一

第三章 皮膚、粘膜、漿液膜、結締織及脂肪

百五十二

第一 皮膚

百五十二

第二 粘膜

百五十四

第三 漿膜(漿液膜)

百五十五

第四 結締織

百五十五

第五 脂肪織

百五十六

第四章 骨及軟骨

百五十六



第一 骨	百五十六
其一 頭骨	百五十九
其二 軀幹骨	百六十五
其三 四肢骨	百七十
第二 軟骨	百七十八
第五章 骨ノ結合	百七十九
第六章 筋	百八十三
第七章 循環器	百八十八
第一 血管系	百八十八
其一 心臟	百八十八
其二 血管	百九十

其三 血液	百九十六
其四 血液循環	百九十七
其五 心尖搏動及脈搏	百九十九
第二 淋巴管系	二百一
其一 淋巴管	二百一
其二 淋巴腺	二百二
第八章 神經系	二百三
第一 腦	二百四
第二 脊髓	二百五
第三 神經	二百六
第四 神經系ノ作用	二百八



第九章 五官器

第一 觸器

第二 味器

第三 嗅器

第四 聽器

第五 視器

其一 眼球

其二 補助器及保護裝置

其三 視覺及視力檢查

第十章 內臟

第十一章 呼吸器

二百九

二百九

二百十

二百十一

二百十一

二百十三

二百十三

二百十六

二百十七

二百十九

二百二十一

第一 呼吸器

第二 呼吸

第三 音聲及言語

第十二章 營養器

第一 營養器

第二 消化及營養

其一 消化

其二 營養

第十三章 泌尿器

第十四章 生殖器

第一 男子生殖器

二百二十一

二百二十四

二百二十五

二百二十六

二百二十六

二百三十二

二百三十二

二百三十五

二百三十六

二百三十八

二百三十九



第二	女子生殖器	二百四十
第三	生殖	二百四十二
(附)	乳房	二百四十三
第十五章	内分泌	二百四十四
第五編	繃帶	二百四十五
第一章	繃帶ノ種類、並効用	二百四十五
第二章	繃帶材料	二百四十七
第一	脫脂綿紗	二百四十八
第二	綿花	二百四十九
第三	脫脂綿	二百四十九
第四	脫脂綿板	二百四十九

第五	生金巾	二百五十
第六	三角巾	二百五十
第七	木綿	二百五十一
第八	卷軸帶	二百五十一
第九	縮織布	二百五十五
第十	脫脂紋巴	二百五十五
第十一	「パラフィン」布、亞麻仁油紙	二百五十五
第十二	「ゴム」絆創膏	二百五十六
第十三	フランネル	二百五十六
第十四	莫大小	二百五十六
第十五	複帶	二百五十六
第十六	壓巾	二百五十七



第十七 拭圓、拭切

第三章 縹帶ノ準備

第四章 卷軸縹帶

第一 卷軸帶ノ卷方及解方

第二 卷軸帶ノ卷方ノ種類

其一 環行帶

其二 螺旋帶

其三 折轉帶

其四 交叉帶

其五 扇狀帶

其六 反復帶

二百五十七

二百五十八

二百五十九

二百六十一

二百六十一

二百六十二

二百六十二

二百六十三

二百六十五

二百六十五

二百六十五

第三 各部ノ縹帶

甲 頭ノ縹帶

其一 反復帶

其二 偏眼帶

其三 雙眼帶

其四 下顎帶

其五 複頭帶

乙 頭ノ縹帶

丙 軀幹ノ縹帶

其一 胸ノ環行帶

其二 脊及胸背ノ十字帶

其三 女子乳房ノ縹帶

二百六十六

二百六十六

二百六十六

二百六十八

二百六十九

二百六十九

二百七十

二百七十二

二百七十二

二百七十二

二百七十三

二百七十五



其四	腹ノ扇狀帶	二百七十九
其五	鼠蹊ノ麥穗帶	二百七十九
其六	「ウエルボ」ノ麥穗帶	二百八十一
丁	四肢ノ綳帶	二百八十二
其一	肩胛ノ麥穗帶	二百八十四
其二	手ノ麥穗帶	二百八十五
其三	拇指ノ麥穗帶	二百八十六
其四	手套帶	二百八十七
其五	足ノ麥穗帶	二百八十八
第五章	布帕綳帶	二百八十九
甲	三角巾ノ用法	二百八十九

乙	複帶ノ用法	二百九十八
第一	複帶ノ卷方種類	二百九十八
其一	丁字帶	二百九十八
其二	多脚帶	二百九十九
其三	拘舉帶	三百
第二	各部ノ複帶	三百
其一	頭ノ四脚帶	三百
其二	下顎及鼻ノ四脚帶	三百一
其三	耳及鼻ノ丁字帶	三百一
其四	胸腹部ノ複帶	三百二
其五	假面帶	三百二
其六	骨盤ノ雙丁字帶	三百三



其七 三角巾ノ拘舉帶

第六章 絆創膏繃帶

三百四

第七章 副木繃帶

三百六

第一 紙副木

三百七

第二 薄片副木

三百八

第三 金網副木(網狀夾)

三百八

第四 吳氏副木

三百八

第五 三角副木

三百九

第六 聯接副木

三百九

第七 上肢副木

三百十

第八 手形副木

三百十

第九 橈骨副木

三百十一

第十 大腿布團附聯接副木

三百十一

第十一 「フオルクマン」式副木

三百十二

第十二 牽引裝置用副木

三百十二

第十三 複斜面副木

三百十三

第十四 「トーマス」式副木

三百十五

第十五 顎副木

三百十五

第十六 急造副木

三百十五

第八章 「ギブス」繃帶

三百十六

第九章 安置

三百二十一



甲種 看護 教程 上卷

日本赤十字社編纂

第一編 修身ノ要領

日本赤十字社救護員ハ、教育勅語、總裁殿下、明治三十六年ノ御諭旨ヲ奉體シ、竝、日本赤十字社救護員心得書ノ要項ヲ恪守シテ、報國恤兵ノ主旨ニ準據シ、益、慈愛ノ情念ヲ深クシ、心身ノ勞苦ヲ厭ハヌ、以テ職責ヲ竭ササルヘカラス。因テ、修身ノ要訣ヲ擧クルコト左ノ如シ。宜シク、常ニ之ヲ服膺シ、實踐躬行敢テ怠ルコト莫ルヘシ。



- 一 博愛ニシテ懇篤親切ナルヘキコト。
- 二 誠實勤勉ニシテ和協ニカムヘキコト。
- 三 忍耐ニシテ寛裕ナルヘキコト。
- 四 志操堅實ニシテ克己自制ニカムヘキコト。
- 五 恭謙ニシテ自重ナルヘキコト。
- 六 謹慎ニシテ紀律ヲ重ムスヘキコト。
- 七 勇敢ニシテ沈著ナルヘキコト。
- 八 敏活ニシテ周密ナルヘキコト。
- 九 質素ニシテ廉潔ナルヘキコト。
- 十 溫和ニシテ容儀ヲ整フヘキコト。

日本赤十字社救護員心得 (明治三十三年七月二十日)  
社長

- 一 日本赤十字社救護員タル者ハ、社旨ニ遵ヒ、報國恤兵ノ大義ヲ盡スヘキハ勿論、畏クモ 天皇陛下カ、軍人ヲ以テ股肱トシ玉フ深遠ノ聖慮ト 皇后陛下カ、常ニ傷兵救護ノ事業ヲ眷護シ玉フ宏大ノ慈仁トヲ奉體シ、衆社員ノ忠愛心ヲ代表シ、一意勤勉、以テ能ク其ノ實効ヲ奏スヘシ。
- 一 救護員ハ、陸海軍衙ノ命令ニ依リ、衛生勤務ヲ幫助スルモノナレハ、陸海軍ノ法令規律ヲ遵守スヘシ。
- 一 軍人ニ對シテハ、常ニ敬禮ヲ厚クシ、殊ニ傷病兵ニ對シテハ、專ラ敬愛懇篤ヲ旨トスヘシ。



一 救護員ハ、個人的功名心ヲ舍テ、同心協力、以テ全體ノ成功ヲ期スヘシ。

一 救護員ハ、品行ヲ正クシ、能ク艱苦ト缺乏トニ耐ヘ、苟モ、本社ノ體面ヲ損スルカ如キ所爲アルヘカラス。

一 救護員ハ、官衙其ノ他ノ取扱若ハ待遇上ニ於テ、假令、其ノ意ニ適ハサルコトアルモ、之ヲ辭色ニ顯ササル様、深ク慎ムヘキモノトス。

一 救護員ノ上級者ハ、下級者ノ模範トナルヘキモノナレハ、各率先戒慎ヲ加フヘシ。

一 凡ソ部下ヲ薫率スルニハ、威嚴ト愛撫トヲ兼ネ、寛宥ニ

流レス、苛酷ニ失セス、尤、愛憎偏頗ヲ慎ミ、諸事公平ヲ失ハサル様深ク注意スヘシ。

一 救護員ハ、各、職責ヲ帶ヒテ勤務ニ服スルモノナレハ、指揮監督者ノ許諾ヲ得スシテ、猥リニ職務ヲ離ルヘカラス。

一 救護員中、職務權域ヲ異ニスル者ハ、各、其ノ分ヲ嚴守シ、協和ヲ保ツヘシ。

一 以上ノ各項ハ、天災事變ニ當リ派遣スル救護員ニ在リテモ、亦、之ヲ服膺スヘシ。



### 第二編 赤十字事業ノ要領

#### 第一章 赤十字事業ノ主旨、起原沿革及

##### 赤十字條約

##### 第一 赤十字事業ノ主旨

- 一 赤十字事業ハ、戰時ニ軍隊ノ衛生勤務ヲ幫助シ、彼我ノ別ナク、傷者病者ヲ救護セムコトヲ主旨トス。
- 二 赤十字事業ハ、又、時勢ノ進歩ニ從ヒ、災害救護、其ノ他種々ノ平時救護事業ヲ行フコトトナレリ。

##### 第二 赤十字事業ノ起原、沿革

- 一 赤十字事業ハ、西曆千八百六十三年(我文久二年紀元二)瑞西國(千五百二十三年)

ジエネヴァニ於テ、歐洲諸國ヨリ參集セル委員ノ會議ニヨリ、陸軍ノ戰時衛生勤務ヲ幫助スル爲、各國ニ有志ノ救恤協會(即チ赤十字社)ヲ設立セムトシテ各國共通ノ規約(赤十字規約)ヲ定メタルニ始マリ、其ノ翌年、同地ニ於テ、各國政府間ニ之ニ關スル條約(赤十字條約)ヲ締結シテ、規約ノ効力ヲ完全ナラシメタリ。

一 是ヨリ先キ、歐洲ノ各戰役ニ於テ、戰場ノ傷病者ハ救護普ネカラス、甚タシキ慘狀ヲ呈セルヲ以テ、軍隊衛生部ノ外、特志者、之カ救護ニ從事シタルコトアリ。クリミアノ戰(西曆千八百五十四年英佛兩國土耳其ヲ助ケテ露國トノ戰爭)ニ於テ、英人ナイチンゲール嬢一行、戰



地ニ臨ミテ、救護事業ニ從事シタルカ如キ其ノ例ナリ。

ソルフエリノノ戰（西曆千八百五十九年佛伊兩國ト埃國トノ戰爭）ニ於テ、瑞西人ヘンリ

一、ヂユナン、佛軍ニ從テ戰地ニ臨ミ、地方住民ヲ促シテ醫療ヲ助ケ、大戰ノ際ニハ、民間ノ救恤協會ヲ以テ、軍隊衛生部ノ助力ヲ爲ササルヘカラサルヲ感シ、此ノ戰役終ルノ後、書ヲ著ハシ、又、諸國ニ遊說シテ、各國ニ有志ノ救恤協會ヲ設立シ、戰時ニハ、互ニ傷病者救護ニ從事スルノ必要ヲ論シ、列國有力者ノ贊助ヲ得テ、前記ノ如ク諸國委員ノ會議ヲ開クニ至レリ。

三 赤十字條約ハ、初メジエネヴァ會議參列ノ歐洲諸國間ニ締

結セラレタルモ、他ノ文明諸國、次第ニ之ニ加盟ス。我國ハ明治十九年之ニ加盟シ同年之ヲ公布セラル。

此條約ハ、明治二十九年（西曆千九百零六年）ノ列國會議ニ於テ、日露戰役ノ經驗ニ顧ミテ改訂セラル。之ヲ現行ノ條約トシ、我國ニ於テハ明治四十一年之ヲ公布セラル。

四 赤十字條約ハ、陸戰ニ於テ傷者病者ヲ、彼我ノ別ナク救護スルヲ目的トシタルモノナリト雖、海戰ニ於テモ、人道上、固ヨリ同シカラサルヲ得ス。即チ「赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約」アリ。（我國ニ於テハ明治三十三年之ヲ公布セラレ其ノ改正ヲ同四十五年公布セラル）

五 歐洲大戰ノ平和克復ニ際シ、大正八年、日・米・英・佛・伊五大



十  
國赤十字社ノ代表員創立者トナリテ、赤十字社聯盟ヲ組織シ、  
ジエネヴァ赤十字國際委員ト一致協同シテ、世界人類健康ノ  
増進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル平時事業ヲ完全  
ナラシムルコトヲ約セリ。爾餘諸國ノ赤十字社モ此ノ聯盟ニ  
加入スルヲ得ルモノナリ。

### 第三 赤十字條約

赤十字條約、及、之ニ關連スル其ノ他ノ條約、左ノ如シ

- 一 戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル條約  
(赤十字條約)

### 第一章 傷者及病者

第一條 軍人及公務上軍隊ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ、負  
傷シ、又ハ疾病ニ罹リタル者ハ、國籍ノ如何ヲ問ハス、之ヲ  
其權内ニ收容シタル交戦者ニ於テ、尊重看護スヘキモノトス。  
但シ、病者及傷者ヲ敵ニ遺棄スルノ已ムヲ得サルニ至リタル  
交戦者ハ、軍事上ノ狀況ノ許ス限り、其ノ看護ヲ幫助セシメ  
ムカ爲、衛生部員及衛生材料ノ一部ヲ、病者傷者ト共ニ遺留  
スヘシ。

第二條 交戦者一方ノ傷者又ハ病者ニシテ、他ノ交戦者ノ權内  
ニ陥リタル者ハ、前條ニ依リテ看護ヲ享クルノ外、俘虜ト爲  
リ、俘虜ニ關スル國際公法ノ一般規則ヲ適用セララルモノト



ス。

但シ、交戦者ハ、俘虜タル傷者病者ニ關シ、有益ト認ムヘキ  
特例又ハ殊遇ノ條項ヲ相互ニ協定スルノ自由ヲ有シ、殊ニ左  
ノ事項ニ付、協定ヲ爲スノ權能ヲ有ス。

- 一 戦闘後、戰場ニ遺棄セラレタル傷者ヲ互ニ引渡スコト。
- 一 交戦者カ俘虜トシテ抑留シ置クヲ欲セサル傷者又ハ病者  
ヲ、輸送ニ堪フルニ至リタル後又ハ全治後、其ノ本國ニ  
送還スルコト。
- 一 中立國ノ承諾ヲ得タル上、戰爭ノ終了迄、留置スル條件  
ヲ以テ、對戰國ノ傷者又ハ病者ヲ同中立國ニ引渡スコト。

傷者ノ所及死  
者ノ所有  
ヲナシテ  
サレテ  
ヤウニ  
又ハ  
死傷者  
ノ身  
保護ス

死ハ先ツ  
生ハ被  
メ又ニ  
物品本  
キテ部  
所屬國  
及氏名  
ヲ取テ  
リ調ナ

第三條 各戦闘後、戰場ノ占領者ハ、傷者ヲ搜索シ、且、掠奪

及虐待ニ對シ、傷者及死者ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘシ。

右占領者ハ、死者ノ埋葬又ハ火葬カ、其ノ死體ヲ綿密ニ検査  
シタル上ニテ行ハルルコトニ注意スヘシ。

第四條 各交戦者ハ、死者ニ付發見シタル軍隊ノ認識票又ハ身  
分ヲ證明スヘキ記號及集收シタル傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ、  
成ルヘク速ニ、其ノ本國官憲又ハ所屬陸軍官憲ニ送付スヘシ。  
交戦者ハ、互ニ其ノ權内ニ在ル傷者及病者ノ留置・移動竝入  
院及死亡ニ關スルコトヲ知照スヘク、又、戰場ニ於テ發見セ  
ラレ、或ハ衛生上ノ固定營造物及移動機關内ニテ死亡シタル











ハ、其ノ人員及衛生上ノ移動機關ヲシテ同交戦者ニ幫助ヲ與ヘシムルコトヲ得ス。

右救護ヲ承諾シタル交戦者ハ、其ノ使用ニ先チ、之ヲ敵國ニ通告スヘシ。

第十二條 第九條第十條及第十一條ニ掲ケタル人員ハ、敵ノ權内ニ陥リタル後モ、其ノ指揮ノ下ニ在リテ、引續キ各自ノ職務ヲ執行スヘシ。

前項人員ノ幫助カ既ニ必要ナキニ至リタルトキハ、軍事上ノ必要ト相容ルル時期及通路ニ從ヒ之ヲ所屬軍隊又ハ其ノ本國ニ送還スヘシ。

此ノ交戦者ハ、其ノ移動機關ヲシテ同交戦者ニ幫助ヲ與ヘシムルコトヲ得ス。

右人員ハ、各自ノ私有ニ屬スル被服・器具・武器及馬匹ヲ持チ去ルヲ得ヘシ。

第十三條 敵國ハ、第九條ニ掲ケタル人員カ、其ノ權内ニ在ル間、自國軍隊ノ同一等級ノ者ニ給與スルト同額ノ給養及俸給ヲ之ニ支給スヘシ。

### 第四章 材料

第十四條 衛生上ノ移動機關ハ、敵ノ權内ニ陥ルトキト雖、其ノ輸送方法護送人員ノ如何ヲ問ハス所屬材料ヲ保有ス、同材料中ニハ輓馬ヲモ包含スルモノトス。

但シ、所轄陸軍官憲ハ、傷者及病者看護ノ爲、該材料ヲ使用

輸送ノ方ニ於テハ、其ノ人員カ、其ノ權内ニ在ル間、自國軍隊ノ同一等級ノ者ニ給與スルト同額ノ給養及俸給ヲ之ニ支給スヘシ。







鐵道列車  
及患者  
河川湖上  
等ナリ患  
者後送ニ  
從事シツ  
モ衛生勤  
務ニ屬ス  
ルハ戰車  
品トシテ  
沒收セラ  
レ普通入  
及徵發物  
モ此ノ條  
約ニ依リ  
テ受ル

員送還ノ義務ハ、正式ノ命令ヲ携帶シテ、輸送又ハ後送機關ノ護衛ニ任スル一切ノ軍人軍屬ニ及フヘシ。

第十四條ニ規定シタル衛生材料還付ノ義務ハ、特ニ後送ノ爲ニ組織セラレタル鐵道列車及内地航行ノ船舶並衛生勤務ニ屬スル普通ノ車輛列車及船舟ノ裝置材料ニ適用セラルヘシ。衛生勤務ニ屬セサル軍隊ノ車輛ハ、其ノ輓馬ト共ニ捕獲スルヲ得ヘシ。

普通人民及徵發ニ依リテ得タル各種ノ輸送物件ハ、國際公法ノ通則ニ從フヘキモノトス。同物件中ニハ後送ノ爲ニ使用セラルル鐵道材料及船舟ヲモ包含スルモノトス。

土耳其國  
ハ赤十字  
形ヲ用  
フ月形  
小ナル  
具マテ  
タ赤十字  
ハ記スル  
ニハハル

第六章 殊別記章

第十八條 瑞西國ニ對シ、敬意ヲ表スル爲、該聯邦國旗ノ著色ヲ顛倒シテ作成シタル白地赤十字ノ紋章ハ、軍隊衛生勤務上ノ殊別記章トシテ維持セラルヘシ。

第十九條 前條ノ記章ハ、所轄陸軍官憲ノ認許ニ依リ、衛生勤務ニ關係スル旗・臂章及一切ノ材料ニ表出セラルヘシ。

第二十條 第九條第一項・第十條及第十一條ニ依リ保護セラルル人員ハ、所轄陸軍官憲ヨリ交付シ、且、其ノ印章ヲ捺シタル白地赤十字ノ臂章ヲ左腕ニ裝著スヘク陸軍ノ衛生勤務ニ從事スル人員ニシテ軍服ヲ著セサルモノハ、認識證明書ヲ併セ







第二十五條 交戦軍ノ司令長官ハ、各其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ、且、本條約ノ綱領ニ準據シ、前諸條ノ執行ニ關スル細目、及、規定漏ノ事項ヲ補足處理スヘシ。

第二十六條 記名國政府ハ本條約ノ規定ヲ、其ノ軍隊、及、特ニ保護セラルル人員ニ教示シ、且、之ヲ國民ニ知悉セシムルカ爲、必要ナル手段ヲ執ルヘシ。

第八章 濫用及違犯ノ禁制

第二十七條 記名國政府ニシテ、其ノ現行法制、完全ナラサルモノハ、本條約ニ依リ、權利ヲ享有スルモノ以外ノ個人、又ハ教會ニ於テ、赤十字又ハハジエネツア十字ナル記章、又ハ名稱ヲ使用シ、就中、商業上ノ目的ヲ以テ、製造標又ハ商標ノ方法ニ依リ、之ヲ用フルコトヲ常ニ防止セムカ爲、必要ナル手段ヲ執リ、又ハ、之ヲ其ノ立法府ニ提案

スヘキコトヲ約ス

前項ニ規定シタル記章、又ハ名稱ノ使用禁止ハ、各國ノ法制ニ依リテ定メラレタル時期ヨリ、其ノ効力ヲ生スヘシ、遲クトモ、本條約實施後、五年以内ニ其ノ効力ヲ生スヘシ。本條約實施後ハ、同禁止ニ牴觸スル製造標又ハ商標ノ使用ヲ以テ不法トス。

第二十八條 記名國政府ニシテ、其ノ陸軍刑法、不完全ナル場合ニハ、戰時ニ於テ、軍隊ノ傷者及病者ニ對スル個人的掠奪及虐待行爲ヲ禁制シ、且、本條約ニ依リテ保護セラレサル軍人又ハ個人ノ爲シタル、赤十字ノ記章、旗及臂章ノ濫用ヲ、陸軍記章ノ侵犯トシテ、處罰スルニ必要ナル手段ヲ執リ、又ハ、之ヲ其ノ立法府ニ提案スヘキコトヲ約ス。

記名國政府ハ、遅クトモ、本條約批准後、五年以内ニ、瑞西聯邦政府ヲ



經テ、右禁制ニ關スル規定ヲ互ニ相通告スヘシ。

總則

第二十九條 本條約ハ、成ルヘク速ニ批准スヘシ。

批准書ハ、ベルヌ府ニ保管ス。

各批准書ニ付、一通ノ保管證書ヲ作り、其ノ認證謄本ヲ、外交上ノ手續キニ依リ、各締盟國ニ交付スヘシ。

第三十條 本條約ハ、各締盟國カ、其ノ批准書ヲ提供シタル日ヨリ、六箇月ノ後、其ノ國ニ對シテ効力ヲ生スヘシ。

第三十一條 正當ニ批准セラレタル本條約ハ、締盟國間ノ關係ニ於テ、千八百六十四年八月二十二日ノ條約ニ代ルヘキモノトス。  
千八百六十四年ノ條約ハ、之ニ記名シタルモ、本條約ヲ批准セサル諸國間ノ關係ニ付テハ、引續キ効力ヲ有スヘキモノトス。

第三十二條 本條約ハ、千九百零六年六月十一日、ジエネヴァニ開會シ

タル萬國會議ニ、代表者ヲ派遣シタル諸國及該萬國會議ニ代表者ヲ派遣セサルモ、千八百六十四年ノ條約ニ記名シタル諸國ニ依リ、本年十二月三十一日迄ニ記名セラレ得ルモノトス。

千九百零六年十二月三十一日迄ニ、本條約ニ記名セサル諸國ハ、其ノ後ニ至リ、之ニ加盟スルノ自由ヲ有スヘシ。其ノ加盟ハ、書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ通告シ、同政府ヨリ、更ニ之ヲ各締盟國ニ通知スヘキモノトス。

他ノ諸國モ、亦同一ノ形式ニ依リ、加盟ヲ請求スルヲ得ヘシ。但シ其ノ請求ハ、瑞西聯邦政府ニ通告ヲ爲シタル日ヨリ、一年ヲ經過スルモ、締盟國ノ何レヨリモ、同政府ヘ異議ヲ申シ入レサルトキニ限り、始メテ其ノ効力ヲ生スヘキモノトス。







督シタルコトヲ證明スル同官憲ノ書類ヲ携帯スヘシ。

第三條 中立國ノ私人又ハ公認セラレタル協會ノ費用ヲ以テ、全部又ハ一部ヲ蟻裝シタル病院船ニシテ、豫メ、本國政府ノ同意ヲ得、且、交戰國ノ一方ノ許可ヲ得テ、該交戰國ノ指揮ノ下ニ立チ、開戰ノ際又ハ戰爭中、該交戰國ヨリ其ノ使用ニ先チ、船名ヲ對手國ニ通告シタルモノハ尊重セラレ、且、捕獲ヲ免ルルモノトス。

第四條 第一條、第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ、國籍ノ如何ヲ問ハス、交戰國ノ傷者、病者及難船者ヲ救護扶助スヘシ。各國政府ハ、右船舶ヲ、何等軍事上ノ目的ニ使用セサルコト

ヲ約定ス。

右船舶ハ、決シテ戰鬪者ノ運動ヲ妨碍スヘカラス。

右船舶ハ、戰鬪中ト戰鬪後トヲ問ハス、自己ノ危險ヲ以テ行動スルモノトス。

交戰者ハ、右船舶ニ對シ、監督及臨檢搜索ヲ爲スノ權利ヲ有シ、其ノ介助ヲ拒絕シ、其ノ離隔ヲ命シ、其ノ航行スヘキ方向ヲ指定シ、且、其ノ船内ニ、監督員ヲ乘込マシムルコトヲ得。若、事情重大ナルカ爲必要ナルトキハ、之ヲ抑留スルコトヲ得ヘシ。

交戰者ハ、病院船ニ下シタル命令ヲ、成ルヘク該船ノ航海日

偶然敵ノ  
彈丸ヲ受  
ケルニ  
ケル者ト  
ス

介助ノ拒  
絶ハ、敵  
軍ノ病者  
ノ救護者  
トスルナ  
ラントス



誌ニ記入スヘシ。

第五條 軍用病院船ハ、其ノ外部ヲ白色ニ塗り、幅、約一「メートル」半ノ綠色ノ横筋ヲ施シテ、之ヲ標識スヘシ。

第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ、其ノ外部ヲ白色ニ塗り、幅、約一「メートル」半ノ赤色ノ横筋ヲ施シテ、之ヲ標識スヘシ。

前記ノ諸船舶ニ附屬スル端舟及救護用ニ供セラルヘキ小船ハ、前二項ニ準シテ塗色シ以テ之ヲ標識スヘシ。

病院船ハ、總テ、其ノ國旗ト共ニ、ジエネヴァ條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ケ、又、中立國ニ屬スルモノナルト

キハ、右ノ外、指揮ヲ受クル交戰國ノ國旗ヲ大櫓ニ掲ケテ之ヲ標識スヘシ。

第四條ノ規定ニ依リ、敵ノ爲ニ抑留セラレタル病院船ハ、其ノ屬スル交戰國ノ國旗ヲ撤去スヘシ。

前記ノ病院船及端舟ニシテ、其ノ享有スル尊重ヲ夜間確實ナラシメント欲スルモノハ、其ノ附隨スル交戰者ノ同意ヲ得テ、其ノ標識塗色ヲ看易クスル爲、必要ナル措置ヲ執ルヘシ。

第六條 第五條ニ定メタル特殊徽章ハ、平時ト戰時トヲ問ハス同條ニ掲ケタル船舶ヲ保護シ又ハ標識スル爲ニ非サレハ、之ヲ使用スルコトヲ得ス。



第七條 軍艦内ニ於ケル戦闘ノ場合ニ於テハ、病室ハ、爲シ得ル限り之ヲ尊重庇護スヘシ。

右病室及其ノ所屬材料ニ付テハ、戦争ノ法規ニ従フ、但シ、傷者及病者ニ必要ナル間ハ、其ノ用途ヲ他ニ轉スルコトヲ得ス。  
病室及其ノ所屬材料ヲ、自己ノ權内ニ屬セシメタル指揮官ハ、重大ナル軍事上ノ必要アル場合ニ於テハ、豫メ、病室内ニ在ル傷者及病者ノ安全ヲ確保シタル上、之ヲ處分スルコトヲ得。

第八條 病院船及艦内病室カ、害敵行爲ノ爲ニ使用セララルトキハ、其ノ保護ヲ失フヘシ。

病院船及病室ノ人員カ、秩序維持及傷者又ハ病者防護ノ爲ニ武装シタル事實、竝、船内ニ無線電信ノ設備ヲ有スル事實ハ、

其ノ保護ヲ喪失スヘキ性質ノモノト認メス。

第九條 交戦者ハ、中立ノ商船遊船又ハ端舟ノ船長ニ對シ、傷者又ハ病者ヲ船内ニ收容シ、且、之ヲ看護スルコトニ付、其ノ慈惠心ニ訴フルコトヲ得。

右ノ依頼ニ應シタル船舶及自ラ進ンテ傷者病者又ハ難船者ヲ收容シタル船舶ハ、特別ノ保護及一定ノ特典ヲ享有スヘシ。該船舶ハ如何ナル場合ニ於テモ、右輸送ノ事實アリタルノ故ヲ以テ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス。但シ、右船舶ニ對スル特別ノ約束アル場合ヲ除クノ外、其ノ行ヒタル中立違反ノ行爲ノ爲、之ヲ捕獲スルコトヲ得ルモノトス。

第十條 捕獲セラレタル一切ノ艦船内ニ在リテ救法・醫療及看護ニ従事スル人員ハ、不可侵ニシテ俘虜ト爲スコトヲ得ス。右人員カ



艦船ヲ退去スルトキハ、其ノ私有ニ屬スル物品及外科用具ヲ携帯ス。

右人員ハ、必要アル限ハ、引續キ其ノ職務ニ從事スヘク、總指揮官ニ於テ差支ヘナシト認ムル時ニ至リ、退去スルコトヲ得。

交戦者ハ、其ノ權内ニ歸シタル右人員ニ對シ、自國海軍ノ同一階級ノ人員ニ對スルト同額ノ給養及俸給ヲ支給スルコトヲ要ス。

第十一條 艦船内ニ在ル陸海軍人及公務上陸海軍ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ、負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ、國籍ノ如何ヲ問ハズ、捕獲者ニ於テ之ヲ尊重シ且看護スヘシ。

第十二條 交戦國ノ軍艦ハ、船舶ノ國籍如何ヲ問ハズ、軍用病院船救恤協會若ハ私人ニ屬スル病院船商船遊船又ハ端舟内ニ在ル傷者、病者又ハ難船者ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得。

第十三條 中立國軍艦ニ於テ傷者、病者又ハ難船者ヲ收容シタルトキハ、爲シ得ル限、右人員ヲシテ、再ヒ作戦動作ニ加ルコトヲ得サラシムヘシ。

第十四條 交戦國ノ一方ノ難船者、傷者又ハ病者ニシテ、他ノ一方ノ權内ニ歸シタル者ハ、俘虜タルヘシ、之ヲ俘虜ト爲シタル交戦者ハ、事情ノ如何ニ依リ、或ハ之ヲ抑留シ或ハ之ヲ自國港中立港又ハ對手國ノ港ニ送致スルコトヲ得。此ノ最後ノ場合ニ於テ、本國ニ送還セラレタル俘虜ハ、戰爭ノ繼續中、服役スルコトヲ得ス。

第十五條 地方官憲ノ承諾ヲ得テ、中立港ニ上陸シタル難船者、傷者又ハ病者ハ、中立國ト交戦國トノ間ニ、反對ノ協定ナキ限、再ヒ作戦動作ニ加ルコトヲ得サラシムル様、中立國ニ於テ之ヲ抑留スヘシ。入院及留置ノ費用ハ、難船者、傷者又ハ病者ノ所屬國ニ於テ、之ヲ負



擔スルモノトス。

第十六條 各戦闘ノ後、雙方ノ交戦者ハ、軍事上差支ナキ限、難船者・傷者及病者ヲ搜索シ、且、掠奪及虐待ニ對シ、此等ノ者及死者ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘシ。

右交戦者ハ死者ノ土葬・水葬又ハ火葬カ、其ノ死體ヲ、綿密ニ検査シタル上ニテ行ハルル様、監視スヘシ。

第十七條 各交戦者ハ死者ニ付、發見シタル軍隊ノ認識票又ハ身分ヲ證明スヘキ記號及蒐集シタル傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ、成ルヘク速ニ、其ノ本國官憲又ハ所屬陸海軍官憲ニ送付スヘシ。

交戦者ハ、互ニ其ノ權内ニ在ル傷者及病者ノ留置・移動・入院及死亡ニ關シ通報ヲ爲スヘク、又、捕獲シタル艦船内ニ於テ發見シ、又ハ病院ニ於テ死亡シタル傷者若ハ病者ノ遺留シタル一切ノ自用品・有價物・信書等ヲ、關係者ニ、其ノ本國官憲ヲシテ傳送セシムル爲、蒐集スヘシ。

第十八條 本條約ノ規定ハ、交戦國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限、締盟國間ニノミ之ヲ適用ス。

第十九條 交戦國艦隊ノ總指揮官ハ、其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ、且本條約ノ綱領ニ準據シテ、前諸條ノ執行ニ關スル細目ヲ定メ、且、規定ナキ場合ニ付、處理スヘシ。

第二十條 記名國ハ、本條約ノ規定ヲ、其ノ海軍及特ニ保護セララル



人員ニ示シ、且之ヲ國民ニ知ラシムル爲、必要ナル手段ヲ執ルヘシ。

第二十一條 記名國ハ、又其ノ刑法不備ナル場合ニ於テハ、戰時海軍ノ傷者及病者ニ對スル、掠奪及虐待ノ個人的行爲ヲ禁制シ、且、本條約ニ依リ、保護セラレサル船舶カ、第五條ニ定メタル特殊徽章ヲ濫用スルコトヲ、軍事徽章ノ擅用トシテ、處罰スルニ必要ナル手段ヲ執リ、又ハ、其ノ立法府ニ之ヲ提案スヘキコトヲ約定ス。

記名國ハ、遅クトモ本條約批准後五年内ニ、和蘭國政府ヲ經テ、右禁制ニ關スル規定ヲ、互ニ通告スヘシ。

第二十二條 交戰國陸海軍ノ間ニ戰爭アル場合ニハ、本條約ノ規定ハ、艦船内ニ在ル軍隊ニ限之ヲ適用スルモノトス。

第二十三條 本條約ハ、成ルヘク速ニ批准スヘシ。  
批准書ハ、海牙ニ寄託ス。

第一回ノ批准書寄託ハ、之ニ加リタル諸國ノ代表者、及、和蘭國外務大臣ノ、署名シタル調書ヲ以テ、之ヲ證ス。

爾後ノ批准書寄託ハ、和蘭國政府ニ宛テ、且、批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ、之ヲ爲ス。

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書、及、批准書ノ認證謄本ハ、和蘭國政府ヨリ、外交上ノ手續ヲ以テ、直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國、及、本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ。前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ、和蘭國政府ハ、同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス。

第二十四條 記名國ニ非サル諸國ニシテ、千九百六年七月六日ノ、ジエネヴァ條約ヲ承諾シタルモノハ、本條約ニ加盟スルコトヲ得。  
加盟セムト欲スル國ハ、書面ヲ以テ、其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告



シ、且、加盟書ヲ送付シ、之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ。  
和蘭國政府ハ、直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ、爾餘ノ諸國ニ送付シ、且、右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ。

第二十五條 本條約ハ、正式ニ批准セラレタル上、締約國間ノ關係ニ於テ、ジエネヴァ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル千八百九十九年七月二十九日ノ條約ニ代ルヘキモノトス。

千八百九十九年ノ條約ハ、該條約ニ記名シタルモ、本條約ヲ批准セサル諸國間ノ關係ニ於テハ、依然効力ヲ有スルモノトス。

第二十六條 本條約ハ、第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ、其ノ寄託ノ調書ノ日付ヨリ六十日ノ後、又、其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ、和蘭國政府カ、右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ、其ノ効力ヲ生スルモノトス。

第二十七條 締約國中、本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ、書面ヲ以テ其ノ旨、和蘭國政府ニ通告スヘシ。和蘭國政府ハ、直ニ通告書ノ認證謄本ヲ、爾餘ノ諸國ニ送付シ、且、右通告書ヲ授受シタル日ヲ通知スヘシ。

廢棄ハ、其ノ通告書カ、和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後、右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ、効力ヲ生スルモノトス。

第二十八條 和蘭國外務省ハ、帳簿ヲ備ヘ置キ、第二十三條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日、並、加盟第二十四條第二項又ハ廢棄第二十七條第一項ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス。

各締約國ハ、右帳簿ヲ閱覽シ、且、其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得。

### 三 陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約(抜抄)



第一條 締約國ハ其ノ陸軍軍隊ニ對シ、本條約ニ附屬スル、陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則ニ適合スル訓令ヲ發スヘシ。

第二條 第一條ニ掲ケタル規則及、本條約ノ規定ハ、交戰國カ、悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限、締約國間ニノミ之ヲ適用ス。

條約附屬書

陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則(抜抄)

第四條 俘虜ハ、敵ノ政府ノ權内ニ屬シ、之ヲ捕ヘタル個人又ハ部隊ノ權内ニ屬スルコトナシ。

俘虜ハ、人道ヲ以テ取扱ハルヘシ。

俘虜ノ一身ニ屬スルモノハ、兵器馬匹及軍用書類ヲ除クノ外、依然其ノ所有タルヘシ。

第十五條 慈善行爲ノ媒介者タル目的ヲ以テ、自國ノ法律ニ從ヒ、正

式ニ組織セラレタル俘虜救恤協會ハ、其ノ、人道的事業ヲ有効ニ遂行スル爲、軍事上ノ必要、及、行政上ノ規則ニ依リテ定メラレタル範圍内ニ於テ、交戰者ヨリ、自己及其ノ正當ノ委任アル代表者ノ爲ニ、一切ノ便宜ヲ受クヘシ。右協會ノ代表者ハ、各自、陸軍官憲ヨリ免許狀ノ交付ヲ受ケ、且、該官憲ノ定メタル秩序、及、風紀ニ關スル一切ノ規律ニ服從スヘキ旨、書面ヲ以テ約シタル上、俘虜收容所及送還俘虜ノ途中休泊所ニ於テ、救恤品ヲ分與スルコトヲ許サルヘシ。

第十七條 俘虜將校ハ、其ノ抑留セラルル國ノ、同一階級ノ將校カ受クルト、同額ノ俸給ヲ受クヘシ。右俸給ハ、其ノ本國政府ヨリ償還セラルヘシ。

第十八條 俘虜ハ陸軍官憲ノ定メタル秩序、及、風紀ニ關スル規律ニ服從スヘキコトヲ唯一ノ條件トシテ、其ノ宗教ノ遵行ニ付、一切ノ



自由ヲ與ヘラレ、其ノ宗教上ノ禮拜式ニ參列スルコトヲ得。

第十九條 俘虜ノ遺言ハ、内國陸軍軍人ト同一ノ條件ヲ以テ、之ヲ領置シ又ハ作成ス。

俘虜ノ死亡ノ證明ニ關スル書類、及埋葬ニ關シテモ、亦同一ノ規則ニ遵ヒ、其ノ階級及身分ニ相當スル取扱ヲ爲スヘシ。

第二十一條 病者及傷者ノ取扱ニ關スル、交戦者ノ義務ハ、ジエネヅア條約ニ依ル。

第二十三條 特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外、特ニ禁止スルモノ左ノ如シ。

イ、毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト。

ロ、敵國又ハ敵軍ニ屬スル者ヲ、背信ノ行爲ヲ以テ殺傷スルコト。

ハ、兵器ヲ捨テ、又ハ自衛ノ手段盡キテ、降ヲ乞ヘル敵ヲ殺傷スル

コト。

ニ、助命セサルコトヲ宣言スルコト。

ホ、不必要ナル苦痛ヲ與フヘキ兵器、投射物、其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト

ヘ、軍使旗、國旗、其ノ他軍用ノ標章、敵ノ制服、又ハ、ジエネヅア條約ノ特殊徽章ヲ擅ニ使用スルコト。

ト、戦争ノ必要上、萬已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外、敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押收スルコト。

チ、對手當事國、國民ノ權利及訴權ノ消滅停止、又ハ裁判上不受理ヲ宣言スルコト。

交戦者ハ、又對手當事國ノ國民ヲ強制シテ、其ノ本國ニ對スル作戰動作ニ加ラシムルコトヲ得ス。戦争開始前、其ノ役務ニ服シタル



場合ト雖亦同シ。

第二十七條 攻圍及砲撃ヲ爲スニ當リテハ、宗教、技藝、學術及慈善ノ用ニ供セララルル建物、歴史上ノ紀念建造物、病院、竝、病者及傷者ノ收容所ハ、同時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限、之ヲシテ成ルヘク損害ヲ免レシムル爲、必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキモノトス。被圍者ハ、看易キ特別ノ徽章ヲ以テ、右建物又ハ收容所ヲ表示スルノ義務ヲ負フ。右徽章ハ、豫メ之ヲ攻圍者ニ通告スヘシ。

第四十六條 家ノ名譽及權利、個人ノ生命、私有財産、竝、宗教ノ信仰及其ノ遵行ハ、之ヲ尊重スヘシ。

私有財産ハ、之ヲ沒收スルコトヲ得ス。

第五十六條 市區町村ノ財産、竝、國ニ屬スルモノト雖、宗教、慈善、教育、技藝及學術ノ用ニ供セララルル建設物ハ、私有財産ト同様ニ之ヲ取

扱フヘシ。

右ノ如キ建設物、歴史上ノ紀念建造物、技藝及學術上ノ製作品ヲ、故意ニ押收、破壊又ハ毀損スルコトハ、總テ禁セラレ、且、訴追セラルヘキモノトス。

上記條約ニ依リ、戰時事變ノ際、陸海軍ノ衛生勤務ニ従事スル

我赤十字社救護員ハ軍術ヨリ圖ノ如キ臂章ヲ、認識證明書(赤十字社)

救護員タル身分ヲ證明セルモノト共ニ受領ス。







第二 現今世ニ知ラレタル各種ノ事實及科學並ニ醫學的知識  
上ノ新貢獻及其ノ應用ヨリ得ラルヘキ恩惠ヲ世界ノ全人民  
ニ蒙ラシムル爲ニ仲介トナリ以テ人類ノ幸福ヲ助長スルコ  
ト。

第三 國內及國際間ニ異常ノ災厄起リタル場合ニ於テ其ノ救  
護事業ヲ協同シテ行フ爲ニ仲介者トナルコト。

第二章 日本ニ於ケル赤十字事業

第一 日本赤十字社ノ主旨、沿革

日本赤十字社ハ、報國恤兵ヲ經トシ、以テ忠君愛國ノ實ヲ舉ケ、  
博愛慈善ヲ緯トシ、以テ人道ノ誠ヲ效ス。是ヲ主義ノ大綱トナ

ス

本社ハ明治十年ノ亂ニ際シテ創設セル、博愛社ヲ以テ其ノ起原  
トス、博愛社ハ、此ノ亂ニ於テ、戰地官賊兩軍ノ傷者ヲ救護ス  
ル爲メ元老院議官大給恒、佐野常民其ノ他、有志者ノ首唱ニ係  
リ、同年五月一日、戰地ニ於テ征討總督ノ允許ヲ得（故ニ毎年五月  
一日ヲ本社創  
立記念  
日トス）事業ニ著手シ、救護員ヲ戰地ニ派遣シ、傷者病者ヲ救護  
シタリ當時皇室ノ賜金ヲ辱フシ、又、其ノ事業克ク國民ノ忠愛  
心ヲ發揮シ、一般ノ賛同ヲ得タルニ依リ戰後之ヲ永設ノモノト  
シテ、内ハ漸次其ノ擴張ニ勉メ、外ハ進ンテ各國ノ赤十字社ト  
同盟聯伍セムコトヲ期シ、我政府ノ赤十字條約ニ加盟シタル翌



年(明治二十年五月)ヲ以テ、社名ヲ日本赤十字社ト改メ、ジエ  
 ネヴァ中央社ヲ介シテ、歐洲各社ト親交ヲ結フニ至レリ。尋テ、  
 明治三十四年、民法ノ規定ニ從ヒ、定款ヲ設ケ、本社ヲ以テ社  
 團法人トナシ、又、同年勅令ヲ以テ、日本赤十字社條例ヲ公布  
 セラレ、更ニ、明治四十三年、同シク勅令ヲ以テ同條例ノ改正  
 公布アリ、本社ノ國家ニ對スル地位・任務・救護員ノ身分等ヲ明  
 確ニセラル。

本社ノ目的及事業ハ、其ノ定款第八條第九條ニ於テ、左ノ如ク列舉セ  
 リ。

第八條 本社ハ戰時傷者病者ヲ救護スルヲ以テ主タル目的トス。

前項ノ外天災事變ノ救護ヲ行ヒ及平時健康ノ増進、疾病ノ豫防、苦

痛ノ輕減ヲ圖ルモノトス。

第九條 本社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ。

一 戰時ニ在リテハ當該官廳ノ命令ニ從ヒ傷者病者ヲ救護スル  
 コト。

二 前號ノ爲常ニ必要ナル人員ヲ養成シ物品材料ヲ蒐集シ其ノ  
 準備ヲ完整スルコト。

三 天災事變ニ應スル準備及救護ヲ爲スコト。

四 健康ノ増進、疾病ノ豫防、苦痛ノ輕減ヲ圖ルコト。

本社ハ前記事業ニ必要ナル病院其他ノ機關ヲ設ク。

我赤十字社ハ、皇室ノ恩眷甚々渥ク、國民ノ賛同頗ル廣ク、社  
 ノ基礎ハ、年ヲ追フテ益々強固ニ、事業ハ愈々隆盛トナリ、各戰  
 役ニハ、軍人傷病者ノ救護事業ニ功績ヲ擧ケ、又、平時ノ災害



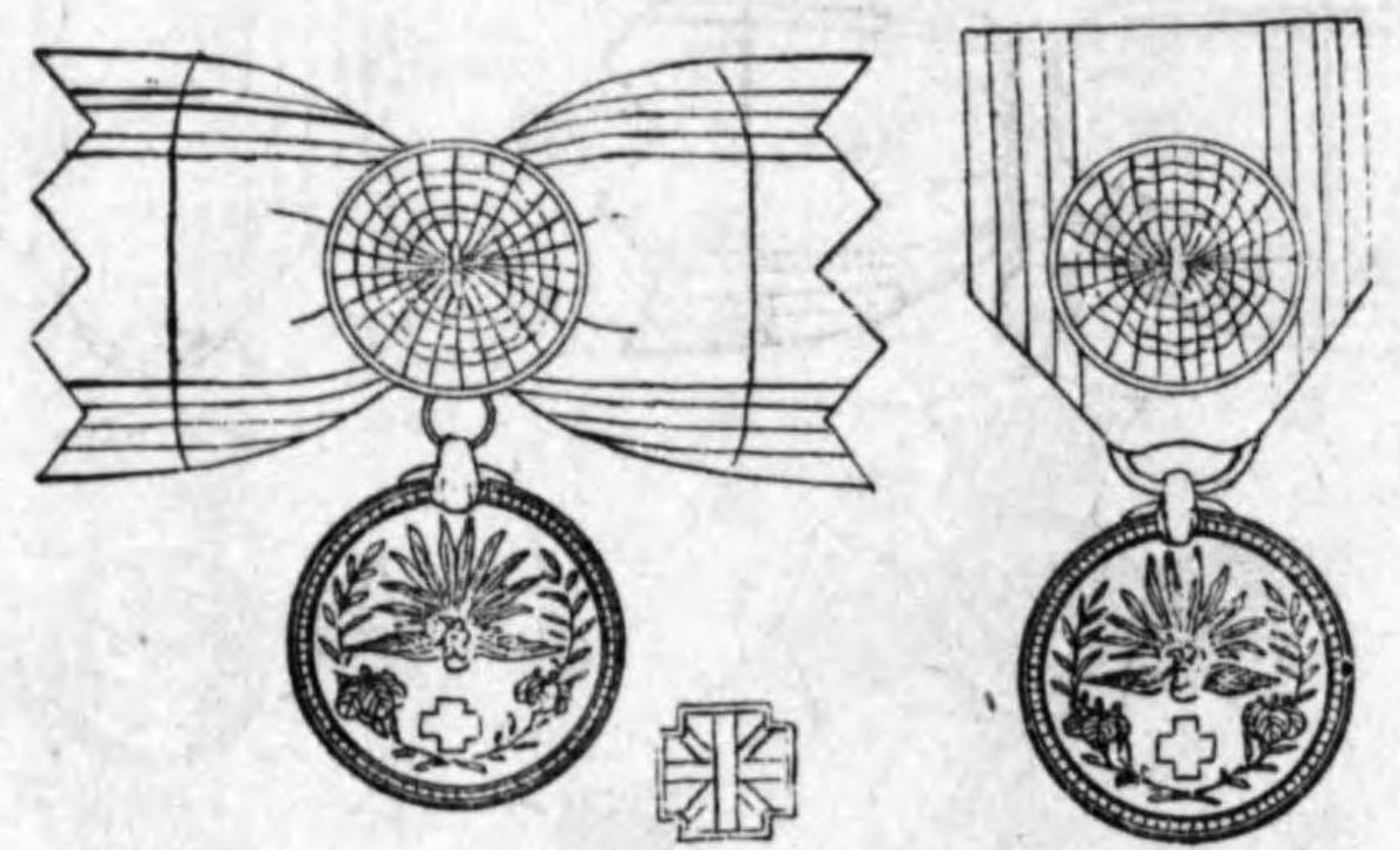
救護ニ力ヲ盡シテ中外ノ賞讃ヲ博シ、歐洲戰後ノ列國會議ニハ、  
 五大國赤十字社ノ一トシテ、赤十字聯盟ノ事ヲ議スル等、本社  
 ハ、嘗ニ我國家社會ニ有用ナルノミナラス、世界ニ重キヲ爲ス  
 ニ至レリ。

社員總會ハ、毎年一回之ヲ開キ、畏クモ 皇后陛下ノ臨御ヲ  
 仰クノ光榮ヲ有ス。支部モ、亦、時々總會ヲ開キ、總裁殿下台臨  
 アラセラレ又ハ社長其他本部職員等之ニ臨ムヲ例トス。

社員ハ、名譽社員・特別社員・正社員ノ三種トシ、各、一定ノ社  
 員章アリ本社ノ事業又ハ社資ヲ幫助シ、特別ノ功勞アル者ニ  
 ハ、上奏裁可ヲ經テ、有功章ヲ授與ス。各種社員章有功章ハ、

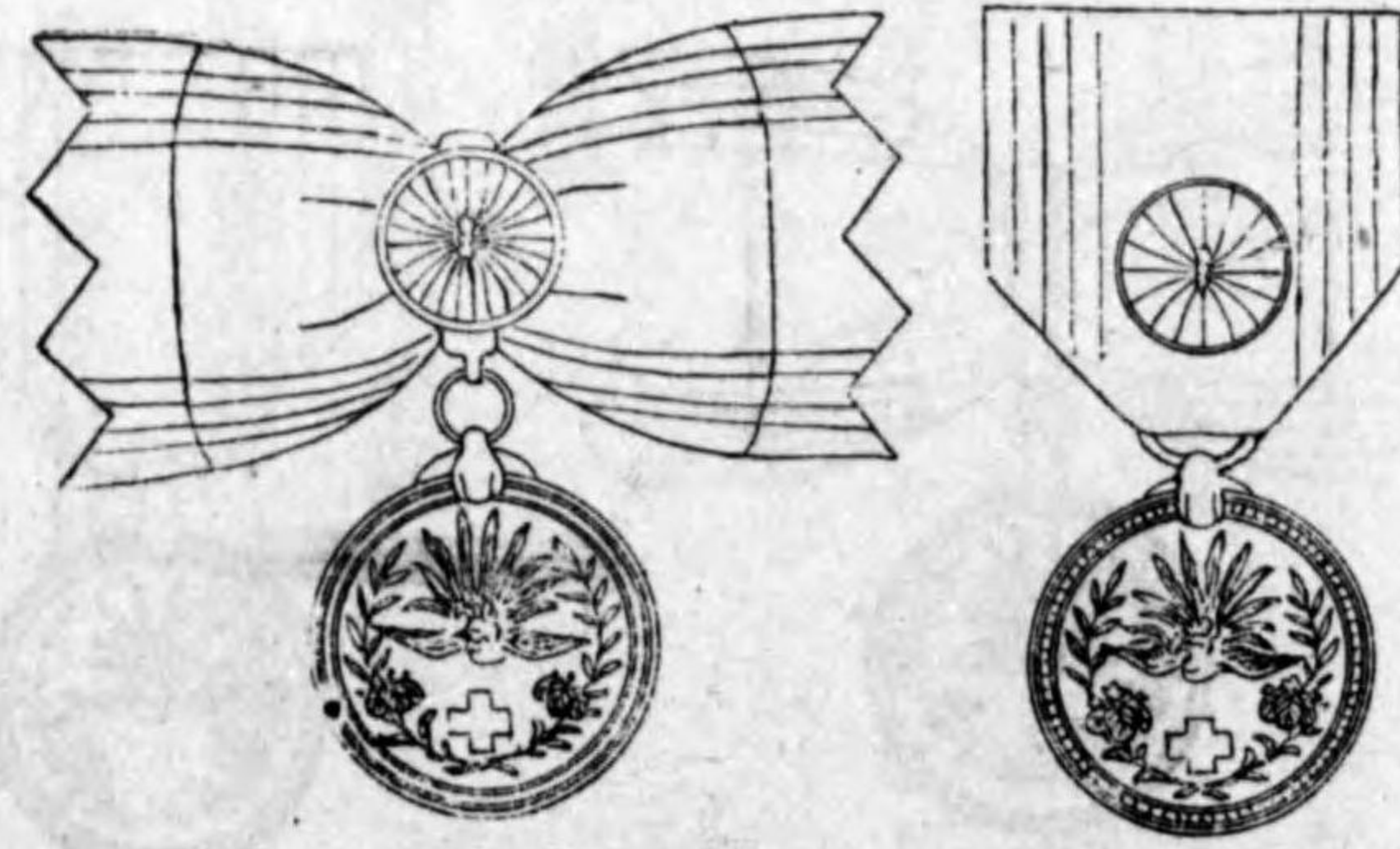
第一圖

（織赤綬金鍍銀章）名譽社員章  
 （織赤綬銀章）特別社員章



章女 綬略 章男

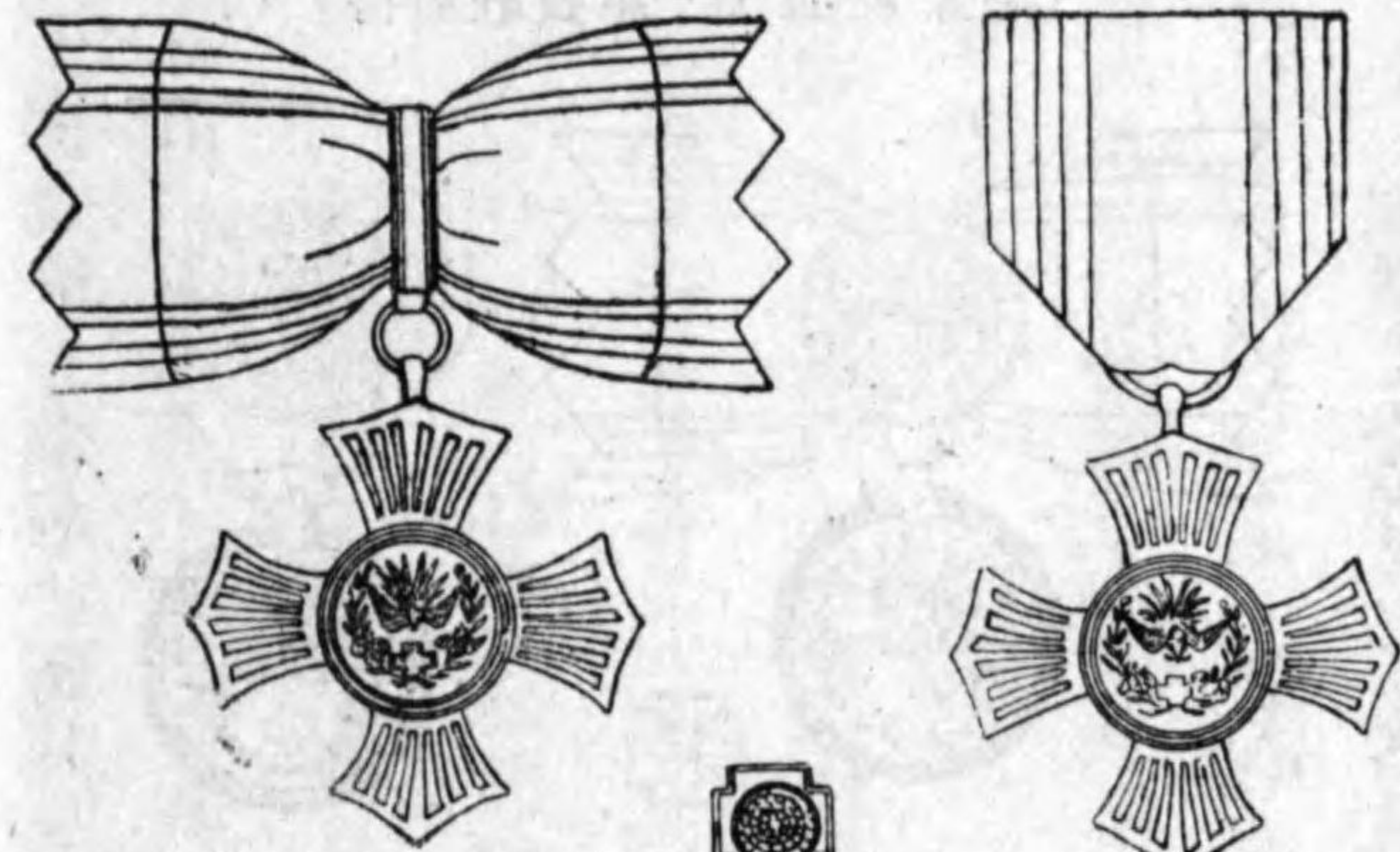
（織赤綬銀章）終身社員章



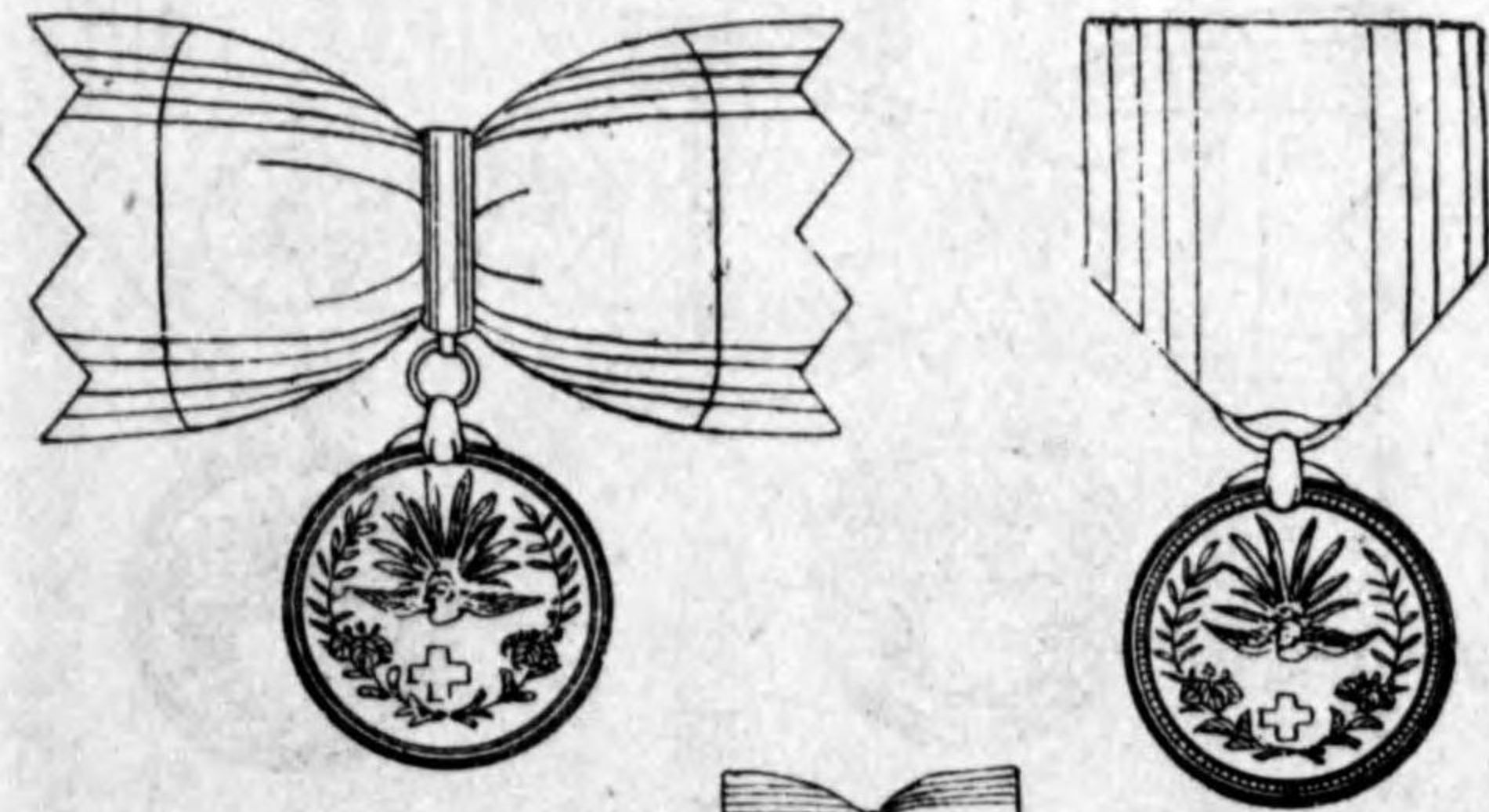
章女 綬略 章男



第二圖  
有功章 (銀綬赤綵)



女章 略綬 男章  
正社員章 (銀綉赤綵)



女章 略綬 男章

勳章ト同シク、公會ニ佩用スルコトヲ得ルモノナリ(第二圖)  
 名譽社員ハ、常議會ノ議決ニ困リ推崇セラレタル者。特別社員ハ、  
 本社ノ事業又ハ社資ヲ幫助シタルノ功ヲ以テ推薦セラレタル者。  
 正社員ハ、年釀金三圓以上ヲ納ムル者トス。正社員ノ年釀金八十  
 圓年ヲ一期トシ、一期ヲ完了シタル者及一時金二十五圓以上ヲ納  
 メタル者ヲ、終身社員トス。

第二 日本赤十字社ノ組織

一 日本赤十字社ハ 天皇 皇后兩陛下眷顧ノ下ニ立ち、  
 皇族殿下ヲ總裁ニ奉戴シ、陸軍海軍内務各省ノ監督ヲ受ケ、  
 社務八十名ノ理事之ヲ管理シ、其ノ内一名ヲ社長、二名ヲ副社  
 長トシ、社務ヲ提理スル者トス。社長・副社長ハ勅任セラレ、



其ノ他ノ理事ハ常議員中ヨリ之ヲ選舉ス。常議員ハ三十名ニシテ、常議會ヲ開キ、本社重要ノ事項ヲ議決ス。監事ハ、本社財産及業務執行ノ狀況ヲ監査スルモノニシテ三名アリ。常議員及監事ハ、社員總會ニ於テ之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ三ケ年トス。

二 本部・支部本社ノ事務ヲ取扱フタメ、本部ヲ東京市(芝公園内)ニ置キ支部ハ行政ノ管區ニ從ヒテ北海道・各府縣及臺灣ニ置キ、支部ノ下ニ委員部ヲ置キ、其ノ下ニ分區ヲ置ケリ。又、朝鮮ニ朝鮮本部ヲ、樺太ニ樺太委員部ヲ、滿洲ニ滿洲委員部ヲ設ケ、其ノ他、外國ニ於テ必要ナル地方ニ特別委員部ヲ置

ク。

三 病院 日本赤十字社病院及支部病院ハ救護員ヲ養成スル機關ニシテ、平時ハ其必要ノ爲ニ、一般患者ヲ診療シ、且、貧困患者ヲ施療ス。又戰時ニ方リテハ、其ノ建物ヲ、陸海軍ノ傷病者收容ノ用ニ供セラルルモノナリ。

日本赤十字社病院ハ、初メ、博愛社病院ト稱シ、明治十九年ニ創設シ同二十年、社名改稱ト共ニ、日本赤十字社病院ト改メタリ、當病院ハ本部ニ屬ス。支部病院ハ、支部ノ設立シタルモノニシテ、現今、北海道・大阪・兵庫・群馬・茨城・三重・滋賀・長野・諏訪ニ分院アリ、岩手・秋田・富山・鳥取・山口・和歌山・香川・愛媛・臺灣ノ各支部ニ之ヲ設置ス。又、奉天ニ日本赤十字社奉天病院アリテ、滿洲委員部ニ屬ス。其ノ他、滿洲委



員部ニ於テハ、管内樞要ノ地ニ救療所ヲ置キ、貧困患者ノ救療ヲ行フ。

四 産院 日本赤十字社産院及支部産院ハ、兒童保健ノ爲、無料ヲ以テ妊婦産婦ノ保護助産ヲ行フ目的ニテ、設立シタルモノニシテ、多クハ、産婆養成所ヲ附設ス、産婆養成所ハ産院ノ外、病院ニモ、之ヲ附設スルコトアリ。

日本赤十字社篤志看護婦人會 本會ハ、明治二十年ノ創設ニシテ、日本赤十字社監督ノ下ニ立チ、婦人社員中ノ同志者ヲ以テ組織セルモノナリ。總裁ニハ皇族妃殿下ヲ奉戴シ職員ニハ、會長・副會長・幹事評議員等アリ。會ノ目的ハ、社旨ノ普及ヲ圖リ、戰時平時ノ別ナク、社業ヲ幫助スルニアリ。是カ爲メ、會員ハ、常ニ看護學ヲ研修シ、既往ノ戰

役ニ於テハ、軍人傷病者ヲ陸軍病院ニ於テ看護シ、或ハ之ヲ慰藉シ、又、繃帶ヲ調製寄贈スル等、功績多シ。

本會ハ、事務所ヲ東京(日本赤十字社本部内)ニ置キ、支部ヲ日本赤十字社支部所在地及國外必要ノ地ニ設ク。會員ハ、名譽會員及正會員ノ二種トス。

### 第三 戰時救護事業

一 戰時救護事業ハ、戰時又ハ時變ニ方リ、陸軍大臣海軍大臣ノ命ヲ受ケ、或ハ認可ヲ得テ實施セラルルモノナリ。

二 戰時救護事業ハ、社長之ヲ統轄シ、救護部及救護團體ヲ編成シテ之ヲ行フ。救護團體ハ、別テ、救護班・病院船・病院列車及救護自動車ノ四種トス。



救護團體ハ、平時、本部及支部ニ於テ、分擔準備ス。

三 救護材料ハ、大別シテ、衛生材料ト普通材料トノ二種トス。衛生材料トハ、器械・藥物・滋養品・消耗品・患者被服寢具及患者運搬具ヲ云ヒ、普通材料トハ事務用品・救護員貸與品・救護員給與品・天幕・食器庖厨具及雜品ヲ云フ。救護材料ハ、救護團體ノ數ニ應シ、平時之ヲ準備スルモノニシテ、救護團體作業中、其ノ補給ヲ要スルトキハ、品目ニ依リ、救護部或ハ所屬官司ニ請求シテ交付ヲ受クルモノトス。

四 本社ノ戰時救護事業ハ、明治二十七八年日清戰役・明治三十三年清國事變・明治三十七八年日露戰役及大正三四年戰役ニ於テ之ヲ

實施シタリ。(大正七年以來十年迄救護班ヲ浦鹽ニ派遣シ、又十年以來薩哈噠洲ニ之ヲ派遣セリ)

明治二十七八年戰役ニ於テ派遣セル救護員千五百餘名ハ、廣島外九箇所ノ陸軍豫備病院及滿洲朝鮮各地ニ於テ、陸軍衛生部ノ勤務ヲ補助シ、又海上輸送患者救護ノタメ、船内ニ勤務シ、其ノ他、東京外三箇所ニ於ケル俘虜患者ノ救護及臺灣匪徒征討ノ際、同地兵站病院ノ勤務ニ服シ、三十三年清國事變ノ際ニハ、派遣セル救護員五百餘名ニシテ、廣島豫備病院及太沽天津通州山海關等ノ各地ニ勤務シ、又病院船博愛丸及弘濟丸ヲ以テ、太沽字品間ニ往復シテ患者ヲ輸送セリ。三十七八年戰役ニ於テハ臨時救護部ヲ本部ニ、其ノ出張所ヲ廣島外十一箇所及大連ニ設ケ救護團體百五十餘箇、救護員五千百餘名ヲ派遣シ、内地ニ在リテハ各地豫備病院・要塞病院及海軍病院ニ、海上ニ在リテ



ハ、二隻ノ本社病院船及十八隻ノ陸軍病院船ニ、戰地ニ在リテハ、滿洲・朝鮮各地ノ兵站病院、患者療養所等ニ於テ、陸海軍ノ衛生勤務ヲ幫助シ、又、停車場、著船場ニ、患者休養所ヲ置キ、還送患者ノ慰藉ニ從事シ、大正三・四年戰役ニ於テハ、理事員派出所一箇、救護團體六箇、救護員百餘名ヲ派遣シ、佐世保海軍病院及青島ノ陸軍病院ニ於テ、其ノ衛生勤務ヲ幫助シ、又、病院船二隻ヲ派遣セリ。以上救護ノ成績ハ良好ニシテ、救護員ニハ叙勳又ハ賜金ノ恩命アリ、殊ニ、三十七八年戰役ニ際シ、職務ノ爲メ死歿セル救護員ハ、特旨ヲ以テ、其ノ靈ヲ靖國神社ニ合祀セラレ、又二十七八年及三十七八年兩戰役ノ救護ニ對シテ、天皇、皇后兩陛下ヨリ優渥ナル勅語令旨ヲ下シ賜ハリタリ。其ノ他、大正三年ニ起リタル歐洲ノ戰亂ニ於テハ、聯盟諸社相互幫助ノ主旨ニ依リ、交戰國赤十字社ノ救護事業ニ協力スル爲、特別編制ノ救護班ヲ英、佛、

露ノ三國ニ其ノ一箇ツツヲ派遣シ、白耳義塞爾比亞伊太利ニ對シテハ救護材料ヲ寄贈シ、派遣救護員ニハ當該國ヨリ勳章、記章ヲ贈與セラレ、其ノ後、歐洲戰愈、熾ナルヲ以テ、本社ハ慰問使ヲ歐米ニ派遣シテ、救護材料ヲ寄贈シ、大正七年ニハ、救護班ヲ浦鹽ニ派遣シテ、我軍隊ノ衛生勤務ヲ幫助シ、チエツク、スロワツク軍患者ヲ救療ス。該救護班ハ、其ノ後、浦鹽ニ病院ヲ繼續シテ内外人患者ノ救療ニ從事シ、派遣救護員ノ一半ハ、同地病院ノ勤務ニ從事シタリシガ、大正十年之ヲ徹退シ、又同年以來ハ薩哈唎洲ニ救護員ヲ派遣シ、陸軍病院ノ勤務ヲ幫助セシメツツアリ。

#### 第四 災害救護事業

一 災害救護ト稱スルハ、天災事變、其ノ他ノ場合ニ於テ公衆



ノ傷者及病者ヲ救護スルヲ謂フ。

二 災害救護事業ハ、其ノ地方支部ニ於テ、地方長官ノ依囑ヲ受ケ、又ハ地方長官ニ交渉シテ之ヲ實施ス。當該支部ニ於テ實施スルモ、救護ノ力足ラサルトキハ、支部長ノ具申ニ依リ、社長ハ他ノ支部又ハ本部ヨリ之ヲ援助ス。

三 災害救護ノ人員ハ、戰時救護ノ準備員ヲ以テシ、場合ニ依リ、臨時救護員ヲ任用ス。材料ハ、災害救護材料ノ規定アリ。救護員ノ召集ハ、概ネ戰時救護ノ場合ニ同シ。

災害救護ノ主ナルモノヲ舉クレハ、明治二十一年福島縣磐梯山ノ噴火、同二十三年紀州沖ニ於ケル土耳其國軍艦ノ遭難、同二十四年濃尾地方ノ地震、同二十九年三陸地方ノ海嘯、及秋田地方ノ地震、明治三十

年東京府八王子町及明治四十年函館ノ火災、同四十二年江濃地方ノ地震、同四十三年關東各地ノ水害、同四十四年東京市下谷淺草兩區ノ火災、北海道稚內地方ノ野火及神奈川縣箱根地方ノ旋風、同四十五年大阪市ノ火災、大正三年鹿兒島縣櫻島ノ爆發、秋田縣下ノ地震、同四年宮崎縣下ノ旋風、同五年滿洲ノ騷擾、青森縣下ノ汽車衝突、同六年長崎縣下ノ火災、臺灣ノ蕃人襲來、關東關西各地ノ風水害、同七年京阪地方ノ水害、長野縣下ノ地震、同八年橫濱市及岐阜縣下ノ火災、廣島縣下及臺灣ノ風水害、同七年ヨリ以降各地ノ流行性感冒、及大正十二年ニ於ケル關東地方ノ震災等ニシテ、其ノ他平時救護事業トシテ、各支部ニ於テ、或ハ巡回救護ヲ行ヒ、或ハ常設救護所ヲ設ケ、又多數集合ノ箇所ニハ、臨時救護所ヲ開キテ、不時ノ患者ヲ救護シタルコト枚舉ニ遑アラス。



## 第五 結核豫防撲滅事業

一 結核豫防撲滅事業ハ、其ノ地方支部ニ於テ實施スルモノニシテ、其ノ要領ハ講話若ハ印刷物ノ配布ニ依リ、結核ノ豫防撲滅ニ關スル智識ノ普及ヲ圖リ、診斷所ヲ置テ、結核ヲ早期ニ發見シ、其攝生及消毒等ノ方法ヲ懇諭シ、又、結核患者ヲ收療スル等、本病ノ豫防撲滅ヲ圖ルヲ以テ目的トス。本社病院ニ於テモ該患者ヲ收療ス。

二 結核豫防撲滅事業ハ、明治四十年ニ於ケル、第八回萬國赤十字總會決議ノ旨趣ニ基キ、着手シタルモノニシテ、其ノ診斷及收療ノ順序ハ、徵兵(志願兵ヲ含ム)検査ニ於テ發見セラレ、又ハ入營後、結核若ハ其ノ疑似症トシテ斥ケラレタル者ヲ先キトシ、其ノ他ハ、地方各支部ニ於テ適宜ニ順序ヲ定メテ之ヲ行フ。

## 第六 兒童及妊産婦保護事業

一 本事業ハ、赤十字社聯盟條規ニ基キ、施設セルモノニシテ、本社又ハ支部ニ、産院又ハ妊産婦保護所等ヲ設ケ、無料ヲ以テ、之カ保護助産ヲ行フ事業ヲ云フ。

二 以上ノ外、各支部ニ於テハ、夏期、海濱又ハ林間ニ、保養所ヲ設ケ、虚弱ナル兒童ヲ收容シ、一定ノ期間、之ニ保養ヲ爲サシムル設備アリ。



第三章 救護員

第一 資格

- 一 救護員ハ、戰時事變又ハ災害ニ方リ、本社ノ召集ニ應シ、救護勤務ニ従事スルモノニシテ、常ニ年限ヲ定メテ誓約スルモノト、戰時事變ニ際シ、囑託又ハ任命セララルモノトアリ。救護員ハ、其ノ資格及所管ニ依リ、社長又ハ支部長之ヲ任命ス。
- 二 救護員ハ、戰時服務中、陸海軍ノ紀律ヲ守リ、命令ニ服スルノ義務ヲ負フモノトス。
- 三 救護員ハ、救護理事長・救護理事・救護主事（以上理事員ト

稱ス）救護醫長・救護醫員（以上醫員ト稱ス）救護調劑員・救護看護婦監督・救護書記・救護調劑員補・救護看護婦長・救護看護人長・救護看護婦・救護看護人ニ別ツ。而シテ戰時服務中ノ待遇ハ、日本赤十字社條例ノ規定ニ從ヒ、救護看護婦監督以上ハ陸海軍將校相當官ニ、救護書記以下救護看護人長以上ハ下士ニ、救護看護婦以下ハ兵卒ニ準セララル。

- 三 救護看護婦ハ、所要ニ從ヒ、本部及支部ニ於テ、生徒ヲ募集シ、一定ノ教育ヲ授ケタル者ヲ任用シ、救護看護婦長ハ、救護看護婦中ヨリ撰拔シ、救護看護婦長候補生トシテ、更ニ一定ノ教育ヲ授ケ、救護看護婦長適任證書ヲ授與シタル者、



又ハ二箇年以上本社病院又ハ支部病院ニ勤務シ、若ハ戰時救護ニ従事シタル者ヨリ、撰拔シテ任用ス。救護看護人及救護看護人長ノ任用、亦前記ニ同シ。但シ救護看護人長ハ、陸軍看護長、若ハ海軍看護兵曹タリシ者ヨリ任用セララルコトアリ。

四 救護員ハ、戰時事變、又ハ災害ニ方リ救護施行ノ場合ニ召集セラレ、又、演習及點呼ノ爲ニモ召集セララル。總テ召集セラレタルトキハ私事ノ故障ヲ排シテ、指定ノ日時ニ、指定ノ場處ニ到着スルノ義務アルモノトス。

五 救護員ハ、戰時事變ノタメ召集セララルトキ、俸給・旅費・

宿舍及糧食ノ給與ヲ受ケ、制服其ノ他ノ被服・物品ヲ貸與又ハ給與セララル。平時召集ニ在リテモ之ニ準ス。陸海軍ノ支給ヲ受クルヲ例トシ、戰地以外ニ在リテハ、本社ニ於テ之ヲ準備シ、場合ニ依リ陸海軍ノ支給ヲ受ク。

六 救護員ハ、戰時服務中、傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ、本社又ハ陸海軍ノ治療ヲ受ケ、歸郷療養ノ場合ハ、本社ヨリ手當ヲ給セララル。

七 救護員、服務中ノ傷痍疾病ニ起因シ、廢疾不具トナリタル者ハ、一定ノ傷病扶助料ヲ受ケ、服務中ノ傷痍疾病ニ起因シ、



死歿シタル者ニハ、其ノ遺族ニ遺族扶助料及弔慰料ヲ給セラ  
ル

八 救護員、服務中犯則ノ行爲アリタル者ハ、本社ニ於テ定メ  
タル懲戒處分ヲ受ケ、陸海軍ノ規律ヲ守ラス、又ハ命令ニ服  
セサルトキハ、陸海軍ヨリ相當ノ處分ヲ受クルコトアルヘシ。

### 第二 禮式

#### 其一 通則

一 救護員ハ、互ニ敬禮シテ、敬愛ノ誠意ヲ表スヘキモノトス。  
二 敬禮ハ、上長ニ對シテ、下級者ヨリ之ヲ行ヒ、上長ハ之ニ  
答禮シ、同級者ハ、互ニ敬禮ヲ交換スヘキモノトス。

敬禮ヲ行フトキハ、通常、受禮者ノ答禮終ルヲ待チテ、舊姿  
勢ニ復ス。並ニ對シテ、互ニ敬禮シ、互ニ敬禮ヲ  
階級ノ識別、困難ナル場合ニハ、先後ヲ論セス、互ニ敬禮ヲ  
行フ。  
三 廉アル場合ニ於テ、「君カ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ、其ノ間、  
姿勢ヲ正スモノトス。

四 二人以上ノ上長ニ對スル敬禮ハ、先ツ最高級ノ人ニ對シテ、  
之ヲ行ヒ、次ニ、他ノ上長一同ニ對シテ之ヲ行フ。

#### 其二 敬禮ノ方式

一 敬禮ハ、姿勢ヲ正シクシ、受禮者ニ注目シ、體ノ上部ヲ約



十五度ニ傾ケ、頭ハ正シク上體ノ方向ニ保ツモノトス。凡テ、女救護員ハ、敬禮ノ際、帽ヲ脱スルコトナシ。

二 陛下及公式ノ場合ノ殿下ニ對シ奉リテハ、最敬禮ヲ行フ。

最敬禮ハ、體ノ上部ヲ約四十五度ニ傾クルノ他、前記ノ敬禮

ニ同シ。

三 拜神ノ時ハ、神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ拜禮ヲ行フ。

四 團體ニテ目迎目送ヲ行フ場合ニハ、引率者ハ「頭、右(左)ノ號令ヲ下シ、一同、頭ヲ右(左)ニ向ケテ受禮者ニ注目シ、受禮者ノ行進ニ從ヒテ頭ヲ轉シ、「直レ」ノ號令ニテ正面ニ復スルモノトス。

五 男救護員ノ敬禮ハ、舉手注目其ノ他、軍人ト同様ニ之ヲ行

フ。

其三 室内ノ敬禮

一 上長ノ室内ニ入ルトキハ、上長ニ面シ、入口ニ於テ敬禮ヲ行フ。其ノ室ヲ去ルトキ亦同シ。

二 上長、室内ニ來ルトキハ、立チテ敬禮ヲ行ヒタル後、各其ノ業務ニ服シ、上長、其ノ室ヲ去ルトキハ、再ヒ立チテ敬禮ヲ行フ。但シ、上長ニ應答スル者ハ、其ノ間起立ス。

三 救護看護婦長以下ノ室内ニ、救護看護婦監督以上ノ上長來タルトキハ、最初之ヲ認メタル者「敬禮」ト呼ビ、其ノ室ニ在



ル者、皆其ノ場ニ立チテ、敬禮ヲ行ヒ、上長ノ許可アリタル後、各其ノ業務ニ服ス。其ノ他ノ敬禮ヲ行ヒ、其ノ他ノ敬禮ヲ省略セシムルモ妨ケナシ。

四 講堂内ニ、講師ヨリ上級ノ者來ルトキハ、講師ハ一同ニ敬禮セシム。其ノ退出時亦同シ。但シ、場合ニ依リ、講師ノミ敬禮ヲ行フコトアリ。

五 上長ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ、又ハ上長ニ之ヲ呈セムトスルトキハ、敬禮ノ後、適宜前進シ、右手若ハ兩手ヲ以テ之ヲ受ケ、又ハ呈シタル後、舊位ニ復シ、再ヒ敬禮ヲ行ヒ退

去ス。

前項ノ場合ニ於テ、返簡若ハ受領書ヲ受クヘキトキハ、適宜ノ位置ニ退キテ之ヲ待ツ。

六 上長ヨリ、辭令書・賞狀等ヲ受ケタルトキハ其ノ場ニ於テ披見スルヲ例トス。

命令・訓示ヲ受ケ、又ハ報告ヲ爲サムトスルトキ、亦前項ニ準ス。

七 廉アル會合ニ於テ、上長ト同席スルトキハ、上長ヨリ先キニ、椅子ニ倚リ、又ハ食卓ニ就キ、若ハ之ニ離ルルコトナキヲ禮トス。



八 室内ニテ、室外ノ上長ヲ認メタルトキハ、敬禮ヲ行フ。室外ニテ、室内ノ上長ヲ認メタルトキ、亦同シ。

其四 室外單獨ノ敬禮

- 一 途上ニ於テ、行幸行啓ニ遇フトキハ、前驅ノ稍前ヨリ、道路ノ一側ニ於テ、車駕ノ通路ニ面シテ停止シ(乗車者)車駕ノ近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ、且、目迎目送スヘシ。
- 二 汽車・汽船等ニテ通御ノ際、亦、前項ニ準シ、敬禮ヲ行フ。
- 三 上長ノ許ニ至ルトキハ、適宜ノ距離ニ於テ、之ニ面シテ停止シ敬禮ヲ行フ。
- 三 上長ト同行スルトキハ、上長ノ行進ヲ妨ケサルカ如ク、其

ノ左側又ハ後方ニ就キ、上長ノ步調ニ合ハスヲ禮トス。但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス。

四 上長ノ後方ヨリ進ミテ、之ヲ通り過キムトスルトキハ、其ノ旨ヲ告ケテ通過ス。

五 停止間ニ於テ、上長其ノ傍ヲ通過セムトスルトキハ、之ニ面シテ敬禮ヲ行フ。

六 車・船等ニ乘リテ、上長ニ行遇ヒ、若ハ其ノ傍ヲ通過シ、又ハ車内・船内ニテ上長ニ遇フトキハ乗座ノ儘、姿勢ヲ正シテ敬禮スルモ妨ナク、又、敬禮ヲ行フニ、危険ヲ感スルトキハ、單ニ注目ヲ以テ敬禮ニ代フルヲ得。



汽車・電車等ノ内ニテハ、成ルヘク、上長ニ其ノ席ヲ讓ルヲ禮トス。

七 陸上又ハ本船ヨリ、端船又ハ小蒸汽船ニ移乗スルトキニハ下級者ヨリシ、之ニ反シテ、端船又ハ小蒸汽船ヨリ上陸シ、若ハ本船ニ移乗スルトキハ、上級者ヲ先ニスルヲ禮トス。

八 救護團體ニ對シテハ、其ノ引率者ニ敬禮ヲ行フ。

九 途上ニ於テ、救護員ノ葬儀ニ遇フトキハ、階級ノ如何ニ拘ハラズ、其ノ柩ニ對シ敬禮ヲ行フ。

其五 室外團體ノ敬禮

一 行幸・行啓ノトキニハ、車駕ノ通路ニ正面シテ整列シ、引率

者ノ號令ニテ敬禮ヲ行ヒ、目迎目送スヘシ。

汽車・汽船ニテ通御ノ際、亦之ニ準ス。

二 團體ニテ行進中ニ、敬禮ヲ行フトキハ、引率者ハ要スレハ、步調ヲ正シタル後頭右(左)ノ號令ヲ下シ、一同受禮者ニ注目シ「直レ」ノ號令ニテ正面ニ復ス。整列シタルトキハ、引率者「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ、更ニ「敬禮」ト呼ヒ、一同敬禮シ、又、受禮者、整列シタル前ヲ通過スルトキハ、目迎目送スヘシ。途步行進中、作業中、若ハ休憩中ニ在リテハ、引率者ノミ敬禮ヲ行フコトアリ。

其六 軍人及軍隊等ニ對スル敬禮



- 一 軍人ニハ、救護員ニ對スルト、同一ノ敬禮ヲ行フ。
  - 二 軍旗ニ行逢ヒ、若ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ、敬禮(救護看護婦長以下、單獨行進中ニ在リテハ、之ニ面シテ停止シ、敬禮ス。)ヲ行フ。
  - 三 軍艦旗ノ昇降スルトキハ、之ニ面シテ敬禮ヲ行ヒ、室内ニテ其ノ昇降ノ號音ヲ聞クトキハ、姿勢ヲ正スモノトス。
  - 四 軍隊(引率者アル軍人ノ隊伍)ニハ、其ノ引率者ニ對シテ敬禮ス。但シ、儀式及祭典ノ爲メ、整列シタル軍隊、儀仗服務中ノ儀仗兵、竝、會葬ノ儀仗兵ニ對シテハ其ノ引率者ニモ敬禮ヲ行ハス。
- 第二三 服從、敬稱、稱呼
- 一 凡ソ命令ニ服從スルハ、規律ヲ正シクスルノ基タルヲ以テ、

- 下タル者ハ上タル者ニ順ヒ、諸事柔和ニシテ、決シテ粗暴ノ舉動アルヘカラス。
- 二 下タル者、上タル者ニ服從スルハ、階級ヲ逐フテ嚴重ナルヘク、各其ノ分限ヲ守リ、以テ恭敬遵奉スヘシ。又、同級中ハト雖、新古ニ因テ服從ノ法ヲ守ルコト、恰モ上下ヲ階級ニ於ケルカ如クナルヘシ。
- 三 救護員中、其ノ職務權域ヲ異ニスル場合ハ、上級者ト雖、猥リニ他ノ權域ヲ侵スヘカラス。
- 四 我軍人軍隊ハ勿論、同盟國ノ赤十字社又ハ軍人軍隊ト連合スルトキハ、亦同シク、服從ノ定則ヲ守ルヘシ。



五、上長ノ命令ハ、謹テ之ヲ守リ、直ニ之ヲ行フヘシ。決シテ其ノ當不當ヲ論シ、理不理ヲ議スヘカラス。然レトモ、其ノ命令ノ不分明ナルトキハ、徐ニ之ヲ尋ヌルハ妨ケナシ。又、新ニ受クル所ノ命令ト、以前ノ命令ト齟齬スルトキハ、其ノ趣ヲ申述ヘ、然ル後之ヲ行フモノトス。

六、上タル者ノ取扱、假令不條理ナリト思フトモ、下タル者ハ決シテ之ヲ争ヒ論スルコトナク、穩ニ順序ヲ經テ訴フヘシ。若、勤務中ナルトキハ、勤務終リテ後、之ヲ訴フルモノトス。

七、下タル者、上タル者ヲ呼フニハ、直接ト間接トヲ論セス、必ス左ノ敬稱ヲ用フヘシ。

- 一 天皇 皇后 太皇太后 皇太后ニ對シ奉リテハ 陛下
- 二 皇太子 皇太子妃及其ノ他ノ皇族ニ對シ奉リテハ 殿下

三 社長・副社長・支部長・救護理事長ニハ 閣下

四 救護理事以下ニハ 殿

陸海軍將官ニハ閣下、佐官以下ニハ殿、其ノ他ハ概ネ之ニ準ス。

八、他人ト談話中、上級古參者ニ言及スルトキ、亦、敬稱ヲ用ウ、然レトモ、上タルモノニ對シ、其ノ人ヨリ下級者ヲ呼フニハ、敬稱ヲ略スルコトヲ得。



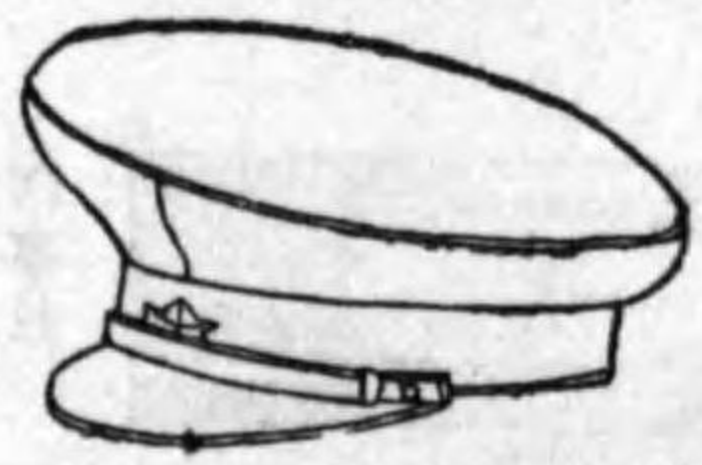
九 上タル者、下タル者ヲ呼フニハ直接ト間接トヲ論セス、其ノ氏ト職名トヲ用ウ、例ヘハ「某救護醫員」「某救護看護婦」ト云フカ如シ。又單ニ其ノ氏、若ハ、磨工ノ如キ、勤務上ノ稱呼ヲ用ウルモ妨ナシ。

十 公文書ノ宛名ニハ、身分・階級ノ如何ヲ問ハス、殿ノ敬稱ヲ記スルモノトス。願・届等ノ書類亦同シ。

第四 服

救護員ハ、其ノ服務中、本社ニ於テ定メタル制服ヲ着用スルモノトス。其ノ服制ハ、大別シテ男救護員服制及女救護員服制トス。即チ圖ノ如シ。

男救護員服制



表面茶褐絨ニシテ深緑絨ノ鉢巻ヲ有シ、桐花ノ中央ニ、赤色十字ヲ表シタル前章ヲ附ス。

帽ノ前章



衣



茶褐絨ニシテ、銀色金屬ノ釦（救護書記以下ハ白銅製）及深緑色ノ袖章ヲ附ス。夏衣ハ茶褐薄毛絨（救護書記以下ハ茶褐布）トス。

袴



茶褐絨ニシテ、深緑絨（救護書記以下ハ蛇腹組深緑毛糸）ノ側章ヲ附ス。夏袴ハ、地質夏衣ニ同シクシテ、側章ヲ附セス。

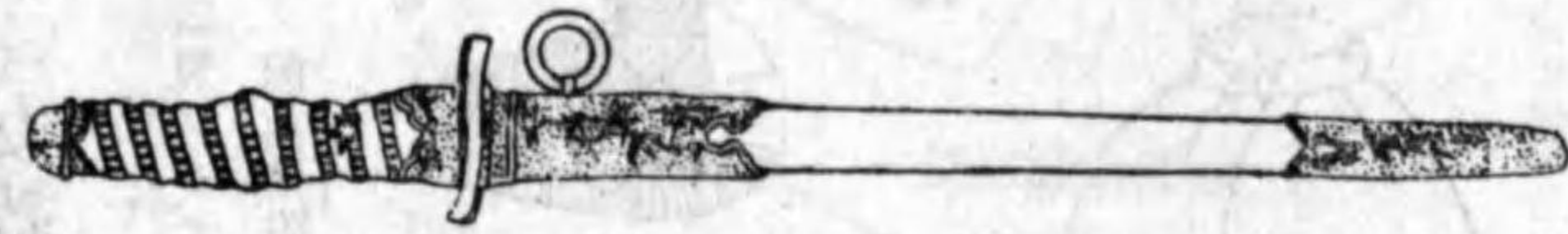
第三圖ノ一

救護員

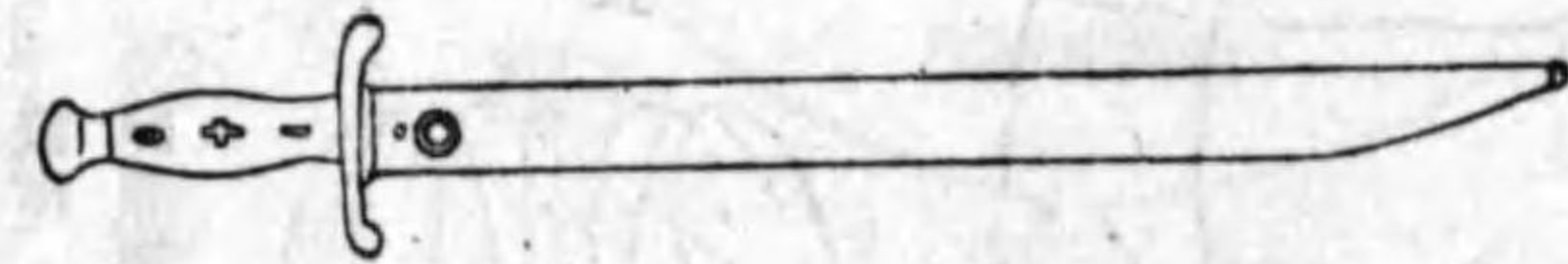


四ノ圖三第  
劍

上以事主護救

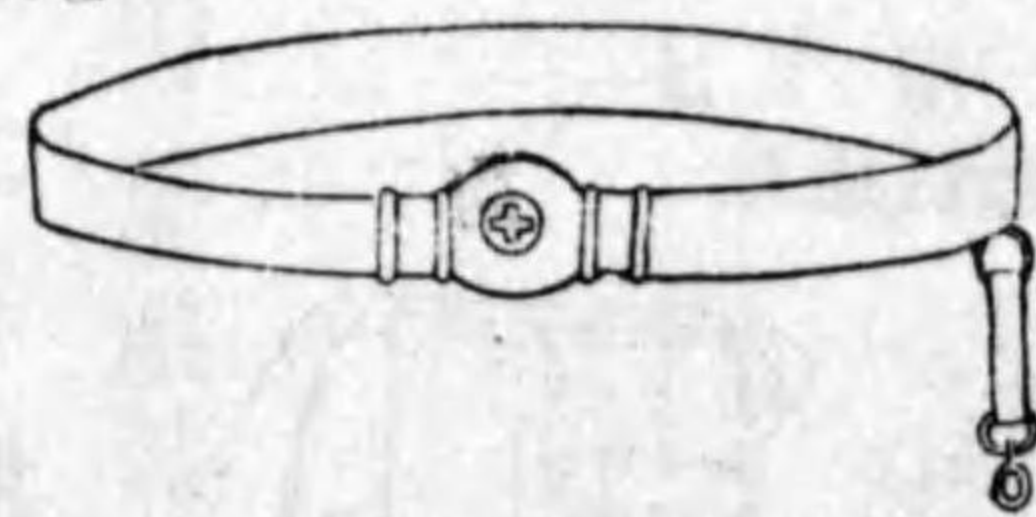


下以記書護救

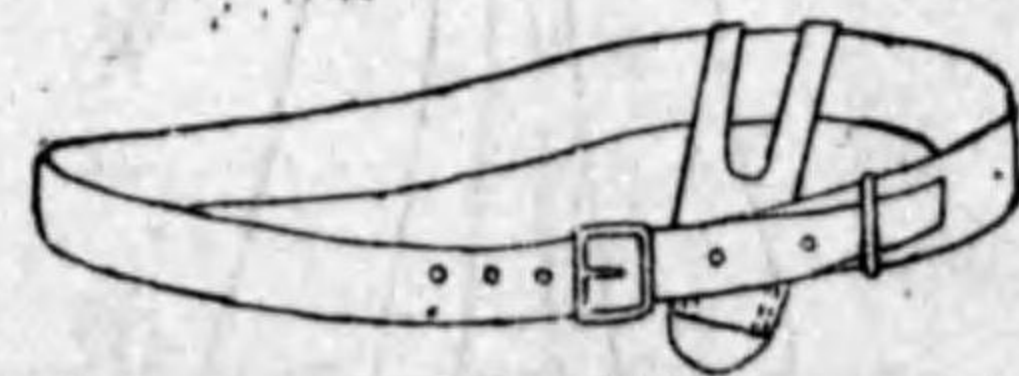


帶 劍

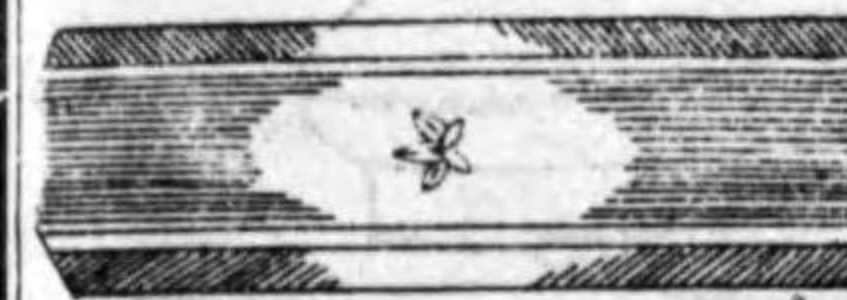
上以事主護救



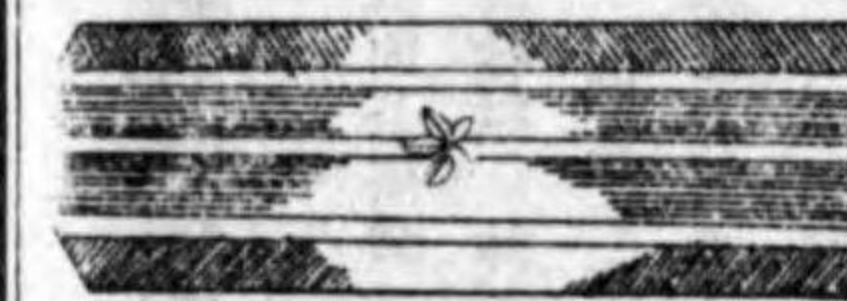
下以記書護救



三ノ圖三第  
章 肩  
三ノ圖三第  
以上主救護



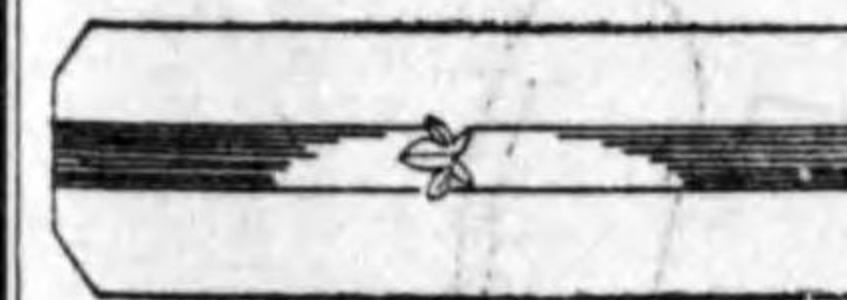
理事救護  
長



救護理事  
長



救護醫士  
救護主事



救護看護  
人長以上



救護看護  
人



外套 茶褐絨ニシテ、鈕及袖章ハ衣ニ同シ。

救護書記  
以下



深緑絨ニシテ、線  
章ヲ銀色トシ、金  
色金屬ノ桐花章ヲ  
附ス。  
救護看護人ニハ、  
金色桐花章ノミチ  
附ス。



### 女救護員服制

五ノ圖三第



帽

外套

衣

袴

六ノ圖三第  
章 襟



救護看護婦監督

救護看護婦長

救護看護婦

銀色金屬  
ニシテ大  
サ肩章ノ  
桐化章ニ  
同シ

七ノ圖三第  
章 徽員護救



徽 章

石目銅臺ニシテ、中央ニ白地赤  
十字ヲ顯ハシ、其ノ外廓ヲ銅色  
トス。男女共ニ衣ノ右胸部ニ附  
ス。

### 第五服裝

一 女救護員ノ服裝ハ、第一種服裝及第二種服裝ニ別タル、第一種服裝ニハ、帽・衣襟布・袖布共・袴・救護員徽章・手套・靴ヲ用ヒ、儀式、其ノ他、廉アルトキハ、勳章・記章・社員章ヲ佩用ス、但シ、看護ニ從事スル際ニハ、看護衣ヲ着用シ看護帽ヲ戴クモノトス。



第二種服裝ハ、團體ヲ以テ行動スルトキ着用スル服裝ニシテ、第一種服裝ニ用ウルモノノ外、外套・飯盒・水筒及雜囊ヲ用ウ。

二 外套ハ、雨雪ノトキ又ハ防寒ノタメ、室外ニ於テ着用スルモノトス。但シ、許可ヲ得タルトキハ、室内ニテモ着用スルコトアリ。

外套ヲ卷テ携帯スルトキハ、左肩ヨリ右脇ニ之ヲ掛ク。手套ハ白色ヲ正規トスルモ、燻色・茶色又ハ褐色ノモノヲ用キルコトヲ得。

三 制服・看護衣及帽ハ、常ニ正シク着用スヘシ。袴ノ帶止ハ、衣ノ胸釦ノ直下トスルヲ正規トス。

看護衣ノ袖ヲ捲リ上クルトキハ、袖口ニアル乳ヲ臂紐ニ掛クヘシ。又看護衣着用ノトキハ、常ニ前垂ヲ用キルヲ要ス。

團體ヲ以テ行動スルトキノ外ハ、傘ヲ用キルコトヲ得。

### 第三編 陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領

#### 第一章 制 規

##### 第一 陸海軍軍人

一 陸軍ノ兵種ハ、憲兵科・歩兵科・騎兵科・砲兵科・工兵科・輜重兵科・經理部・衛生部・獸醫部及軍樂部トス。

二 海軍ノ兵種ハ、士官ヲ兵科・機關科・軍醫科・藥劑科・主計科・造船科・造機科・造兵科及水路科トシ、特務士官以下ヲ兵科・機關科・軍樂科・船匠科・看護科及主計科トス。

三 陸軍軍人ノ階級ハ、將校同相當官・准士官・下士及兵卒ニ大別ス。

將校トハ、大將ヨリ少尉ニ至ルマテノ諸官ヲ云ヒ、將校相當官トハ、將校ノ各官等ニ相當スル各部ノ諸官ヲ云フ。



准士官ハ、特務曹長及之ト同階級ノ諸官、下士ハ、曹長・軍曹・伍長及之ト同階級ノ諸官ヲ云ヒ、兵卒ハ上等兵・一等卒・二等卒及之ト同階級ノモノヲ云フ。

四 海軍軍人ノ階級ハ、士官（將校及同相當官）・特務士官・准士官・下士官・兵職ニ大別ス。

將校トハ兵科及機關科ノ大將ヨリ少尉ニ至ル諸官ヲ云ヒ、將校相當官トハ、其ノ他ノ諸科ニシテ將校ノ各官等ニ相當スル諸官ヲ云フ。

特務士官トハ、特務大尉ヨリ同少尉ニ至ル諸官、准士官ハ兵曹長、下士官ハ一等ヨリ三等ニ至ル兵曹ニシテ、兵職ハ一等ヨリ四等ニ至ル。

五 陸軍軍醫總監以下衛生部ノ各階級、海軍軍醫中將以下軍醫

科・藥劑科及看護科ノ各階級左ノ如シ。

陸軍軍醫總監	陸軍藥劑監	海軍軍醫中將	海軍藥劑科	海軍看護科
陸軍軍醫監	陸軍藥劑監	海軍軍醫少將		
陸軍一等軍醫正	陸軍一等藥劑正	海軍軍醫大佐	海軍藥劑大佐	
陸軍二等軍醫正	陸軍二等藥劑正	海軍軍醫中佐	海軍藥劑中佐	
陸軍三等軍醫正	陸軍三等藥劑正	海軍軍醫少佐	海軍藥劑少佐	
陸軍一等軍醫	陸軍一等藥劑官	海軍軍醫大尉	海軍藥劑大尉	海軍看護特務大尉
陸軍一等看護官				
陸軍二等軍醫	陸軍二等藥劑官	海軍軍醫中尉	海軍藥劑中尉	海軍看護特務中尉
陸軍二等看護官				
陸軍三等軍醫	陸軍三等藥劑官	海軍軍醫少尉	海軍藥劑少尉	海軍看護特務少尉
陸軍三等看護官				
陸軍見習醫官	陸軍見習藥劑官	海軍軍醫少尉候補生	海軍藥劑少尉候補生	
陸軍見習醫官				
陸軍軍醫生	陸軍藥劑生			



陸軍上等看護長	陸軍上等磨工長	海軍看護兵曹長
陸軍一等看護長	陸軍一等磨工長	海軍一等看護兵曹
陸軍二等看護長	陸軍二等磨工長	海軍二等看護兵曹
陸軍三等看護長	陸軍三等磨工長	海軍三等看護兵曹
陸軍上等看護卒	陸軍上等磨工卒	海軍一等看護兵
陸軍一等看護卒	陸軍一等磨工卒	海軍二等看護兵
陸軍二等看護卒	陸軍二等磨工卒	海軍三等看護兵
陸軍補助看護卒	陸軍二等磨工卒	海軍四等看護兵

第二 陸軍服制ノ大要

一 陸軍ノ服制ハ正装・禮装・通常禮装・軍装及略装ノ五種ニ區別セラル。

二 軍帽・軍衣袴・夏衣袴・外套・雨覆等ハ茶褐色ニシテ、其ノ製式ハ、各階級ヲ通シテ殆ト同一ナリ。而シテ軍帽ニハ緋色ノ

鉢卷アリ、其ノ前章ハ星章ニシテ、近衛師團ニ屬スルモノニ限り、星章下ニ櫻枝ヲ附ス。

三 各階級ハ、軍衣及外套ニ附シタル肩章ノ線(線ノ有無、其ノ廣サト數)及星ノ數ニ依リテ區分シ、又、雨覆ニハ襟ニ星ノ有無ト其ノ數ニ依リテ階級ヲ大別ス。

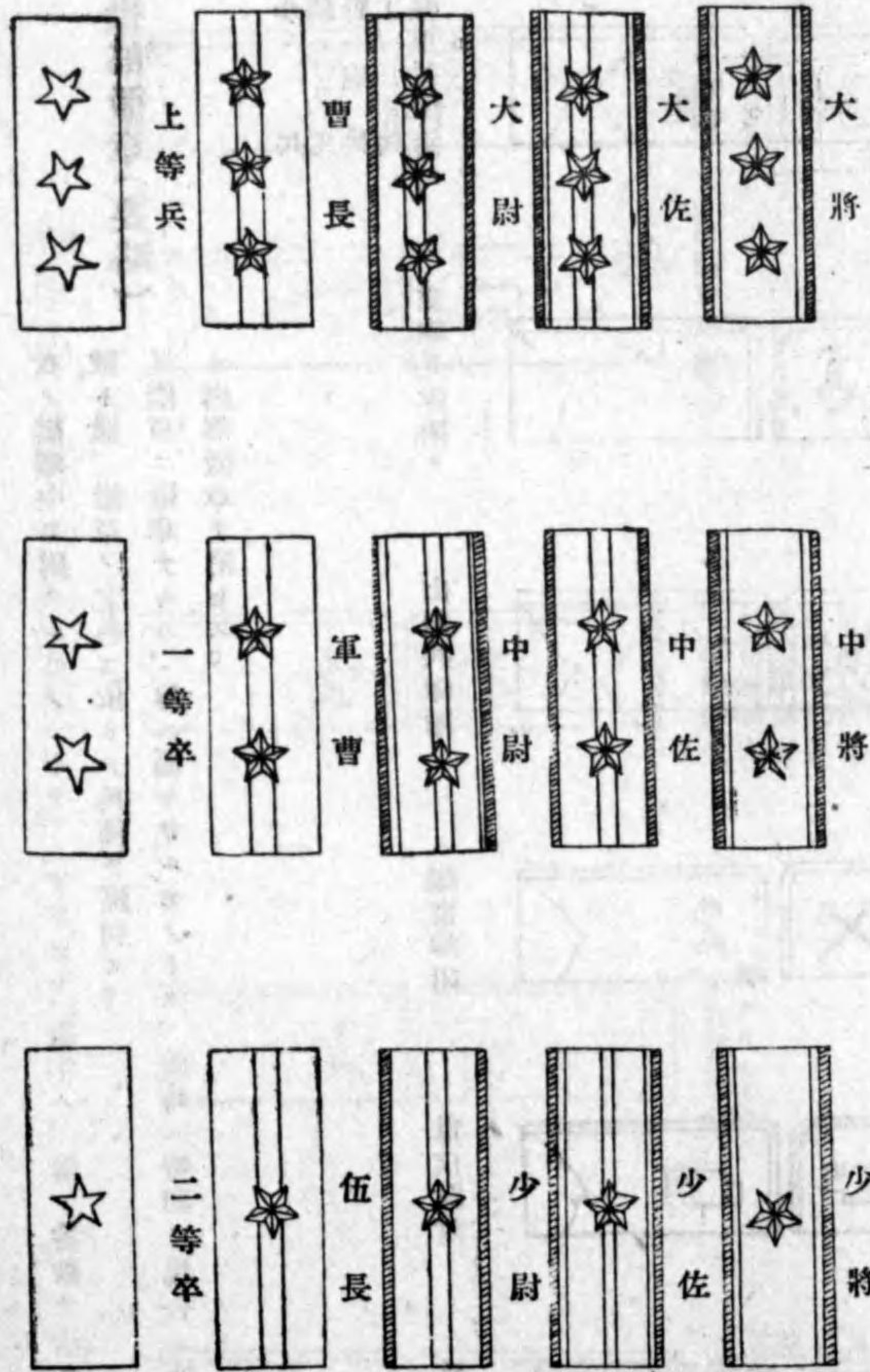
四 衣(軍衣及夏衣トモ)ノ襟章ハ、其ノ色ニ依リ、各兵種ノ區別ヲ明クナラシム、之ヲ定色ト云フ。但シ、將官ニハ襟章ナシ。(將官相當)

官ニハ之ヲ附ス定色ノ區分左ノ如シ。

憲兵科	黒色	歩兵科	緋色
騎兵科	萌黄色	砲兵科	黄色
工兵科	鳶茶色	輜重兵科	藍色
經理部	銀茶色	衛生部	深綠色
獸醫部	紫色	軍樂部	紺青色



三ノ圖四第



肩章

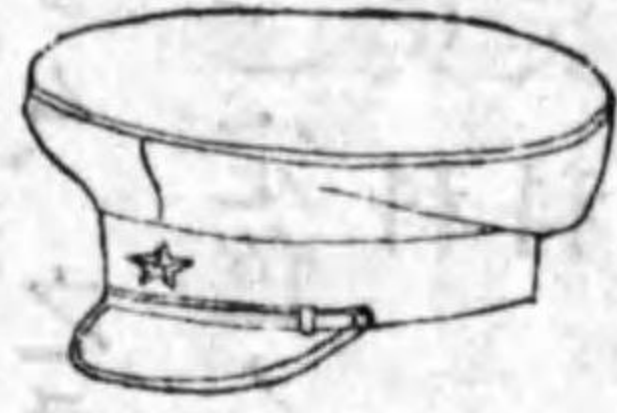
地質紺絨ニシテ線、星章ハ金色兵卒ノ星章ハ黄色  
 特務曹長、同相當官ノ肩章ハ少尉ト同一ニシテ星章ヲ闕ク一年志願兵ノ肩章ハ周  
 縁ニ赤色及白色ノ縷糸ヲ附ス

章前ノ帽



金色ニシテ  
 近衛師團ニ  
 屬セサル者  
 ハ凡テ星章  
 ノミトス

帽軍



茶褐絨ニ  
 シテ鉢巻  
 ハ紺色

第四圖ノ一

陸軍軍人服制及徽章

衣軍部樂軍



濃紺絨

衣軍



茶褐絨

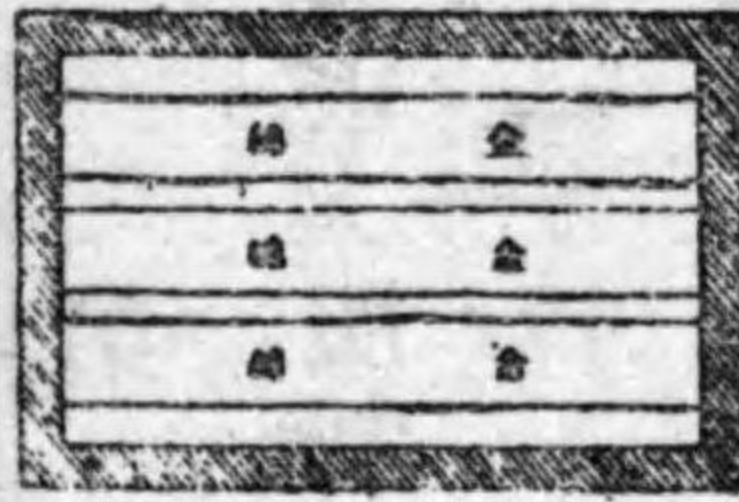
第四圖ノ二



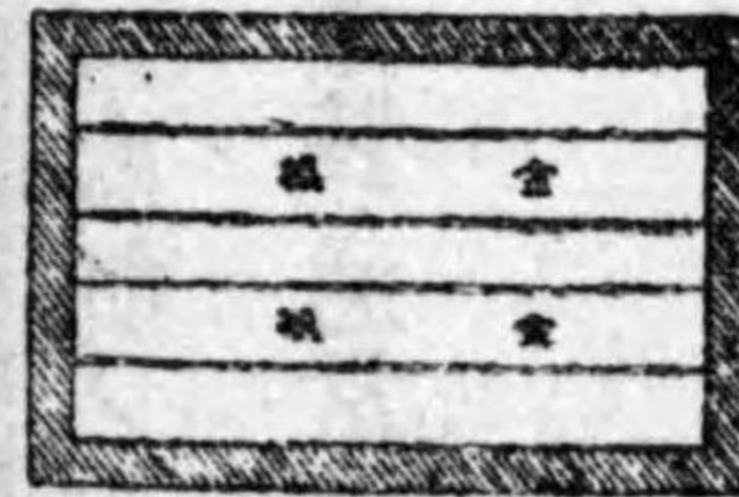




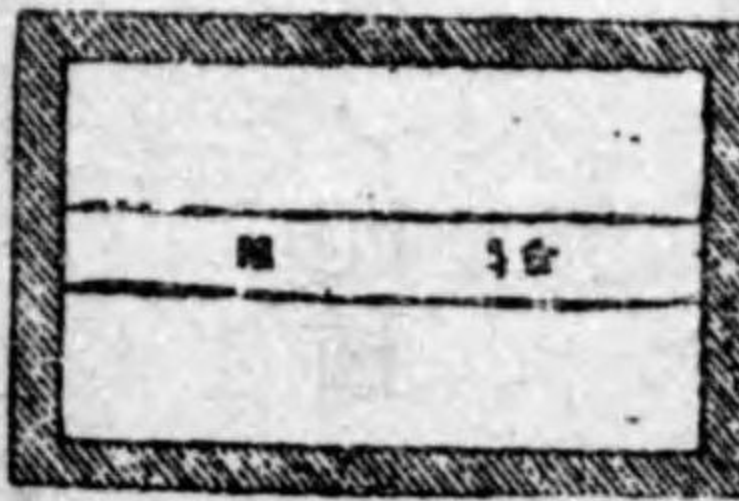
七ノ圖四第



將校同相當官



准士官



下士官

病衣徽章

地質緋絨、將校相當官ノ線章ハ、銀線トス。兵卒ノ病衣ニハ之ヲ附セス。

六ノ圖四第



磨工 磨工 卒長



伍長勤務上等兵 及看護長勤務上等看護卒



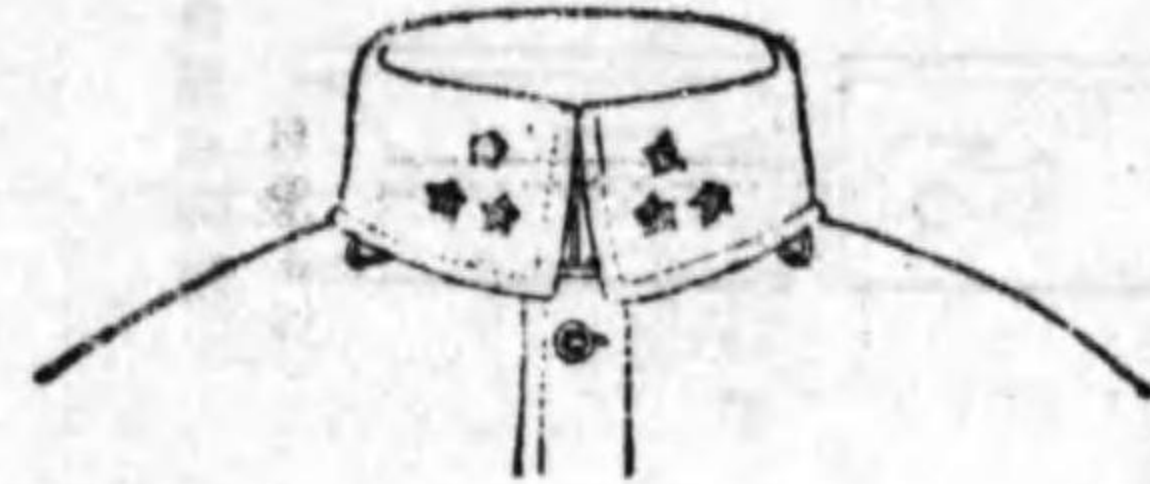
精勤章(精勤ノ兵卒)

臂章(要略)

執レモ紳絨ニシテ、左臂ニ附ス。但シ、精勤章ハ右臂トシ三個迄附セラル。低長勤務上等兵下部山形ハ金線、看護長勤務ノ下部山形ハ銀線

五ノ圖四第

官當相同官將

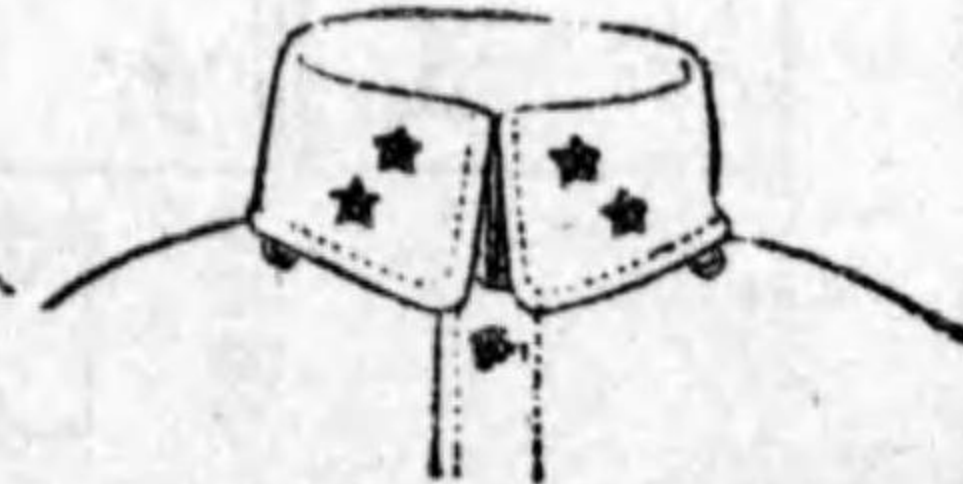
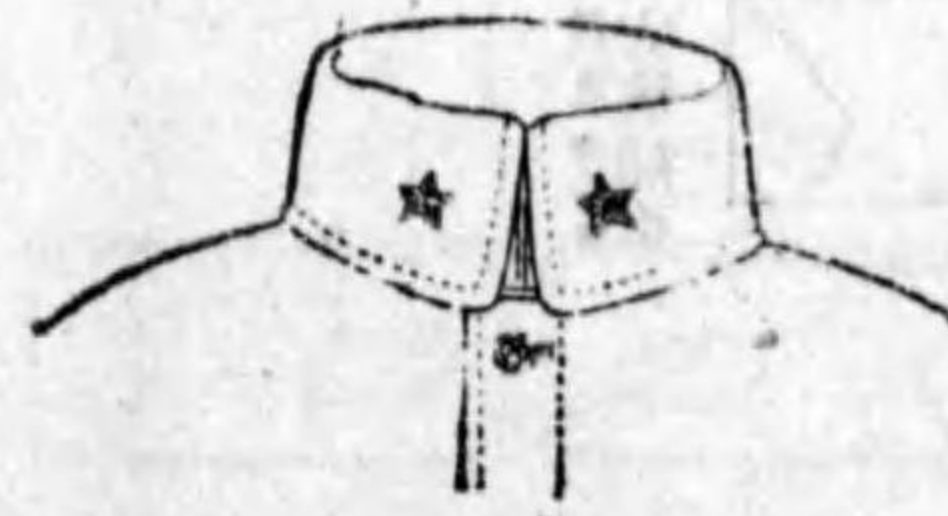


雨覆襟章

准士官ハ徽章ヲ附セス。

官當相同官尉

官當相同官佐





第三 海軍服制ノ大要

- 一 海軍ノ服制ハ、正装・禮装・通常禮装及軍装ノ四種ニ區分セラ  
ル。
- 二 服ハ一般紺色(夏衣袴ハ白色)ニシテ、准士官以上・下士・兵  
卒各其ノ製式ヲ異ニシ、袖章・襟章(夏衣ニ在リテハ肩章)又ハ  
臂章ニ依リテ、其ノ階級ヲ區分ス。又雨覆ノ襟ニハ將官ニハ  
三個、佐官ニハ二個、尉官(特務士官トモ)ニハ一個ノ櫻花章ヲ附ス。
- 三 兵種ハ帽・襟章・肩章ニ識別線ノ有無及其ノ色、若ハ臂章ニ依  
リテ標識セララル。
- 四 識別線ノ區分左ノ如シ。兵科ニハ識別線ナシ。

機關科	紫 色
軍醫科・藥劑科・看護科	赤 色
主計科	白 色
造船科・造機科	鳶 色
造兵科	鰕 茶 色
水路科	青 色
軍樂科	藍 色
船匠科	綠 色

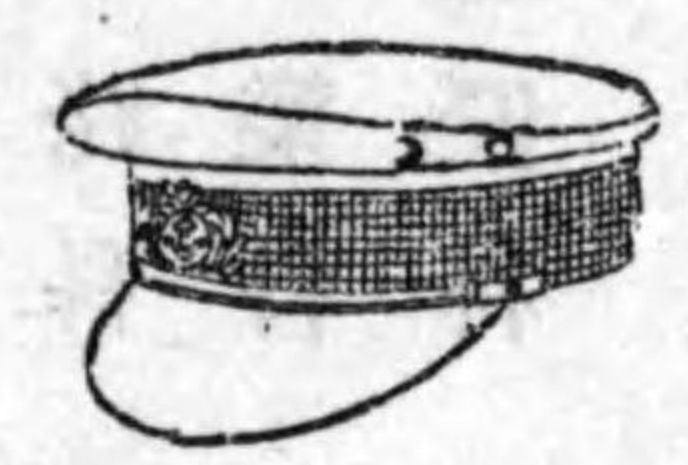


海軍軍人服制及徽章

軍帽 特務士官・候補生・准士官・下士官ノ帽ハ、略々將校ノ帽ニ同シクシテ黒毛織ヲ用ク、但シ、識別線アルモノハ之ヲ附ス。

一ノ圖五第

將校同當官前准士官以上



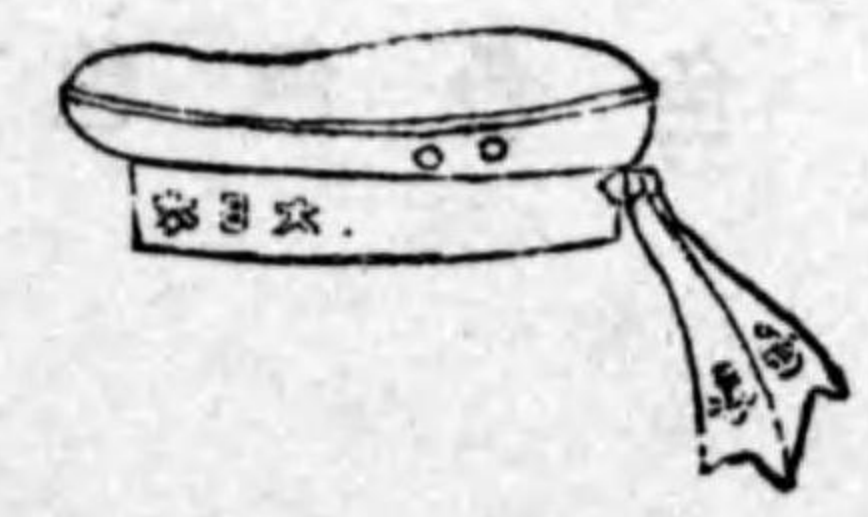
紺絨ニシテ鉢巻ニ黒毛織ヲ附ス。識別線アルモノハ黒毛織ノ上下ニ之ヲ附ス。

下士



兵

(軍樂兵ヲ除ク)

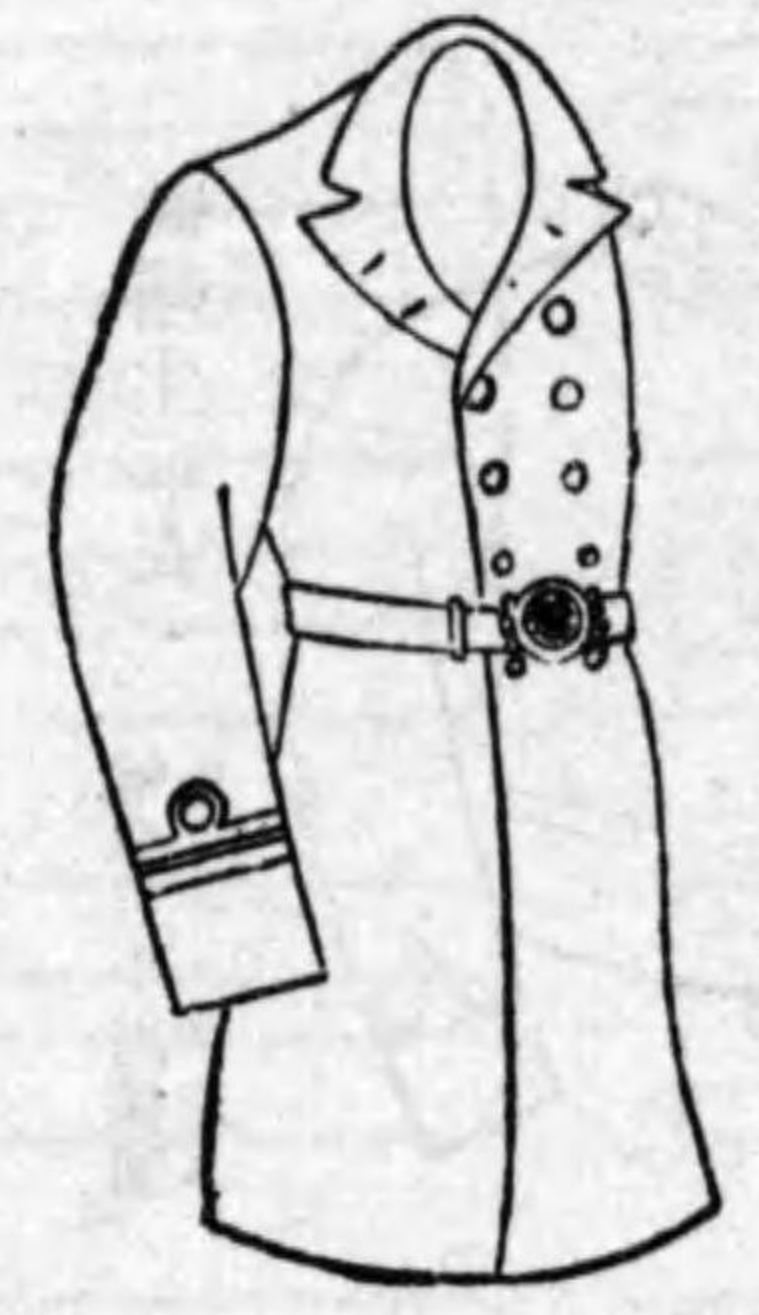


第五圖二

禮衣及軍衣 地質紺絨、軍樂科ハ赤色絨ニシテ制式異レリ

准士官以上ノ禮衣

袖章ハ金線トス。此圖ハ大尉ノモノヲ示ス。



准士官以上ノ軍衣(軍樂科ヲ除ク)

袖章ハ黒線トス。此圖ハ大將ノモノヲ示ス。

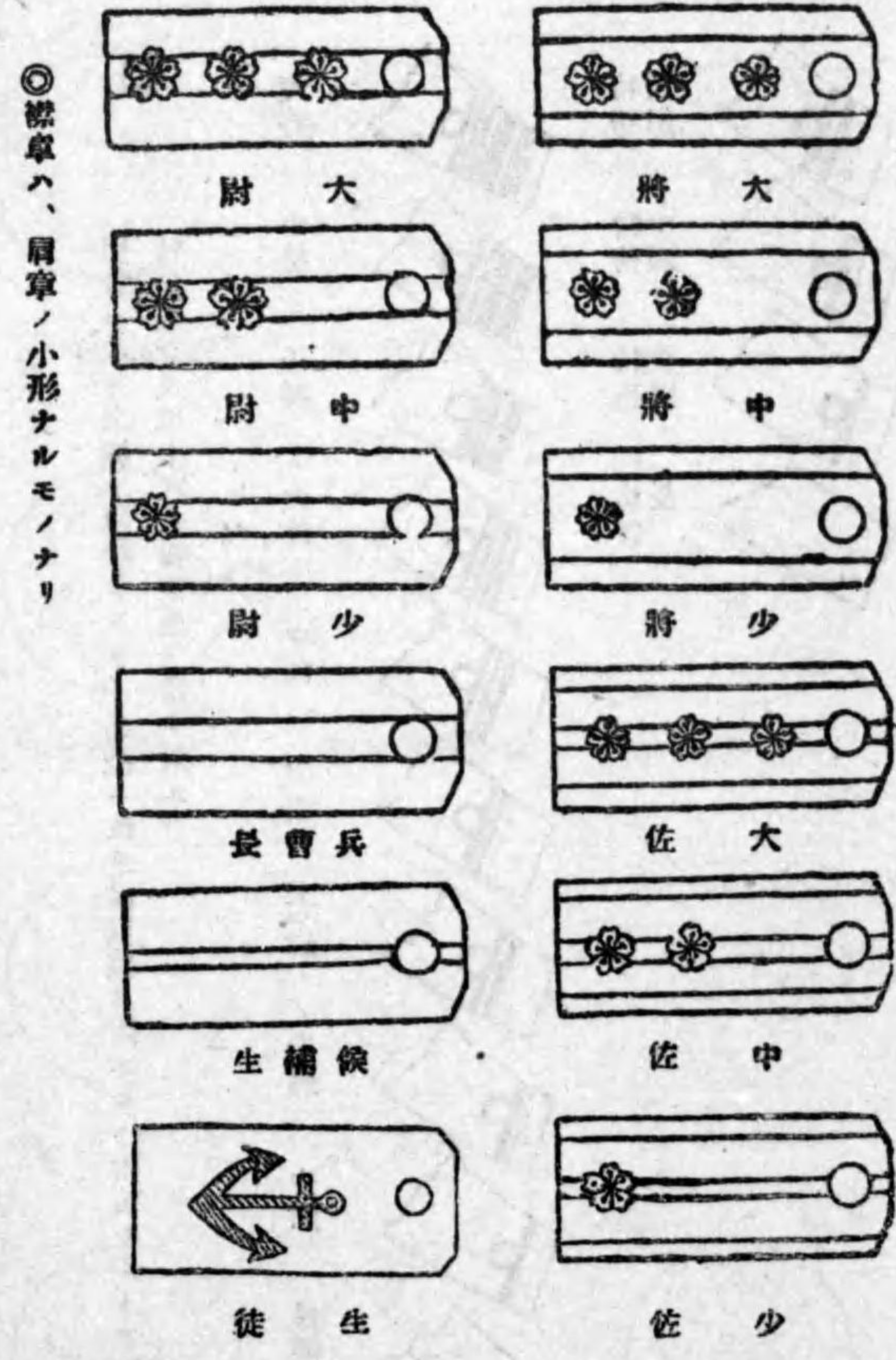


制規

百十三



四ノ圖五第

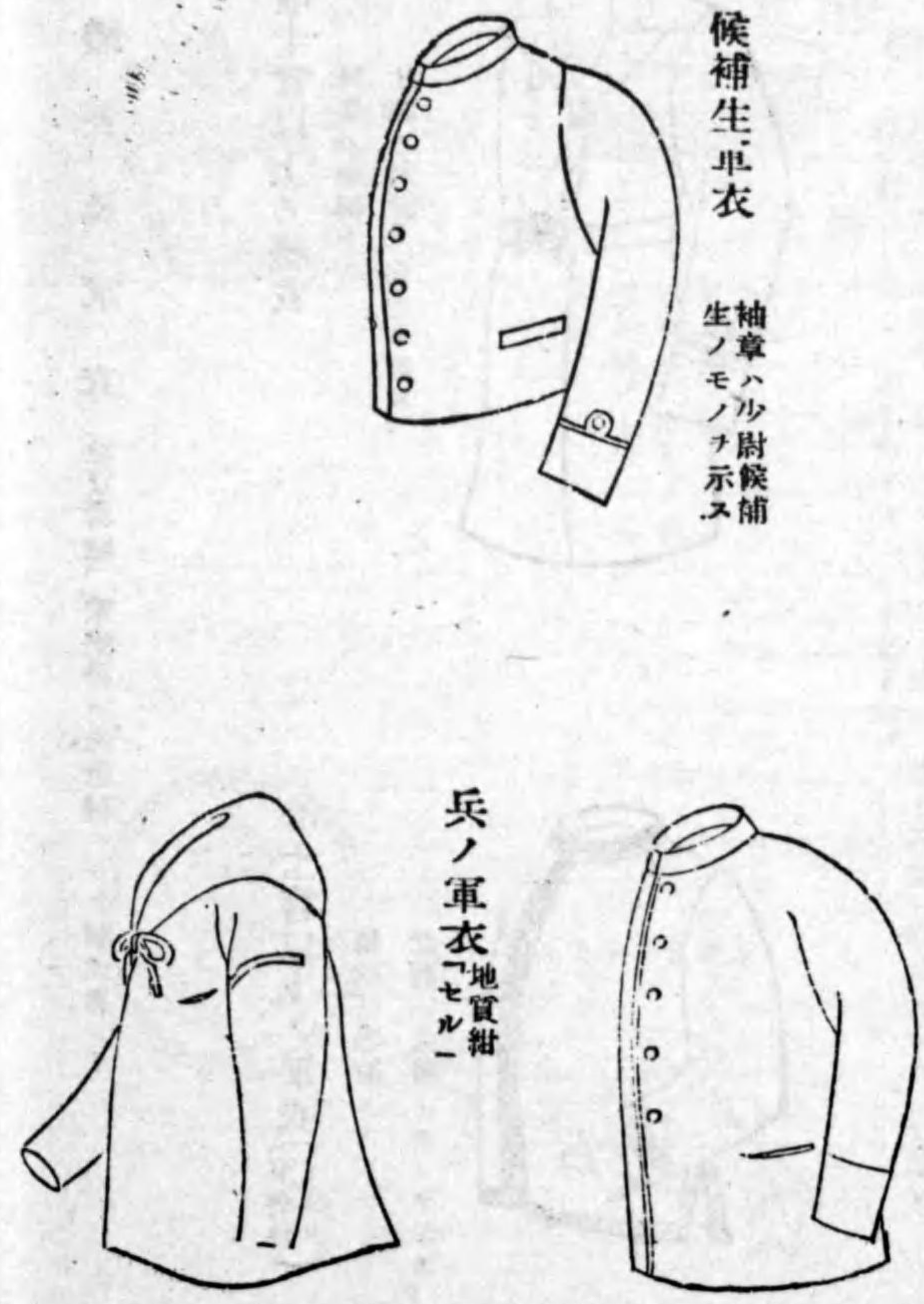


◎襟章ハ、肩章ノ小形ナルモノナリ

夏衣肩章

地質、紺絨ニシテ、中央ニ金色ノ繡ト銀色ノ櫻花ヲ附ス。繡別アルモノハ、兩側ニ之ヲ附ス。○特務士官ハ尉官ト同シキモ金色ノ繡ハ其幅尉官ノ二分一(尉官五分、特務士官二分五厘)トス。

三ノ圖五第



候補生軍衣

袖章ハ少尉候補生ノモノヲ示ス

兵ノ軍衣  
地質紺

下士官ノ軍衣



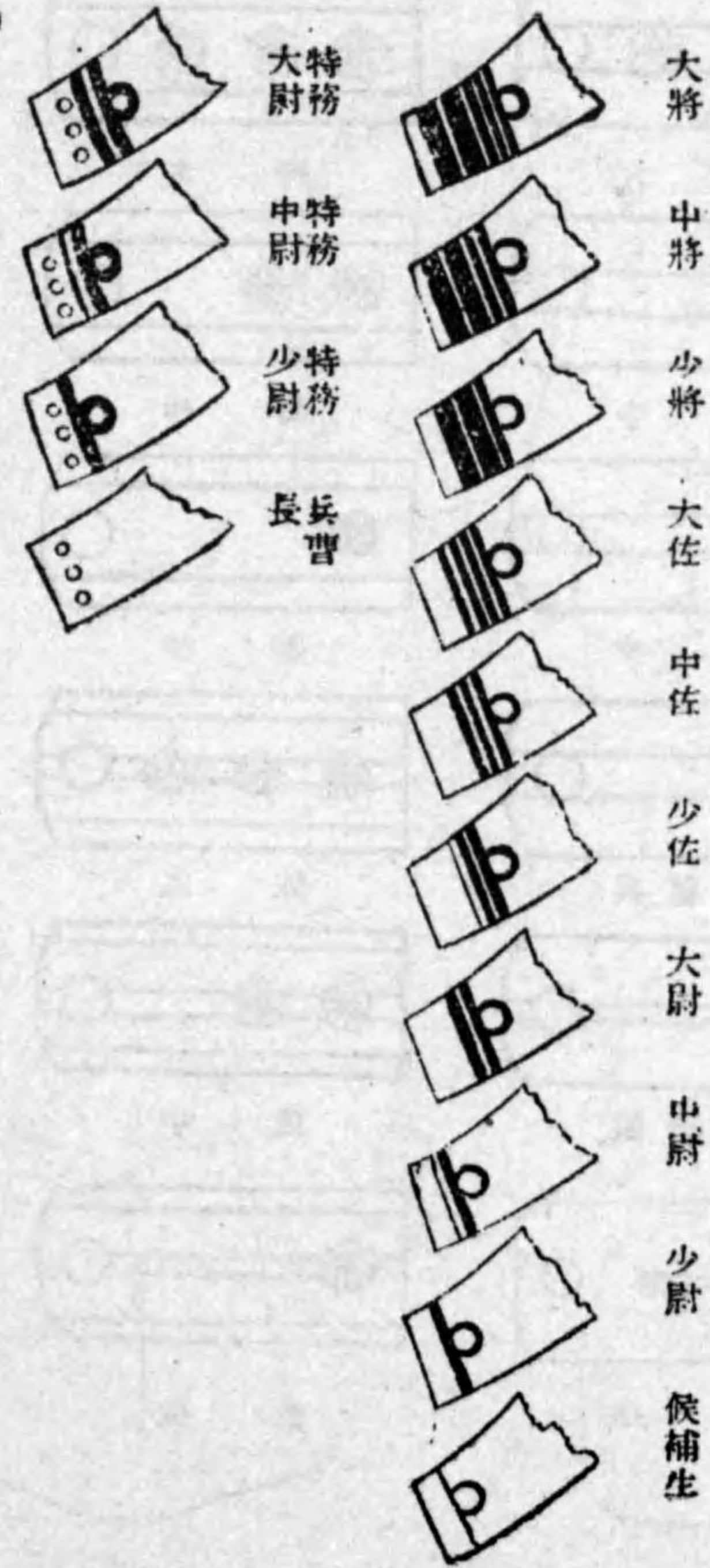
六ノ圖五第



臂章(要略)

軍衣ニハ赤色絨、夏衣ニハ黒色絨トス。○四等水兵及相當者ニハ臂章ナシ。○臂章ハ凡テ右臂ニ附ス。○善行章ハ下士官以下一線乃至五線トシ右臂ニ附ス、形狀陸軍ノ精勳章ニ似テ大ナリ。

五ノ圖五第



袖章

服装ニ依リ金線ト黒線トアリ。兵種ニ依リ識別線ヲ附スルト附セサルトアリ。特務士官及准士官ハ櫻花章三個ヲ附ス。



第四 勳章、記章

一 勳章ハ、國家ニ功績アル者ヲ、表彰スル爲ニ敍賜セラル。其ノ種類ニ、大勳位菊花章・金鷄勳章・旭日章・瑞寶章及寶冠章アリ。

二 大勳位菊花章ハ特ニ偉勳アル者ニ敍賜セラル。

三 金鷄勳章ハ、武功拔群ノ軍人ニ敍賜セラル。功一級ヨリ功七級ニ至ル。

三 旭日章ハ、勳一等ヨリ勳八等ニ至ル。

一等ニハ旭日桐花大綬章旭日大綬章ノ二種アリ。二等ヲ旭日重光章三等ヲ旭日中綬章四等ヲ旭日小綬章五等ヲ雙光旭日章六等

ヲ單光旭日章七等ヲ青色桐葉章八等ヲ白色桐花章ト稱ス。

四 瑞寶章ハ、勳一等ヨリ八等ニ至ル。

五 寶冠章モ、亦、勳一等ヨリ八等ニ至ル。

瑞寶章ハ、男女共ニ之ヲ賜ハリ、女子ニ賜ハル瑞寶章ノ綬ハ蝶結狀ナリ。寶冠章ハ、婦人ニノミ之ヲ賜ハル。

六 勳章ハ等級ノ異ナルニ從ヒ、佩用ノ式ヲ異ニス。

七 各種勳章ノ各等トモ、略綬アリ。本綬ハ、大禮服又ハ制服ニ佩用スルモ、略綬ハ、婦人ニ在リテハ白襟紋服ニ之ヲ佩用スルコトヲ得。

八 從軍記章ハ、戰役記念ノ表章トシテ、軍事勤務ヲ爲シタル



者ニ下賜セラレ。

九 勳章ト記章褒章ヲ併佩スルトキハ、勳章ヲ記章・褒章ノ上位ニ佩フルモノトス。又、外國勳章ハ、我勳章ノ次位ニ、外國記章ハ、我記章ノ次位ニ佩フルヲ法トス。

十 勳章記章及褒章ニ類似セルモノヲ、私ニ佩用スルヲ許サレズ。

社團ノ記章トシテ公ニ佩用シ得ルモノハ、我赤十字社徽章(有功章及  
各社員章)アルノミ。

第五 軍屬ノ讀法、宣誓

一 軍屬トハ、軍人ノ外ニ、陸海軍ニ従事スル文官及其ノ他ノ

人員ヲ云フ。

二 軍屬ハ、陸軍ニテハ、讀法ノ式ヲ行ヒ、海軍ニテハ宣誓ヲ爲シ、誠心ヲ本トシ、忠實ヲ盡シ、勤務ニ勉勵シ、服從敬禮ヲ守リ、信義ヲ重ンシ、言行ヲ慎ミ、質素ヲ尙フ等ノコトヲ誓フモノトス。

三 救護員モ、亦、戰時事變ニ方リ、陸軍ノ統轄下ニ在リテ、其ノ衛生勤務ヲ幫助スル場合ニ、讀法ノ式ヲ爲サシメラルルモノナリ。

第六 陸海軍刑法及懲罰令ノ大意

一 軍人、規則ニ違ヒ、罪科ヲ犯シタル者ハ、陸軍懲罰令・海軍



懲罰令・陸軍刑法及海軍刑法ニ照ラシテ處分セラル。

二 軍屬ニモ、陸海軍懲罰令及同刑法ヲ準用セラレ、軍人軍屬以外ニ於テモ、亦、軍事ニ關スル犯罪ハ、陸海軍刑法ヲ適用セラル。

第七 傷痕疾病ノ等差

- 一 陸海軍々人ノ傷痕疾病ハ、其ノ原因ニ依リテ等差アリ。
- 陸軍ハ一等症・二等症及三等症ニ分チ、海軍ハ第一種症・第二種症・第三種症及第四種症ニ分ツ。
- 二 陸軍ノ一等症及海軍ノ第一種症ハ、公務ニ原因スル傷痕疾病ヲ云フ。

陸軍ノ二等症及海軍ノ第二種症ハ、自然ニ發シタル疾病、又ハ、過失ニ依ル負傷ノ如キモノニシテ、陸軍ニテハ、一等症及三等症ニ屬セサルモノ、海軍ニテハ、第一種症・第三種症及第四種症ニ屬セサルモノナリ。

三 陸軍ノ三等症トハ、服役後、新ニ感染シタル花柳病、私闘ニ依ル傷疾、及、自ラ作りタル傷痕疾病ヲ云フ。

海軍ハ、陸軍ノ三等症ニ當ルモノヲ、第三種症ト第四種症ニ分ツ。即チ第三種症ハ、花柳病及不攝生ノ爲ニ罹リタル疾病ヲ云ヒ、第四種症ハ故意ニ身體ヲ傷ケ、又ハ、自ラ作りタル疾病ヲ云フ。



四 公務ノ爲ニ負傷シ或ハ發病シタルモノハ、現認證書又ハ其ノ他ノ證明書、若ハ口供書ヲ以テ、原因ヲ證明スルモノトス。

第八 傷痍疾病ニ依ル除役及恩給

一 軍人、傷痍疾病ノ爲ニ、服務ニ堪ヘサル者ニハ、准士官以上ニ在テハ休職・豫備役編入、又ハ退役アリ。下士以下ニハ、現役免除・豫備役後備役免除・補充兵役免除・永久兵役免除等アリ。

二 傷痍疾病ノ爲ニ、服役ノ一部若ハ全部ヲ免セラルニハ軍醫、先ツ診斷證書ヲ作ルモノトス。

三 陸海軍軍人、公務ニ基因シタル傷痍疾病ニ依リテ、服役ヲ除カルルトキハ、其ノ障礙ノ程度ニ從ヒ、終身、増加恩給(普通ノ恩給ニ加給セララルモノ)若ハ一時金ヲ給セラル。其ノ請求ニ要スル診斷證書ハ、軍醫之ヲ調製ス。

四 軍人、公務ニ基因シテ死歿シタルトキハ、遺族ニ扶助料ヲ給セラル。

第九 陸海軍ノ衛生材料

一 治療及衛生ニ關スル器械・藥物及消耗品ヲ總稱シテ、陸軍ニ於テハ衛生材料、海軍ニ於テハ治療品ト云フ。

二 衛生材料又ハ治療品ハ、用途ニ從ヒ、醫療・検査・調劑、及修



理用等ノ別アリ。

三 備品ト消耗品トハ、取扱ヲ區分スヘキモノトス。消耗品ハ使用ニ從ヒテ消耗スルモノナレトモ、常ニ、濫用ヲ戒ムヘキモノトス。

第二章 平時ノ勤務

第一 陸海軍ノ平時衛生機關

一 陸軍ノ平時衛生機關ハ、陸軍省醫務局ヲ以テ主腦トシ各軍各師團等ニ軍醫部アリ、各隊官衙學校ニ衛生部員ヲ屬シ、軍隊ノ所在地ニハ、衛戍病院ヲ置キ、其ノ他、軍醫學校・衛生材料廠等アリテ、軍隊ノ保健、患者ノ治療、衛生部ノ教育及衛

生材料補給等ノコトニ任ス。

二 海軍ノ平時衛生機關、亦、海軍省醫務局ヲ以テ主腦トシ、各鎮守府・防備隊・艦團等ニハ軍醫長以下、軍港ニハ海軍病院ヲ置キ、其ノ他、軍醫學校アリテ、醫務・衛生・教育及治療品補給ノコトニ任スルコト陸軍ニ同シ。

第二 陸海軍病院ノ平時勤務大要

一 平時ニ於ケル陸海軍病院勤務ノ大要ハ、戰時ノ病院ニ應用スルコトヲ得ヘシ。殊ニ、病室・手術室等ノ勤務ヲ然リトス。故ニ、救護員ハ、平時ニ於ケル陸海軍病院勤務ノ大要ヲ知ラハ、戰時ニ勤務ヲ命セラレタル場合、速ニ之ニ習熟スルコト



ヲ得ベシ。

二 衛戍病院ノ病室ハ、内科(精神病ヲ含ム)外科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚病花柳病科、及傳染病科ニ區分シ、小衛戍病院及分院ハ、適宜諸科ヲ併合ス。

三、海軍病院ノ病室ハ、第一部(外科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚病花柳病科ノ患者ヲ收容ス)第二部(内科患者ヲ收容ス)ニ分ツ。

四 衛戍病院ノ看護長、海軍病院ノ看護兵曹等、病室看護勤務ノ上級者ハ、部下ヲ指揮シテ、患者ノ看護、病室ノ清潔・整頓、其ノ他、各般ノ要務ニ任シ、且、物品ヲ管守ス。

五 病室附看護卒(海軍ニ在リテハ看護兵)ハ、上官ノ指揮ヲ受ケ、患者ノ看

護、體溫・脈搏・呼吸ノ測定・服藥・食餌・入浴ノ世話、排泄物ノ處置、病室内外ノ掃除、採光・換氣・煖室、其ノ他諸種ノ業務ニ服スルモノニシテ、日常行フヘキ事項概ネ左ノ如シ。

(1) 毎朝、病室・洗面所・廁等ヲ清潔ニス。

(2) 診療開始前、所要ノ準備ヲ整ヘ、診療ノ際、其ノ介輔ヲ爲ス。

(3) 處方録ヲ以テ、藥室ヨリ藥品ヲ受領ス。

(4) 傳票ニ依リ、炊事場ヨリ患者ノ食餌ヲ受ケ、食後、食器ヲ炊事場ニ返ス。

(5) 患者ノ爲メ、上官ヨリ指示セラレタル事項ハ、時ト方法



トヲ違ヘス之ヲ行フ。

(6) 患者ノ病狀ヲ知悉シ、變狀アルトキハ、速ニ上官ニ報告ス。

(7) 患者入院ノ報アルトキハ、寢具・臥床ヲ整へ、入院シタルトキハ、病衣ヲ著セテ臥床ニ就カシメ、患者ノ所屬部隊・等級・氏名等ヲ、臥床ノ掛札ニ記入シ、病床日誌・處方録ヲ整備ス。

退院シタルトキハ、被服・寢具ヲ整理シ、所要ノモノヲ洗濯又ハ消毒ニ附ス。

(8) 患者ノ散歩ノ監視ヲ命セラレタルトキハ、其ノ時間場處

等、所命ニ違ハサル如クス。

(9) 患者ノ入浴ノ世話ヲ爲シ、通常、等級順ニ入浴セシム。

(10) 患者ノ排泄物中、検査ヲ受クヘキモノハ、容器ニ氏名等ヲ記シ、其ノ他ハ所定ノ場所ニ棄却シ、消毒ヲ要スルモノハ、法ノ如ク之ヲ行フ。

(11) 病症増進又ハ危篤ノ患者ハ、特ニ靜肅周到ニ看護ス。

(12) 患者、遺言セムトスルトキハ、速ニ上官ニ報告ス。

(13) 死亡者アルトキハ、軍醫ノ確認ヲ經タルノ後、屍ヲ屍室ニ移シ、淨拭シテ白布ヲ覆ヒ、票札ニ所屬部隊・等級・氏名及死亡ノ年月日時ヲ記シ、受領者來ルマテ之ヲ護ル。



- (14) 故ナク人員ノ減シタルトキ、又ハ患者中規則ヲ犯シ、若ハ之ヲ犯サムトスルモノアルトキハ、速ニ上官ニ報告ス。
- (15) 面會者及附添看護者ハ、規定ニ從ヒ、懇ロニ之ヲ取扱フ。
- (16) 宿直ノ者、殊ニ不寢番ニ當リタル者ハ、所命ノ事項ヲ服行スルノ他、深ク患者狀況ニ注意シ、交代ノ際ハ申繼ヲ確實ニス。
- (17) 看護日誌ニハ、必要ノ事項ヲ漏ナク記入ス。
- (18) 常ニ火氣ニ注意シ、消火ハ規定ニ從ヒ、確實ニ之ヲ行フ。

第三章 戰時ノ勤務

第一 陸軍ノ戰時衛生機關

- 一 戰鬪隊ニハ、隊附衛生部員アリ。戰鬪ニ方リ、戰線ノ患者ニ、第一救護ヲ施ス。
- 二 衛生隊ハ、戰鬪ニ方リ、繃帶所ヲ開設シ、且、擔架又ハ車輛ニテ患者ヲ運搬ス。
- 三 野戰病院ハ、繃帶所又ハ戰線ヨリ來ル患者ニ完全ノ手當ヲ加フ。
- 四 戰場ノ後方地域ニハ兵站部アリ。兵站部ノ衛生機關ニハ、野戰豫備病院・兵站病院・患者療養所等アリテ、前方ヨリ來ル患者及兵站管區内ノ患者ヲ收療シ、患者輸送部アリテ、後送スヘキ患者ヲ輸送ス。



多數ノ患者ヲ輸送スルニハ、病院列車・患者列車・病院船及患者輸送船等アリ。

野戰衛生材料廠ハ、衛生材料ノ補給ヲ掌ル。

五 各衛生機關ノ業務ヲ統理スル爲、師團ニハ師團軍醫部長、兵站ニハ兵站軍醫部長、軍ニハ軍軍醫部長ノ諸官アリ。之ヲ總轄スルハ、大本營ノ野戰衛生長官ナリ。

六 留守部隊ノ衛生機關中、衛戍病院ハ、戰地還送患者ヲ收療シテ、其ノ業務擴大シ、必要ニ應シテ、分院又ハ轉地療養所ヲ開設ス。

第二 海軍ノ戰時衛生機關

一 海戰ノ際、其ノ患者ハ艦内ニテ治療シ、艦隊ニ隨從スル病院船ハ、時機ヲ見テ、傷病者ヲ收療シ、且、之ヲ海軍病院ニ後送ス。

二 軍艦ニハ軍醫長以下、衛生治療ニ關スル各員アリ、艦隊ニハ艦隊軍醫長、聯合艦隊ニハ聯合艦隊軍醫長アリテ之ヲ統理シ、大本營ノ海軍醫務部長ハ、海軍全般ノ醫務ヲ總轄ス。

第三 陸軍ノ戰時衛生勤務ノ大要

其一 入院患者ノ取扱

一 入院

一 病院ニハ、患者ノ入退事務ヲ取扱ハシムル爲メ、發著部ヲ



置ク。

二 入院患者ハ、先ツ發著部ニ收容シ、添附ノ書類及物品ヲ受領シ、病床日誌(傷票)ニ照シテ、入院患者名簿ニ記入シ、傷病ノ種類・輕重ニ從ヒ之ヲ病室ニ配當ス。

三 患者ノ攜帶品、及、病室ニ於テ病衣ヲ著セシメタル患者ノ軍衣袴ハ、之ヲ整理保管シ、患者ノ身邊ニ不用ナル私物、及、重症患者ノ所持セル金錢貴重品ハ、成ルヘク、患者ノ面前ニ於テ品種・員數ヲ點檢シ、患者附託品表ヲ添へ、主計ニ交付ス。

二 病室

一 患者、病室ニ來ルトキハ、病床日誌(傷票)ニ依リ、病名・隊

號・等級・氏名ヲ名簿ニ記入シ、病床ニハ病床票ヲ掲ケ、病床日誌・處方録ヲ整理シテ要件ヲ記入シ、食餌ノ種類ハ炊事場ニ通報ス。病名ノ決定及改正ノ際ハ之ヲ發著部ニ通報ス。

二 衛戍病院ノ入院患者ハ、病衣ヲ着用セシムルモ、戰地病院ノ入院患者ハ病症上必要アル者、若ハ衣袴ノ甚シク汚染セルモノノ外、軍服ノママトス。病衣ヲ着用セシメタル者ノ軍服ハ、之ヲ發著部ニ送附ス。

三 治癒退院者、若ハ後送ニ適スル患者アルトキハ、其ノ名簿ヲ作り、病院長ノ認證ヲ經テ、發著部ニ通報ス。患者死亡シタルトキハ、發著部ニ通報シ、屍體ハ屍室ニ移ス。遺物ノ取



扱ニハ特ニ注意ヲ要ス。

四 軍紀・風紀ノ取締、病室ノ區分、診療及看護、火災ノ豫防衛  
生等ニ關スル病院ノ規定ハ、職員自ラ之ヲ守リ、且、患者ヲ  
シテ之ヲ守シム。

### 三 退院

- 一 治愈退院者アルトキハ、發著部ハ、病室ヨリ受ケタル通報  
ニ依リ、入院患者名簿ニ要件ヲ記入シ、退院券ヲ交附シ、患  
者附託品表ニ照シテ、其ノ物品ヲ引渡シ、受領ノ證明ヲナサ  
シメ、所屬部隊、若ハ最寄ノ兵站司令部ニ到ラシム。
- 二 後送患者ニハ、患者送狀・病床日誌・處方録・患者附託品表ヲ

添附スルヲ要ス。後送患者ノ護送ヲ命セラレタルモノハ、途  
中、遺漏ナク注意ヲ加へ、到着病院ニ於テ、其ノ受領ノ證明  
ヲ受クルモノトス。

### 四 轉地療養、歸郷療養

- 一 衛戍病院ノ患者ニシテ、轉地療養ヲ要スル者ハ、衛戍病院  
ノ分院又ハ轉地療養所ニ送り、傷痍疾病未タ全治セサルモ、  
在院加療ヲ要セサルニ至リタルモノハ、歸郷療養ヲ爲サシ  
ム。

#### 其二 死者ノ處置

- 一 死者ハ、兵站管區内ノ各病院・患者療養所等ニ在リテハ、最寄兵站  
司令部ニ、鐵道輸送中ニ在リテハ、下車地若ハ兵站司令部アル地ノ



停車場司令部ニ交付シ、船舶輸送中ニ在リテハ、上陸地若ハ寄港地ノ兵站司令部ニ交付シ、已ムヲ得サル場合ニハ、水葬ニ付スルコトヲ得ルモノナリ。

二 衛戍病院ニ於テ死亡シタル者ノ屍體ハ、本人所屬ノ部隊、若ハ補充隊等ニ交付シ、其ノ部隊遠隔セルトキ又ハ交付スヘキ部隊ナキトキハ、其ノ病院ニ於テ處置シ若ハ遺族ニ引渡ス。

三 傳染病者ノ屍體ハ、爲シ得ル限り、其ノ死亡シタル部隊ニ於テ火葬シ、若、他ニ交付スル場合ニアリテハ、所要ノ死後處置ヲ行フ。

四 死者ノ携帶品、被服、遺言書、金錢貴重品等ハ、屍體ヲ交付スヘキ部隊ニ引渡シ、受領書ヲ徴ス。

其三 患者ノ輸送

一 陸路輸送ニ要スル運搬具ハ、患者ノ状態、道路及其ノ距離等ノ關

係ニ依リ、擔架患者車、患者自働車、其ノ他地方運搬具ヲ選用シ、場合ニ依リ、急造擔架輜重車若ハ地方車輛等ヲ應用ス。

二 徒歩患者ハ、適宜集團センメ、擔送車送患者ノ輸送ト共ニ之ヲ護送ス。

三 鐵道輸送ニハ、病院列車、患者列車ヲ用キ、又軍用列車ノ一部或ハ輕便鐵道ニ依リ、或ハ普通ノ列車ニ託ス。

四 病院列車ハ、患者輸送ニ專用スル爲、特ニ構造セルモノニシテ、主トシテ重症者ヲ輸送シ、時宜ニ依リ、傳染病者及精神病者ノ輸送ニ充ツルコトアリ。所要ノ衛生員及衛生材料ヲ整備シ、各車輛ハ其ノ側面ニ、白地赤十字ヲ描キ之ヲ標識ス。

五 患者列車ハ、普通鐵道用車輛ニ臨時設備ヲ行ヒ、若ハ其ノ儘、患者ノ輸送ニ應用スルモノニシテ、主トシテ輕症者ノ輸送ニ充ツ。



- 六 船舶輸送ニハ、病院船若ハ患者輸送船ヲ用ク。病院船ハ、重症者、傳染病者、精神病者等ヲ輸送スル爲ニ、特別ノ設備ヲ施シ、所要ノ衛生員及衛生材料ヲ整備シタルモノナリ。
- 七 患者輸送船ハ、普通運送船ノ歸港ニ際シ、臨時ニ患者ヲ搭載スルモノニシテ、輕症者ノ輸送ヲ目的トス。
- 八 傳染病者ハ、成ルヘク輸送セサルヲ法トス。若シ輸送ヲ要スルトキハ、所要ノ豫防消毒法ヲ實施シ、又、精神病者ノ輸送ニハ、患者及護送者ニ危險ナカラシムル機、特ニ周密ナル注意ヲ加フルモノトス。
- 九 患者輸送ニハ、鐵道船舶等ニシテ、衛生員ノ屬シ居ル場合ヲ除クノ外、護送者ヲ附シ、患者送狀、病床日誌、處方録、患者附託品表等ヲ添附ス。

- 十 患者ノ乘車、乘船ハ、重症者ヲ先ニシ、輕症者ヲ後ニシ、其ノ下車ハ輕症者ヲ先ニシ、下船ハ重症者ヲ先ニスルヲ例トスレトモ、精神病患者ハ孰レノ場合ニ在リテモ最後ニ於テス。
- 十一 收容病院ニ於テ、患者ヲ受領シタルトキハ、添付ノ書類ヲ點檢照合シ、受領ノ證明ヲナシ、患者ノ著用セル患者被服ノ種類、員數ヲ點檢シテ、其ノ代品ヲ返付ス。

第四 海軍ノ戰時衛生勤務ノ大要

- 一 戰時ニ於ケル海軍病院ノ衛生勤務ハ、平時ノ要領ニ從テ之ヲ行フコト、戰時ニ於ケル衛戍病院ニ同シ。



### 第四編 人體ノ構造及其ノ作用

#### 第一章 人體外部ノ名稱

人體ヲ大別シテ、頭部・軀幹及四肢ノ三部トス。(第六圖)

#### 第一 頭部

頭部ハ頭蓋ト顔面トニ分ツ。

頭蓋ハ、其ノ前方ヲ前頭(前額)、上方ヲ顱頂、後方ヲ後頭、兩側ヲ顳顬ト云フ。

顔面ニハ、眼・鼻・頰・唇・頤及顎アリ。

頭蓋ト顔面トノ境界ノ兩側ニハ耳翼アリ、中央ニ外聽道口ヲ有ス。

#### 第二 軀幹

軀幹ヲ大別シテ、頸部・胸部・腹部及骨盤ノ四部トス。而シテ胸部以下ノ後面ヲ背部ト云フ。

頸部ハ、其ノ前面ヲ前頸、後面ヲ項ト云フ。

胸部ハ、胸廓ノ前面ニシテ、中央ヲ胸骨部ト云ヒ、上ハ頸窩ニ、下ハ心窩(胃窩)ニ連ル。胸骨部ノ兩側ヲ前胸部(肋骨部)ト云ヒ、肋骨部ノ最上部ニ於テ、横ニ隆起スル部ヲ鎖骨部ト云フ。鎖骨部ノ上下ニ淺窩アリ、上ノ淺窩ヲ鎖骨上窩、下ノ淺窩ヲ鎖骨下窩ト云フ。左右肋骨部ノ中央ニハ乳房アリ。左乳房ト胸骨トノ間ニシテ、第三乃至第五肋骨ニ當ル部ヲ心臟部ト云フ。而シテ



乙圖六第

14 肘  
20 下  
26 足根部

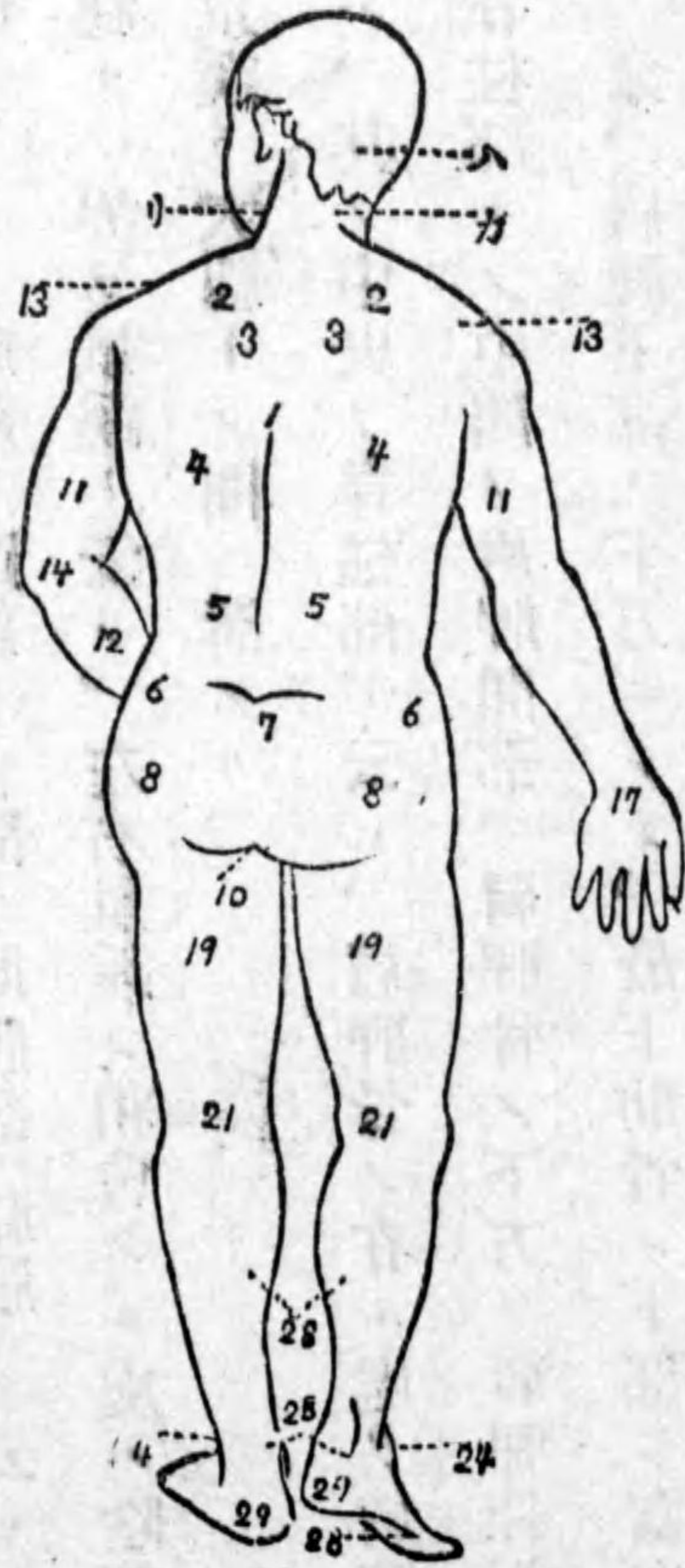
15 手根  
21 膝  
27 足背

16 手掌  
22 膝蓋部  
23 足趾

17 手背  
23 腓腸

18 指  
24 外趾

19 大趾  
25 內趾



1 脊柱部  
8 腎部

2 肩胛骨部  
9 跨部

3 肩胛間部  
10 會陰

4 肩胛骨下部  
11 上膊

5 腰部  
12 前膊

6 腸骨部  
13 肩頭

7 薦骨部

甲圖六第

オ 前頸  
ソ 鎖骨部  
ウ 側腹

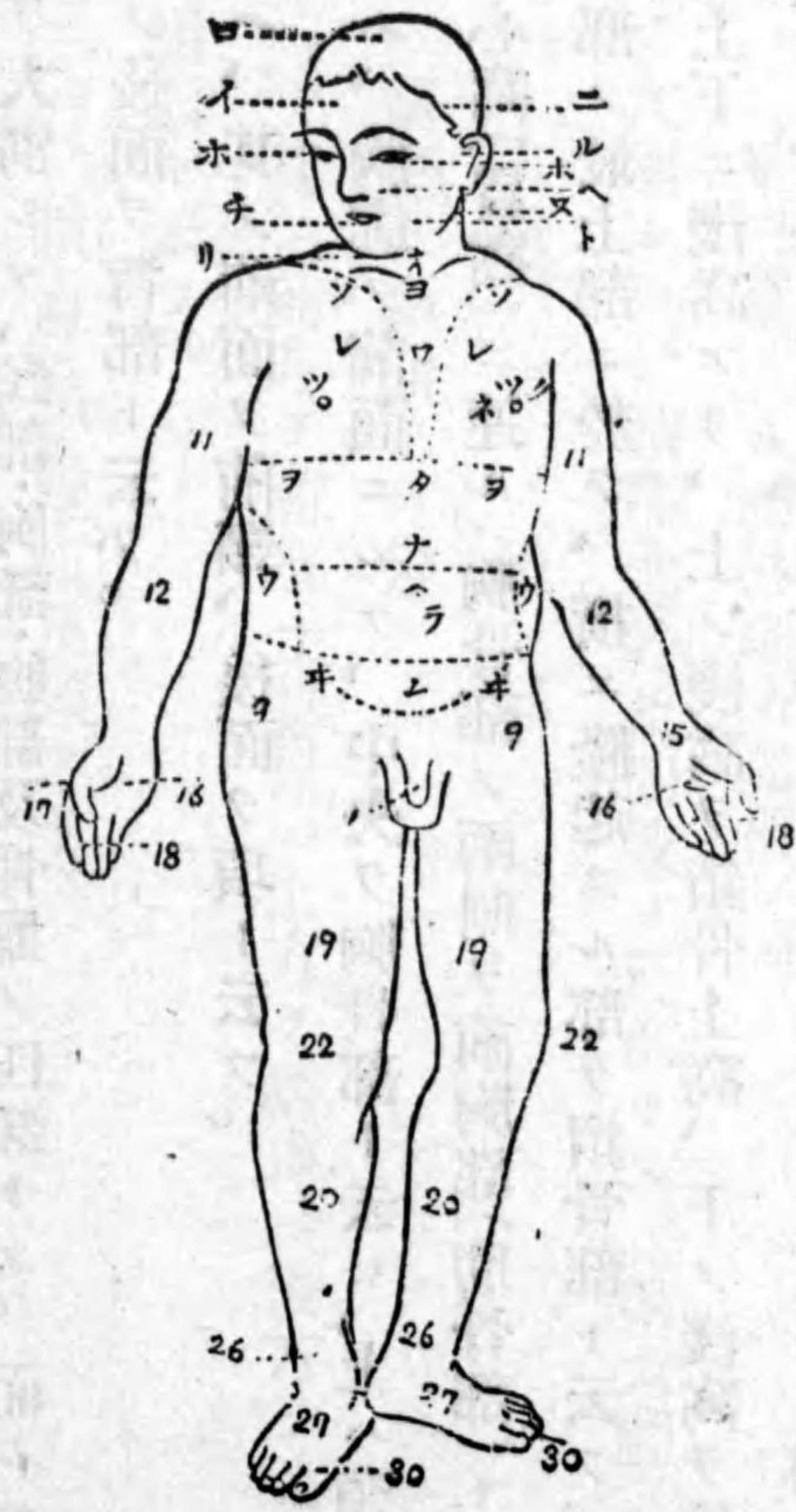
ワ 胸骨部  
ツ 乳房  
キ 鼠蹊

カ 項  
ネ 心臟部  
ノ 陰部

ヨ 頸窩  
ナ 上腹  
ネ 季肋部

タ 心窩  
ヲ 中腹  
ク 側胸部

レ 前胸部  
△ 下腹



イ 前頭  
ト 頰

ロ 額頂  
チ 唇

ハ 後頭  
リ 頤

ニ 頸窩  
メ 頸

ホ 眼  
ル 外聽道口

ヘ 鼻



肋骨部ノ最下部ヲ季肋部ト云ヒ、胸部ノ兩側ヲ側胸部ト云フ。  
 腹部ハ、上腹部・中腹部及下腹部ニ分チ中腹部ニ臍部アリ。腹部  
 ノ兩側ニシテ、胸部ト跨部トノ間ヲ側腹部(脇腹)ト云ヒ、腹部  
 ト大腿トノ界ヲ鼠蹊ト云フ。左右鼠蹊ノ相會スル處ハ陰部ニシ  
 テ、鼠蹊ト大腿トノ間ニ溝アリ。  
 背部ハ、其ノ中央ヲ脊柱部ト云ヒ、肩胛骨ノ在ル處ヲ肩胛骨部  
 之ト脊柱部トノ中間ヲ肩胛間部、肩胛骨ノ下方ヲ肩胛骨下部ト  
 云フ。又、肩胛下部ノ下方ニシテ、最下肋骨ノ下部ニ當ル處ヲ  
 腰部ト云フ。  
 骨盤ハ、腹部ト腰部トノ下ニシテ、其ノ兩側ヲ腸骨部ト云ヒ、

後面ノ中央ヲ薦骨部ト云フ。薦骨部ノ下ニシテ、兩側ノ太リテ  
 肉多キ處ヲ臀部ト云フ、臀ハ前方ニ於テ跨部ニ移ル。又、肛門  
 ト陰部トノ中間ヲ會陰部ト云フ。  
 其他、軀幹ニ於テ、便宜上、部位ニ内臓ノ名ヲ附スルコトアリ。  
 喉頭部・心臓部・胃部・脾臓部・腎臓部・膀胱部・迴盲部・S字狀部ノ如  
 キ是ナリ。

第三 四肢

四肢ヲ大別シテ、上肢及下肢トス。  
 上肢ヲ分テ上膊・前膊及手ノ三部トス。  
 上膊ハ、肩胛關節ニ依リ、軀幹ノ上部ニ連ル。其ノ接際ノ圓キ



處ヲ肩頭ト云ヒ、肩頭ノ下面、窪ミテ毛アル處ヲ腋窩ト云フ。  
 前膊ノ上膊ニ連ル部ヲ肘、手ニ連ル部ヲ手根(腕)ト云フ。  
 手ハ手掌・手背ノ二面アリ、五指ヲ具フ、之ヲ拇指・示指(食指)  
 中指・環指(無名指)及小指ト云フ。  
 上肢ノ拇指側ヲ橈骨側(外側)、小指側ヲ尺骨側(内側)ト云フ。  
 下肢ヲ分テ、大腿(上腿)・下腿及足ノ三部トス。  
 大腿ハ、上ハ跨關節ニ依リテ骨盤ニ連リ、下ハ膝關節ニ依リテ  
 下腿ニ連ル。此ノ膝關節ノ在ル部ヲ膝ト云フ。膝ノ前面ノ隆マ  
 レル部ヲ膝蓋ト云ヒ、後面ノ窪ナル部ヲ膝窩ト云フ。  
 下腿ハ、其ノ後側ノ太リタル處ヲ腓腸ト云ヒ、其ノ下部ノ内側

ニアル突起ヲ内踝、外側ニアル突起ヲ外踝ト云フ。而シテ足ニ連  
 ル部ヲ足根ト云フ。

足ハ足背・足蹠ノ二面及踵(跟骨部)アリ、五趾ヲ具フ、之ヲ第一  
 趾(拇趾)・第二趾・第三趾・第四趾及第五趾(小趾)ト云フ。  
 下肢ハ、跗趾側ヲ内側、小趾側ヲ外側ト云フ。

第二章 人體ノ諸組織

人體ヲ構成スル組織ハ、硬組織、軟組織及液體組織ノ三種トス。  
 硬組織ニ屬スルモノハ、骨・軟骨及齒牙ナリ。軟組織ニハ、皮膚・  
 粘膜・漿膜(漿液膜)・結締織・脂肪織・筋・血管・神經及内臓之ニ  
 屬シ、液體組織トハ血液及淋巴ヲ云フ。  
 組織ハ細胞ト間質トヨリ成ル。然レトモ其ノ性狀ハ組織ノ異ナル



ニ從ヒテ差アリ。細胞ハ微小ノ生體ニシテ、肉眼ヲ以テ見得ヘカラ  
ス。

### 第三章 皮膚・粘膜・漿膜・結締織及脂肪織

#### 第一 皮膚

皮膚ハ、全身ノ外面ヲ被包シ、鞏韌ニシテ彈力ヲ有シ、身體ヲ  
保護シテ觸覺ヲ掌リ、體溫ヲ調節スルノ用ヲナス。

第七圖



- 1 表皮
- 2 真皮
- 3 皮下結締織
- 4 乳嘴
- 5 血管
- 6 神經
- 7 皮脂腺
- 8 毛囊
- 9 汗腺
- 10 毛幹
- 11 毛根

皮膚ハ表皮・真皮及皮  
下結締織ヨリ成リ、汗  
線・皮脂線・毛及爪(爪  
甲)等亦皮膚ニ屬ス。

(第七圖)

表皮ハ、薄ク透明ニシテ血管ナク感覺ヲ有セス、常ニ表面ヨリ剝落シ  
テ止ムコトナキモ、内部ヨリ新生シテ其ノ缺ヲ補フ。若、擦傷等ニ依  
リテ表皮ヲ失フモ、速ニ新ナル表皮ヲ生ス。又、皮膚ノ常ニ壓迫ヲ受  
クル處ハ、表皮肥厚ス手掌足蹠等ニ生スル胼胝(癩)及鶏眼ノ類是ナリ。  
真皮ハ、表皮ノ下ニ位シ、纖維質ヨリ構成セラレ、鞏韌ニシテ伸縮性ヲ  
有シ數多ノ小乳嘴(乳頭)ヲ備ヘ、中ニ血管及神經ノ末端ヲ包藏ス。  
皮下結締織ハ、真皮ノ下層ヲナシ、其ノ質、粗ニシテ脂肪ヲ包含シ、皮膚  
ノ移動ヲ容易ナラシム。  
汗腺及皮脂腺ハ、共ニ真皮中ニ在リテ、皮膚ノ表面ニ排泄口ヲ有ス。  
汗腺ハ汗ヲ出シテ體溫ヲ放散シ、皮脂腺ハ皮脂ヲ出シテ皮膚ヲ滑ナ  
ラシム。

毛ハ、其ノ部位ニ依リ、或ハ長大ナルアリ、或ハ纖細ナルアリ、

皮膚、粘膜、漿膜、結締織及脂肪織



手掌・足蹠ニ於テハ之ヲ生スルコトナシ。毛ヲ毛根及毛幹ノ二部トス、毛根トハ眞皮中ニ存在スル部ヲ云ヒ、毛幹トハ表皮ノ表面ニ出タル部ヲ云フ。

爪ハ、指趾末端ノ背面ニ存スル角質様ノモノニシテ、感覺ヲ有セス、指頭ヲ保護シ、且、其ノ力ヲ助ク。

### 第二 粘 膜

粘膜ハ、身體ノ外部ニ開ケル、孔口及腔内（眼球・鼻腔・喉頭・口腔・咽頭・食道・胃・腸・膀胱等）ノ表面ヲ被ヘルモノニシテ、其ノ中ニ粘液腺アリテ、常ニ粘液ヲ出シ、表面ヲ滑ナラシム。

粘膜ハ、薄クシテ血管ニ富ム、故ニ、健康ナル人ノ粘膜ハ鮮紅

ナリ。

### 第三 漿膜漿液膜

漿膜ハ、胸腔・腹腔等ノ内面及内臓ノ外面ヲ被ヘル薄キ膜ニシテ、其ノ表面ハ、常ニ少量ノ漿液ヲ出シ、其ノ面ヲ滑ナラシメ、腔内ニ存スル内臓ノ移動ニ依リテ起ル摩擦ヲ減セシム。

### 第四 結締織

結締織ハ、纖維様ノ組織ヨリ成リ、體內ノ諸器・諸組織ヲ連繋シ、或ハ空所ヲ充填スルモノニシテ、皮膚・内臓等ハ、總テ結締織ニ依リ其ノ位置ヲ固定セラルルモノナリ。

結締織ハ、身體ノ部位ニ依リテ、其ノ形狀ヲ異ニシ、軟ク粗ニシテ網狀ヲナスモノアリ、例ヘハ皮下結締織ノ如シ。或ハ確ク密ニシテ膜狀



又ハ索狀ヲナスモノアリ例之ハ靱帶腱等ノ如シ。

第五 脂肪織

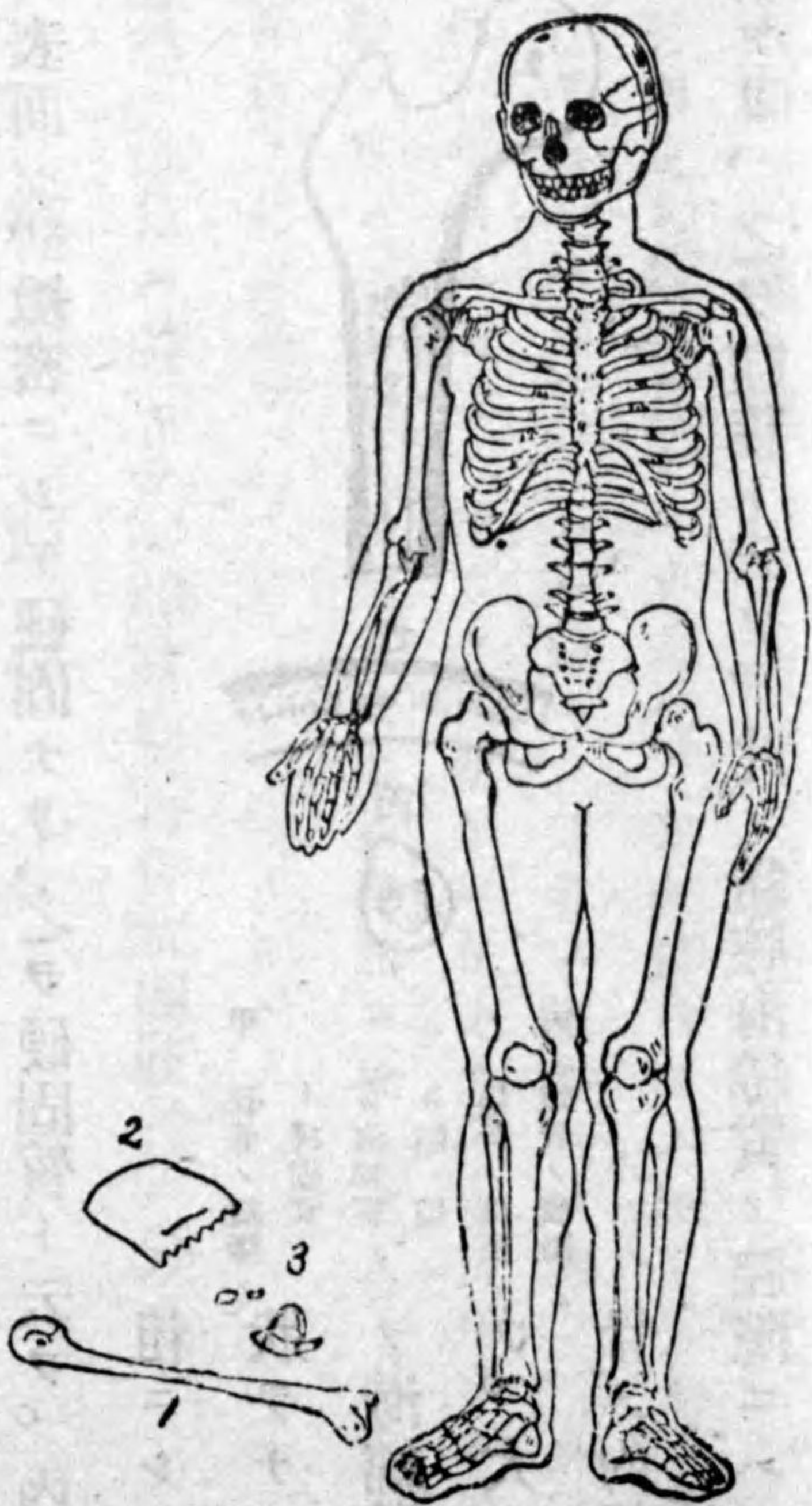
脂肪織ハ、結締織ノ粗ナル網眼内ニ脂肪ヲ充セル組織ニシテ殊ニ皮下ニ多ク存シ、深部諸器ノ外力ニ依ル損傷ヲ防キ及體温ノ放散ヲ妨ク。身體ノ肥エタルハ脂肪織ノ増加シタルナリ。

第四章 骨及軟骨

第一 骨

骨ハ、其ノ質、硬固ニシテ帶黃白色ヲ呈シ、僅ニ彈力ヲ具ヘ、各骨、相聯リテ一體ヲナス、之ヲ骨骼ト云フ。骨骼ハ、軟部ヲ支ヘテ身體ノ基礎ヲナス。(第八圖)

第八圖



1 長骨

2 扁平骨

3 短骨

骨ハ、其ノ形狀ニ隨ヒテ長骨(管狀骨)・扁平骨及短骨ノ三種ニ分ツ。長骨トハ、四肢ニアル管狀ノ骨ヲ云ヒ、扁平骨トハ、專



ラ頭部・軀幹ニアル扁平ニシテ薄キ板狀ノ骨ヲ云ヒ、短骨トハ頸部・軀幹及手足ニアル短小ノ骨ヲ云フ。

骨ノ表面ハ、緻密ニシテ硬固ナリ、之ヲ硬固質ト云フ。内部ハ、粗ニシテ海綿



腔洞アリ、之ヲ髓腔ト云フ。此ノ髓腔海綿質ノ腔隙ニハ、柔軟ナル物質ヲ充タス、之ヲ骨髓ト云フ。骨髓ハ多クハ暗赤色ニシ

第九圖  
甲 長骨ノ縱斷  
1 硬固質  
2 海綿質  
3 髓腔  
乙 扁骨ノ横斷  
丙 短骨ノ横斷

テ血球ヲ新生ス。(第九圖)

骨ノ表面ハ、薄キ膜ヲ以テ被ハル、之ヲ骨膜ト云フ。

骨ハ、有機質ト無機質トヨリ成ル。有機質ハ膠ノ如キモノニテ、骨ニ弾力性ヲ與ヘ、無機質ハ石灰鹽ニシテ、骨ニ硬固性ヲ與フ。此ノ二質ノ比例ハ、年齢ニ隨テ一様ナラス、幼年ニ在リテハ兩質殆ント等シキモ、年齢ヲ重ヌルニ隨ヒ、無機質次第ニ増加ス、故ニ老人ハ、小兒ニ比スレハ骨折ヲ起シ易シ。

骨ヲ其ノ部位ニ隨ヒテ、頭骨・軀幹骨及四肢骨ニ分ツ。

第一 頭骨

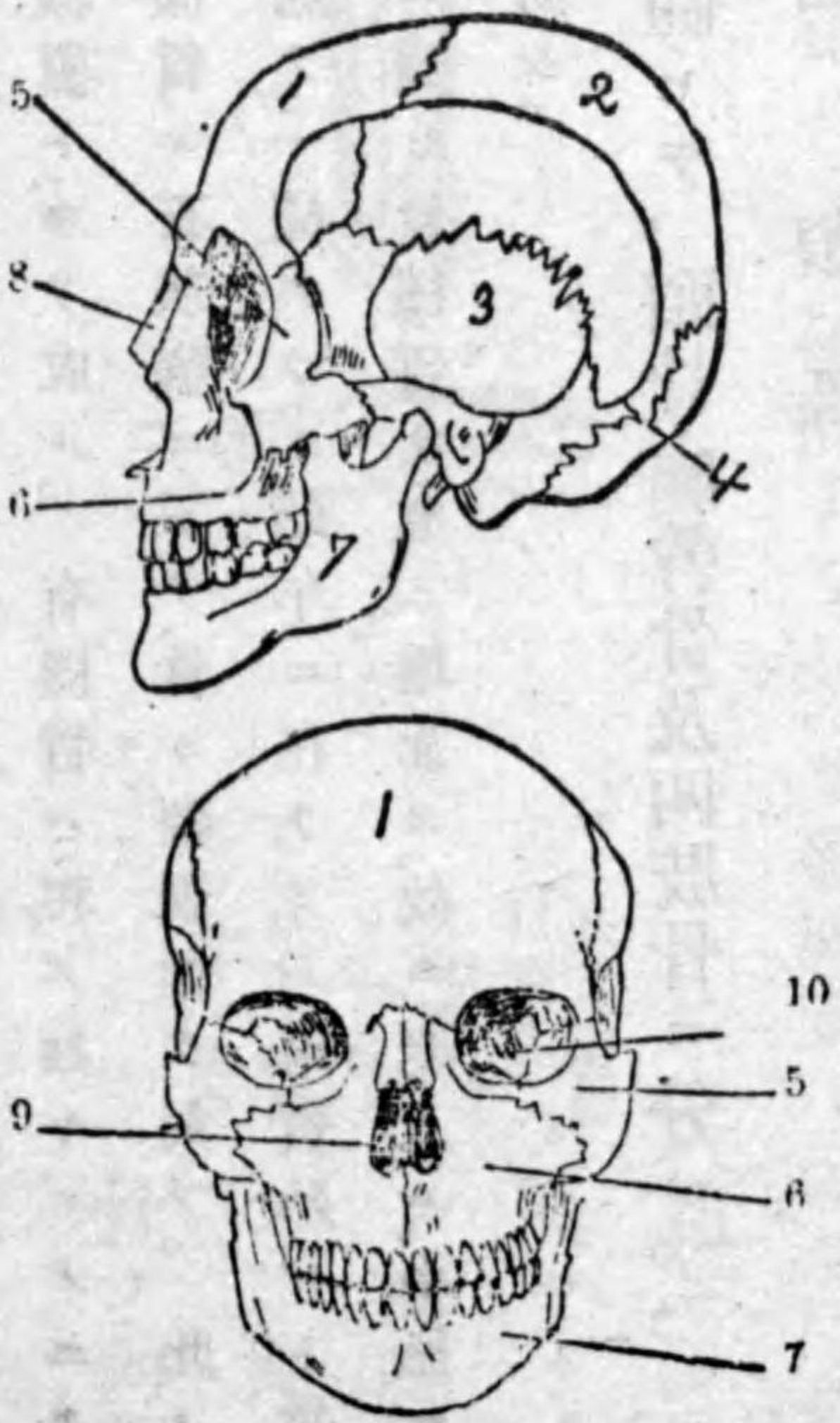
頭骨ハ、其ノ數二十二個ニシテ、頭蓋及顔面ヲ形成ス。大人ノ頭骨ハ、其ノ緣概ネ鋸齒狀ヲ呈シ、交互相嵌入ス、之ヲ骨縫合



ト云フ。(第十圖)

小兒ノ頭骨ハ、骨質軟弱ニシテ、各骨相會スル處ハ、未タ骨質ヲ生セズ、單ニ骨膜ヲ以テ連ルカ故ニ、腦髓ノ搏動ヲ、皮外ヨリ之ヲ目擊或ハ觸

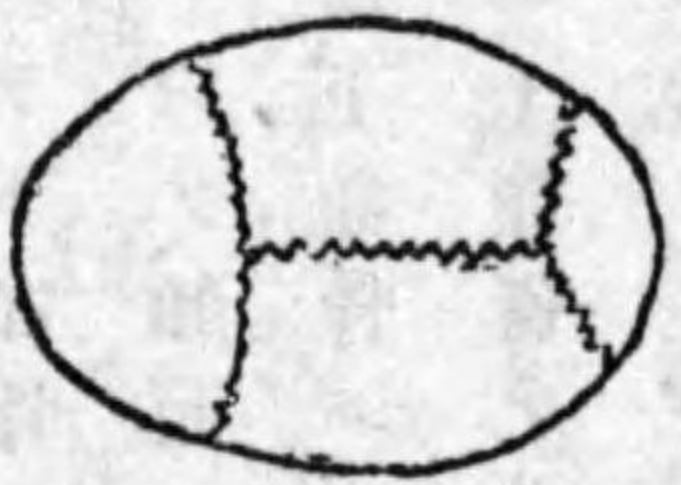
- 第十圖
- 1 前頭骨
  - 2 顛頂骨
  - 3 顛顚骨
  - 4 後頭骨
  - 5 額骨
  - 6 上顎骨
  - 7 下顎骨
  - 8 鼻骨
  - 9 鋤骨及鼻腔
  - 10 眼眶窩



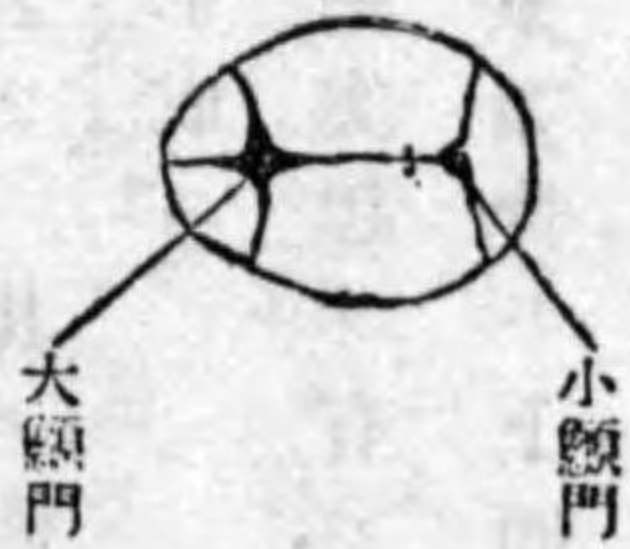
知シ得ヘシ、之レヲ額門ト云フ。前頭ト顛頂トノ間ニ在ル額門ハ最モ大ナリ(大額門)。額門ハ第一年中ニ(大額門ハ第十五ヶ月頃閉鎖ス。

(第十一圖)頭蓋骨ハ、總數八個アリ。其ノ前部ニ在ルヲ前頭骨、上部ノ兩側ニ在ルヲ左右ノ顛頂骨ト云フ。顛頂骨ノ兩下部ニ在ルヲ左右ノ顛顚骨、後部ニ在ルヲ後頭骨ト云フ。以上ノ六骨ハ、頭蓋穹窿ヲ形成シ、頭蓋底面ハ、二骨ヨリ形成セラル、其ノ前部ニ在ルヲ篩骨、後部ニ在ルヲ蝴蝶骨ト云フ。

第十圖 頭蓋骨



大人



小兒

頭蓋骨ハ、互ニ相聯リテ一大腔ヲ形成シ、腦髓ヲ包藏ス、之ヲ頭蓋腔ト云フ。前頭骨ニハ、前頭竇(前額竇)アリ。顛顚骨ニハ、聽器アリ。後頭骨

ニハ、大後頭孔ト名クル大孔アリテ、脊髓ヲ通ス。其ノ他頭蓋底面ニハ、數多ノ小孔アリテ、腦神經及血管ノ通路トナル。



顔面骨ハ、總數十四個アリ。顔面ノ中央ニ在ルヲ、左右ノ上顎骨ト云ヒ、上顎骨ノ上外側ニ在ルヲ、左右ノ額骨、上方ニアルヲ左右ノ鼻骨、下方ニアルヲ下顎骨ト云フ。其ノ他、左右ノ淚骨、甲介骨、口蓋骨及一個ノ鋤骨ヲ以テ、顔面ヲ形成ス。

上顎骨及下顎骨ハ、齒槽突起ヲ有シ、其ノ遊離縁ニ齒牙ヲ植ユ。又、上顎骨ニハ上顎竇アリ。下顎骨ハ下顎關節ニ依リテ頰顙骨ニ聯リ、咀嚼及言語ニ當リ、上下、且、微シク前後左右ニ動ク。

顔面ノ諸骨ハ、相聯リテ眼窩、鼻腔及口腔ヲ形成ス。

眼窩ハ、眼球ヲ容レ、其後部ニ小孔アリテ頭蓋腔ニ通シ、視神經ノ通路トナル、之ヲ視神經孔ト名ク。眼窩ノ上壁ハ前頭骨、下壁ハ上顎骨及額骨、内壁ハ篩骨及淚骨、外壁ハ前頭骨及額骨ヨリ成ル。

鼻腔ハ、鋤骨ニ依リ左右ニ別レ左右共ニ前後ニ開口シ、又、口蓋孔ニ依

リテ口腔ニ通シ、側部ニ鼻淚管アリテ眼窩ニ通ス。鼻腔ノ上部ハ篩骨、外壁ハ淚骨及上顎骨、下壁ハ上顎骨及口蓋骨ヨリ成ル。

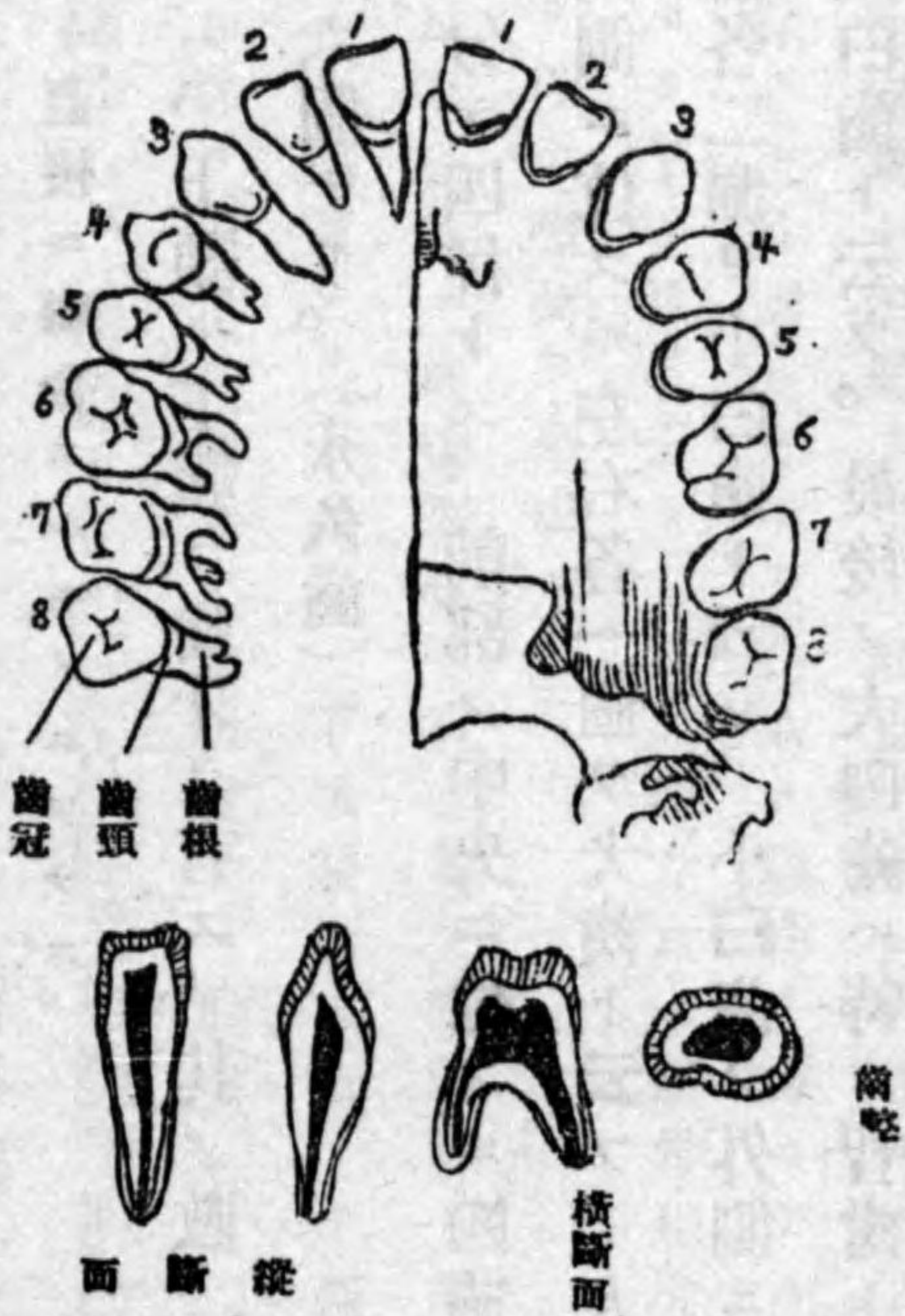
口腔ハ、上顎及口蓋骨ニ依リテ上部ヲ形成セラレ、側部ハ上下兩顎骨ニ界シ、底面ハ舌骨ヲ包メル軟部ヨリ成リ舌ヲ有ス。但シ、舌骨ハ他ノ骨格ト直接ニ聯合スルモノニアラス。

口腔ニハ、上顎ト下顎ニ齒牙ヲ有ス。其ノ數、大人ニ於テハ上下各十六個ナリ。(永久齒)

齒牙ヲ分テ四種トス。前部ノ中央ニ位スル四個ヲ門齒ト云ヒ、其ノ兩側ニ位スル左右各一個ヲ犬齒ト云フ。犬齒ノ外側ニ位スル左右各二個ヲ小白齒ト云ヒ、小白齒ノ外側ニ位スル左右各三個ヲ大白齒ト云フ。最後ノ大白齒ハ特ニ智齒ト稱ス(第十二圖)



第二十圖  
上顎ノ齒列



七八箇月ノ頃ヨリ發生シ、七八歳ノ頃ニ至リ、漸次脱落シテ、永久齒之ニ代ル。  
 齒牙ハ、白色長圓形ニシテ質堅シ、其ノ口内ニ露レタル部ヲ齒冠ト云

小兒時ニ於テハ、齒牙ノ數、上下各十個ニシテ、大白齒ヲ闕ク、之ヲ乳齒ト云フ。乳齒ハ、生後

ヒ、齒槽ニ符入シタル部ヲ齒根ト云ヒ、齒冠ト齒根トノ中央ニシテ、少シク絞窄セラレ、且、一部齒齦ニ被ハレタル部ヲ齒頸ト云フ。齒根ノ數ハ、門齒及犬齒ニアリテハ、一個ナレトモ、小白齒及智齒ハ、一個或ハ二個ヲ有シ、第一及第二大白齒ハ、上顎ニ在リテハ三個、下顎ニ在リテハ二個ナリ。  
 齒牙ノ内腔ヲ齒腔ト云フ。齒髓アリテ血管及神經ヲ通ス。

其二 軀幹骨

軀幹骨ハ、其ノ數五十七個アリ。別テ脊柱・胸廓及骨盤トス。脊柱ハ、軀幹ノ背部中央ニ位スル骨柱ニシテ、數處ニ於テ彎曲シ、身體ノ本幹ヲナス。脊柱ヲ大別シテ、眞椎及假椎トス。眞椎ハ更ニ分テ三部トス、上部ノ七個ヲ頸椎（第一乃至第七頸